

放送人の会

No.97
2023.02.10
改訂版0217

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel & fax 03-3221-0019 Mail info@hosojin.jp
発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野 勉 編集長 菅野高至、鈴木典之、逸見京子、田中典子、松尾羊一、事務局 深尾隆一 須齋恵美子

新年にあたって、
あらためて「放送人」とは何か、考えてみた

放送人の会 会長 今野 勉

村上陽一郎編「専門家とは誰か」

鎌倉市の出版社が出している「かまくら春秋」という雑誌が、縁あって、毎号送られてくる。連載の一つに、近藤誠一さん担当の「地球の本棚」という書評欄がある。

今年の一月一日号で取り上げられていた本は、村上陽一郎編「専門家とは誰か」(晶文社)である。この書評の中に次のような言葉があった。

「二〇一一年の東日本大震災では、原子力、地震、津波いずれの分野でも世界トップクラスの研究がなされていた日本であの被害を防げなかったのは、『分野と分野の間の連携ができていなかった』から、つまり隣の領域に口出しする習慣がなかったからである。

専門家は本来異なる分野の専門家と対話し、自分を相対化できなければならない。従って専門家をこの制約から解放することが、現代におけるリベラル・アーツの重要な役割なのである(藤垣裕亨)」

専門家としての放送人

私たち「放送人」と自称する者は、放送の専門家なのだとして、この書評の言葉を受けてみてみると、どうなるか、考えてみた。

私たちが「放送人」というとき、ドラマや報道や芸能などの番組を作る人(技術、美術を含む)

めての広い意味での番組制作者、そして、番組を企画し編成する人たちも放送人として考えている。放送人の中にも、それぞれの専門性がある。

どうせん、仕事の上では互いに連携しあっているし、話しあってもいい。しかし、この話しあいは、近藤さんのいう「隣の領域に対する口出し」ではない。

近藤さんがイメージしているのは、仕事上でどうせんのごとく行われる日々の連携・打合せのことではない、と受けとめる必要があるようだ。近藤さんの言う「隣の領域への口出し」とは「仕事上では本来必要のないことなのだ、しかし、何か、事故や事件や災害など、非常事態が起きた時に正しく対応するために必要な情報の交換」ということなのだ、理解しておこう。

視野の狭さの反省

理解しておこうと、勿体をつけてみたのは、それ以外の、あるいは以上の、と言ってもいいような、別の何かがあるのでは、と、思ってしまったからである。

隣り合った領域の人々との話しあいというものは、何か特別の時のためというよりは、むしろ、日々の私たちの専門的な仕事をするうえで、役立つからだ、私は考えるからである。私は、今、宮沢賢治についてのドキュメンタ

リー第2弾を制作中で、先日も琵琶湖から山越えて京都までロケをしてきたのだが、その道中、映像や音声の機材の運搬について一切の考慮も必要としなかった。機材は空気のこくとく私たちが一緒に軽々と呼鳴していた。

この状況で必要とされる技術陣との打合せは、昔とはまったく違ってくる。

これまでは、撮影機材と撮影対象の人々との関係をどう折り合いつけるか、を気づかっていたのだが、今では、撮影陣もまた撮影現場の人間関係を築くスタッフとしてどう振る舞ってもらおうか、という視点からも、話しあっておくことが出来る状況になってきたのだ、と私は実感している。

番組制作にあたって、これは、些細なことのように見えるが、こうした些細なことの積み重ねが、番組制作を緻密で高度のものにしていくのだと思う。

テレビにとつてもう少し広い意味での「隣の領域」といえば、映画、演劇、音楽、文学、そして漫画などであるが、考えてみると、「放送人の会」が始まって26年、その間に、「隣の領域」の人たちとの話しあいの機会は、一度もなかった。なかったというよりは、作らなかつた、というのが正しい。何たる視野の狭さであろうか。

まずは「反省」から始まった二〇一三年である。ということ、ことしのやるべきことは見えてきたようである。「隣の領域の人たちとの話しあい」である。そう考えると、少し心が弾んできた。

どの分野の誰方と話しあってみようか。すぐにでも、会員の皆さんにお伺いするなどして「隣の領域の人」の候補を考えていきたい。そのイベントも含めて、ことし、どのような催しができるか、楽しみます。

年頭所感

二〇二三年

東さんとフランス

東海ラジオディレクター 秋田和典

正月になると、映画「男はつらいよ」シリーズが懐かしく思い出される。そんな折に三重県在住の映画評論家、吉村英夫さんに話を聞いた。吉村さんは「男はつらいよ」シリーズの映画や山田洋次監督、また小津安二郎監督の研究で知られた方だ。最近「男はつらいよ」も一つのルーツ「ポピュリズム映画考」という本を出した。ポピュリズムを、大衆迎合という意味でなく、「民衆の生活を誠実に暖かく描く」という視点で、映画や山田洋次監督をとらえなおしたものだ。

昨年パリでは文化交流の企画で「男はつらいよ」シリーズが全作上映され好評だったという。パンフレットには「Torasan」の文字もあった。フランスの人たちの反響はどうだったのだろう。フランスの記者の取材も受けた吉村さんの話では「溝口健二や大島渚の映画の世界とは異なる情感の描かれた日本映画」として受けとめられたそうだ。笑いの要素も下町の人情も十分理解されたようである。現地では「男はつらいよ」シリーズ以外の山田監督の作品にも関心が高まっているという。また今年には、小津安二郎監督の生誕二二〇年にあたりさまざまな企画が準備されている。4月には、特別展「生誕二二〇年 没後60年小津安二郎展」が県立神奈川近代文学館で開催される。小津監督が少年時代の一時期を過

ごした三重県では、6月に遺作の「秋刀魚の味」を上映予定で、出演していた佐田啓二さんの娘さんの中井貴恵さんを招いてトークショーなどの企画が準備されている。小津監督ゆかりの各地でもさまざまな催しが行われるという。

ナニワんぼの実名

大類 なぎさ

昨年夏、急逝された伊藤編集長の遺作となつた「さくらんぼ」の絵を眺めているうちに、山形へ帰省したくなつた。

職場（総務省・大臣室）は、通常国会から解放されたばかり。コロナ禍で父の墓参りも、無沙汰。休暇を貰うことにした。

およそ3年ぶりの山形は、さくらんぼの収穫が終わり、山が緑深くなつた頃だった。青々とした田んぼの中を電車が走る。その窓から入り込む風が心地よかつた。

伊藤さんが「さくらんぼ」を描いてくれた色紙には、「さくらんぼ 実るころ 鳥たちは浮かれて 歌うよ 誰かに 恋して……」という歌詞と一緒に書かれている。

一見、絵と一緒にのどかな田園風景を想像させるようである。しかしこれは、パリ・コミューンの中で作られた「さくらんぼの実る頃」というラブソングの一節。日本では、60年安保闘争や3派全学連の運動などに共感して挫折した世代が、パリ・コミューンの敗北に自分

たちを重ねてこの歌を歌つたという。その一人である加藤登紀子さんは、ジブリの映画「紅の豚」でも歌っている。生前父が話していた。そして伊藤さんもまた、絵を贈つてくれた時にこのことを教えてくれた。

昨年は、仕事では内閣改造、臨時国会と、翻弄された一年だった。

だが一方で地元浅草の街を歩けば、観光客は戻つても、飲食店では「世の中回っているのかねえ。客は全然回ってこないよ」と、居酒屋の店主が嘆いていた。

「どんなにきつくて、仕事があるだけ有難いのかも知れない」と申し訳なくさへ思つた。

「自身も総務省のお仕事をされていたこともあつてか、伊藤さんには「お仕事の話、守秘義務に触れない程度に聞かせて下さいね」といつも声をかけて頂いていた。

伊藤さんとお話したいことはたくさんあつたし、「いつかいつか」と、私もその日がくるのを楽しみに待っていた。

けれど、ついに叶わなかつた……。

東国の野兎

小河原 正巳

「等夜の野に 兎をさぎねらはり をささきも 寝なへ児ゆえに 母にころはえ」 万葉集（巻十四・三五九）

万葉集中唯一の兎の歌である。ほとんど知られてはいない歌だが、「等夜（現在の千葉あたり）の野で兎を狙うように狙っていた娘だけど、ろくすっぽ共寝もしないのに、そのお母さんに怒られちまつてさ」と、素材でおおらか、いかにも万葉歌らしい歌だ。

NHK「日めくり万葉集」で万葉集に一目惚れしてから十五年、無謀にも、前回書かせてもらった自称「万葉集宣伝係」として、これ

まで山あり谷あり、まさに「禍福は糾える縄の如し」だったが、そろそろ宣伝係退任の潮時かとも思う。ところが、「不幸中の幸い」は、元々中国語で、「不幸中の万幸」と書くそうだが、この「万幸」は「万葉の幸運」の略だと勝手に解釈した。コロナ禍のおかげで、この十五年間の物語をまとめることができ、これを富山房インターナショナル社が、『それぞれの萬葉集物語』として出版してくれることになった。出版不況で本そのものが出せなくなつたこの時世、ましてや「万葉本は売れない」と大手版元からは断られる中の「万幸」で、なんともありがたいことだった。

これに気を良くして、一度は奈落に墜ちて中止した舞台「YAKAMOCCHI」を、ポスト・コロナでもう一度東京の舞台に乗せて「万幸中の万幸」にしてみたいという思いも湧いてきた。

冒頭の歌は、万葉文化から遠く離れた東国の下総国で詠まれた作者未詳の歌だが、この東国の門外漢、いわば東国の野兎が、千年以上も降り積もつた万葉の大雪原を引つ掻いて爪跡を残すのも、また一興かな。

まだまだ思い悩む野兎の年だが、本年もうぞよろしく。

北国、嚴冬の十一口調

河野 尚行

80代も半ばに近づき、日々の記憶も希薄になってきたが、冬の季節の到来と共に、そこだけ鮮明に浮かび上がる北国の記憶がある。

◇ ◇

57年前の2月末、私は北海道夕張炭鉱の地底深くに潜る事になった。

その1年前の一九六五年2月に、北炭夕張で62人もが命を落とす事故が発生する。ガス

爆発事故だった。

1年後のニュース企画で、ガス爆発の危険を孕む採炭現場の実態、安全対策は、その後、どう改善されたのか、それを取材する企画を立て、夕張通信部を通じ炭鉱側と粘り強く交渉を始める。そして、閉鎖された事故現場の隣り、北炭夕張炭鉱第2坑の採炭現場を取材する許可をようやく取った。

当時、私はNHK札幌中央局の報道課に新人で配属され、すでに4年近くが過ぎていた。まず、大型昇降機で、立坑を二〇〇メートル余り一気に降下する。昇降機の側面が金網になつていて、黒々とした岩肌が流れ去るのが見える。まるで奈落の底に落ちていく感じだ。そこから、トロロッコで斜坑を長いこと下り、更に歩いて採炭現場に向かった。

炭層がメタンガスを大量に含んでいる為に、採炭現場の撮影には電源使用は許されず、同行の村本カメラマンは、ぜんまい式の16ミリカメラ「フィルム」に、コダック社の高感度フィルムを装填、作業員数人に集まってもらい、ヘルメットの光りを束ねて、採炭現場の様子を苦心惨憺、撮影する。1時間かけ3ロール、三〇〇フィート回すのが精一杯だった。

この地の底の暗闇の世界で、坑道がガス突出で崩落し、閉じ込められ、ガスに火がまわってしまつたら、いったいどうなるのか。

死と隣り合わせで、1日3交代制で働く採炭労働者の日々。目に見えているものは真実の半分に過ぎないと言つが、自分がそれまで、見てきた世間、見えている世界からは、想像もつかない厳しい労働現場が、そこにあった。

◆石炭は日本経済の主要なエネルギー源であったが、採炭条件の悪化と相次ぐ事故でその地位を失いつつあった。夕張事故と同じ年には、三井山野炭鉱のガス爆発事故で

二三百人が死亡、その3年前には、三池炭鉱炭塵爆発事故で四五八人もが命を落している。

潜つたのと反対の順序で地上にもどり、景色の明るさにほっとしたが、待ち構えていた先輩の細根カメラマンから札幌局に至急電話するように言われた。炭鉱事務所の電話器を借り、札幌に電話を入れると、放送部長から「河野君、北見放送局への転勤が決まった。おめでとう」と人事異動の内示を受けた。

北見の放送局は、長さ三〇〇〇キロに及ぶ日本列島の最も北に位置する放送局である。

採炭現場の放送を終えると、すぐに転勤の支度、身の回りのものは、大きいもので布団と机と本箱、他は衣類が入った行李が二つだけ、簡単に荷造りをして送り出し、3月早々、石北線の急行で6時間の北見に向かった。

列車の相席は農家のお年寄りで、陽気に話しかけてきた。ビートに、ジャガイモ、玉ネギ、などの根菜類と、ハツカを作っているが、稲作は冷害続きで、あきらめたという。

大雪山系を越え、スイッチバックの遠軽駅を過ぎると、雪はさほど深くはないが、北見地方は、まだ冬の最中であつた。表面凍った雪原を鉄路は墨痕一筋、網走に向け伸びていく。

◇ ◇

人口9万の北見市、会社の寮は既に満杯で、ここでも下宿暮らしだ。深夜には零下14度になった。寝静まつた街に、遠くから、かすかに車輪の音が聞こえはじめ、次第に近づいてくる。時おり汽笛もまじる。それがしばらく続くと、やがて車輪の響きも再び小さくなって遠のいて行き、長い汽笛を最後に残して消えてしまつた。街はいっそう静寂に包まれる。

蒸気機関車に引かれた網走発の貨物列車の長い列が深夜に、屯田兵が拓いた北見の街の

郊外を半周し、札幌に向けて去って行った。と翌朝になつて知る。

3月4日から北見局での仕事を始める。次の日の午後、ニュースデスクに呼ばれた。「君は取材に強いだろう、田中記者と一緒に至急、紋別に飛んでくれ、漁船がオホーツク海で転覆したらいい」。

網走のニシン漁船平安丸（58トン）は、流水が去り、海明けのオホーツク海に出漁したものの、天気が急変して猛吹雪になり、再接近した流水に阻まれ転覆、乗組員12人全員、氷の海で行方不明になつていた。

スノータイヤにチェーンを巻いた菊池運転手の四輪駆動のジープに、入局2年の元気の良い田中記者と一緒に乗り込んだ。

持たされた北見局の電池式の録音器「デンスケ」には、白金カイト3個入りの毛皮のカバーが掛けあつた。

吹雪まじりの下から吹き上げる突風と、凍りついた道路が車のスピードを極端に落とした。我々が紋別に着いた頃には既に夕闇が迫つて来た。車のヘッドライトが映し出す紋別通信部の入り口の扉が風でバタバタしているのを、今でも、はっきりと覚えている。通信部は留守だった。奥さんいなくなつた。

寒さがいっそう鋭くなる中、我々は紋別海上保安部に向かう。遭難現場はサロマ湖沖で湧別に近いが、紋別が海難捜索の基地になつていた。海保の近くで、一人の背の高い酒臭い中年の男に出会つた。田中記者が丁寧に挨拶し、その口ぶりから尊敬しているのが判つた。

この男が紋別通信部の山崎記者だった。しやべり口調は乱暴であつたが、乗組員全員の氏名と年齢、家族構成、そして漁船の船体構造まで、既に見事に調べ上げていた。その日の最終ニュースと翌朝のニュースは、家族の声も取り込み、内容の濃いものになつた。

ニシン漁船の乗組員の中には10代の若者もいた。オホーツクの海で生きる人々が、オホーツクの、その海で命を落としたのだ。

当時のNHKのローカル放送局では通信部記者が活躍し、地域情報を肌理の細かい豊かなものにしてきた。北見地方にはオホーツク沿岸に紋別、網走、内陸に美幌、遠軽と4つの通信部があり、他の職業からの中途採用の記者が多く、どなたも個性的で自分のアングルで世間の動きを見つめることができた。

その夜遅く、紋別の宿で仮眠して、翌朝早く起き出し、紋別の海岸に吹雪で打ち寄せられていた流水群を再確認する。

札幌のテレビで見ていた流水は白く輝き、オホーツク海を覆う美しい布にも見えだが、この日、私が肉眼で捉えた流水は、薄汚れて重なり合い、堤防をも乗り越える巨大な氷の塊であつた。足が滑って危うく、その氷塊に衝突しそうになつた。

◇ ◇

私は北海道で8回冬を過ごし、東京に転出した時には、既に30代に突入していたが、冬になると、思い浮かぶのは、27歳になる直前、北炭夕張の地底から石北峠を越え、オホーツクの氷の海に至る、この厳冬の日々である。

それは、地域社会の人々の生活、様々な生き方を改めて見つめ直し、放送を一生の仕事として仕切り直す契機ともなつた「十一日間」でもあつた。そして、いま思つるのは、歳月の流れというものは、したたかな演出家であるという事である。それは、まさに「ながらえは…憂しと見し世ぞ、今は恋しき」なのである。

◆北炭夕張炭鉱ではその後も事故が続き、一九八一年に夕張新炭で93人が死亡するガス爆発が発生。90年に及ぶ炭鉱の歴史を閉じた。私はこの時期、四国に転動していた

が、地元の北海道放送がドキュメンタリー「地底の葬列」で、この惨事を克明に描いている。

池端 八木氏のインタビュー談話

鈴木 嘉一

ベテラン脚本家の池端俊策さんが昨年11月、今年度の文化功労者に選ばれた。脚本家では橋田壽賀子さんに次いで2人目、放送界では「放送人の会」の今野勉会長に続く慶事だ。当会とのかかわりで言えば、池端さんはNHKの「夏目漱石の妻」などで放送人グランプリ2017の大賞を受けた。脚本家の大賞受賞は初めてだった。

個人的には、読売新聞記者としてインタビューして以来、三十数年のつき合いになる。同じく公私ともにつき合いが長いTBS出身の八木康夫プロデューサーとの間で、お祝いをしようという話が持ち上がり、遅ればせながら年明けに3人で会食をした。

永岡文部科学大臣から顕彰状を受け取って後日、功労者たちは皇居に招かれ、天皇からそれぞれ声をかけられた。池端さんが「ユーミンは和服だったよ」と松任谷由美さんの話をする、八木さんは「八王子の呉服屋さんの娘だからね」とうなずいた。とはいえ、抜群のファッションセンスで知られるユーミンの着物姿は珍しいだろう。功労者の中には将棋のひふみん（加藤一二三さん）もいた。

八木さんにも祝うべき受賞がある。昨年末、中村勘九郎主演の「忠臣蔵狂詩曲 No.5 中村

仲蔵 出世階段」(NHK)が文化庁芸術祭賞

の大賞を受けると発表されたばかりだ。

しかし、伝統のある芸術祭賞は今年度限り

で終わるとあって、私たちの話題に上った。有力な民放ローカル局がぞろぞろと出品するテレビドキュメンタリー部門に比べて、テレビドラマ部門は民放からの応募が減り、キー局の中には出さない局もあると聞く。

「ドラマに限って言えば、芸術祭賞の意味が薄れていた。民放各局が『芸術祭参加作品』と銘打って、賞が取れるような力作や意欲作を作ったのはかなり昔の話。賞に重きを置かなくなつて久しい」制作現場は連続ドラマ作りに追われ、上質の単発作品を作る余裕はなくなつてしまったといった感想が相次ぎ、話はテレビドラマの状況論に広がった。

「作り手は『エンターテインメント』として成立させなければ」と口をそろえるが、エンタメはあくまでも方法論であつて目的ではない。それなのに、視聴者を引き付けるためのエンタメが目的化してはいないか。見ているうちはハラハラドキドキ面白いが、見終わったら何も残らない連続ドラマが少なくない」

「脚本家も演出家も今、『顔』がなかなか見えない。この人たちは何が言いたくて、これを作つたんだろうと思つてしまう。第一線に立っている作り手たちは、脚本家や演出家の顔がはつきり見えたかつての名作や秀作と真正面から向き合い、学んでほしいね」

「NHKに期待したいけれど、TBSがひと昔前、連続ドラマだけではなく映画まで作つた男女逆転の異色時代劇『大奥』を1月から始めた。これのどきが、1月末で退任する銀行出身の前田晃伸会長の言つていた『新しいNHK』なのか、まったく理解できない。現場は何を考えているんだろうか」

かくして、熱っぽく辛口のドラマ談話は3時間を超えた。ここで紹介したのは、鼎談風の雑談のごく一部に過ぎない。

最後はこう言つて、別れた。「僕らは今も現

役。お互いに元気で、いい仕事をしようよ」

百まで生きよう

甲中 秋夫

世間では「コロナ第8波」で感染拡大が心配だと騒がれている。「コロナ弱者」だと強調されてきた我々高齢者は相変わらず家にこもりがちだ。更に追い打ちをかけるように次々に友人、知人の訃報が届く。

そんな鬱々とした日々の中、年末に「歌とラジオの会」が原宿で開かれメンバーが10人集まった。この会はフォークソング黎明期の一九六〇年代から70年代に活躍したアーティストの小室等、北山修、パーソナリティの斎藤アンコー各氏とラジオ各局のフォーク番組の担当者たちが交流の場として発足した会である。

フォークブーム以前の大衆音楽は演歌、歌謡曲が中心で、ラジオの昼帯は各局共歌謡曲のオンパレードだった。

多くの歌詞は「義理、人情、涙、女」といった湿っぽい内容が中心で、私はその歌が描く「やくざの世界」が嫌いだつた。そこに登場したのが60年代後半から70年代前半にかけて若者たち産み出した和製フォークだった。

当時のヒットチャートで、小室等と六文銭の「出発の歌」、フォークルの「返つてきた酔っ払い」、吉田拓郎の「旅の宿」等々のフォークが演歌、歌謡曲を抑えて次々に大ヒットしていった。その結果、フォーク系アーティスト達とラジオの若者番組制作者達との間に「新しい文化を生み出している」という「同志的」な連帯感が生まれていったように思う。それがこの会が生まれた動機だった。

あれから半世紀を経て会のメンバーも70年代後半から80年代前半の高齢者集団になっている。中にはTBSの加藤節男氏、TFMの笹

山正勝氏のように鬼籍に入った仲間もいて、今回の開宴にあつては献杯を捧げることにした。その後は高齢者の集まりに恒例の病氣談義や昔話に花が咲き、自粛生活を強いられてきたメンバーたちの欲求不満が一気に解放されているように見えた。

私はこの時、半世紀前にフォークルが「青年よ荒野をめざせ」のB面で歌つていた北山修氏が作詞した「百まで生きよう」と言う曲を思い出した。

♪あなたの苦しむ この道も
涙流した あの空も
百年たつたら 夢になる
甘い甘い 思い出に
百年あるんだ人生は
決して楽ではないけれど
若者よ生きていてほしい
百まで生きよう♪

「そうだ！コロナなんかにかけてまるか！百まで生きよう」と思つた一瞬だった。

葵の200年 1925→2125

千葉 邦彦

一九五一年8月4日生まれの私は、二〇二三年の年男である。数年間にわたる父と母の介護を終え、自分自身の新型コロナウイルスとの厳しい戦いから生還し、態勢を整えて新しい年を迎えた。

「放送人の会」の活動に全力で参加したいと、決意を新たにしている。

今年の年賀状本文には次のように書いた。
旧年中は大変お世話になりました。
2023年がよい年でありますよう、お祈り申し

上げます。

私の連載エッセイ「放送の100年（1925→2025）」月刊『通信文化』（発行：公益財団法人通信文化協会）は8年目に入りました。これからも心をこめて書いてまいります。

また、「放送人の会」に加え、「美楽研究会」「メディア人フォーラム」「TBS（ハイビジョン）の会」「メディアの会」「放送史研究会」など交流の輪を広げているところです。

「指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。」

少し説明をしておこう。自由闊達に書いてくる連載エッセイ「放送の100年（1925→2025）」は2025年以降、「放送の200年（1925→2125）」と改題して続けていきたい。「放送の200年」というフレーズはまだ誰も書いていない。最初に使う気持ちよさは格別である。もちろん、2025年に「放送」という概念があるかどうかは分からない。「放送の500年」「放送の1000年」となればなおさらである。いずれにせよ、私は過去だけではなく、「いま起こっていること（さらには、起こらなかつたこと）」や「起こっているのに見えないこと」などをさまざまな「これから起こること」に思いをめぐらせ、記述してきている。最も大切なのは、過去から現在を踏まえつつも、全く別の方法論に立脚して「未来を記述すること」である。研究調査の積み重ねと同時に、想像力が必要である。そして、いずれは、その作業を誰か、おそらくは若い書き手に託すことになる。「放送史学会」の設立を視野に発足した「放送史研究会」や、多種多様なメディア分野の関係者が、共有しうるテーマの追求や目標達成のために融合的な活動をする「集まりである」「メディア人フォーラム」を支えていく人たちのなかにあるいは全く別のところに、新たな書き手を

見出したい。それも大事な仕事だと思っ

てい。さあ、今年はまだ始まったばかりである。何でもできそうだ。「放送人の会」の活動に全力で参加しながら、上述の諸活動（いずれも私が幹事を務めている）も精力的に展開し、多くの方々の力を得て、それらをよいかたちで融合・発展させていくことができれば幸いである。

「指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。」

去年読んだ本から

前川英樹

「中学一年の時に。友達が、『日本人ならみんな大和魂を持っているから』と言った。」

「ぼくには見つからない」と言いつつ、その友達はやや心外な顔をして、

「君にはないかもしれない」と言った。

鶴見俊輔「日本思想の可能性」（初出1964.1.「日本思想の道しるべ」所収の冒頭に出てくるエピソードだ（P.9）。ここに鶴見俊輔という人の立ち位置あるいは原点を見る思いがする。そのうえで、鶴見はこう書く。

「日本に住み、日本語を話し、日本文化の約束事に従って考えることをえらんだ自分として今日、日本思想の持っている意味は何か。」（P.11）

鶴見は、自分と国との関わりを「国家」との関係ではなく、「文化」に置くという。

私は、「個人は国家に包摂されてははならない」と強く思っている。それが私の基本スタンスでもあった。個人と国家は存在理由が異なる。そのことを常に意識すること、そのようにして思想の緊張感は保たれる。ここを外したら、私個人も存在理由を失う。

私は税金を払い法を遵守し選挙権を行使する。それは「日本に住み、日本語を話し、日本文化の約束事に従って考えることをえらんだ」ことの延長にある。

「文化との関わり」にこの国に生きる意味を見出すこと、それは放送の存在理由あるいはその原点に符合する。そのように私は考えたい。

さてそうであるとして、その先に放送はどのようにして国家という存在と向き合うべきなのか、という問いが来る。時代はそれを求めている。

長崎で眠るおっちゃん

渡辺 純

昨年12月17日から2日間、長崎市で「テレビドラマの巨人たち」市川森一が愛したふるさと「長崎・夢物語」という催しを行った。

主催は、私の属する市川森一脚本賞財団で、この企画はドラマ黄金時代に活躍した脚本家を、作品上映とプロデューサーや俳優たちによるシンポジウムで読み解く、6回シリーズの最終回。今年解散を決めた財団最後の催事でもあった。内容は、今回の司会をお願いした当会の鈴木嘉一さんが「民放連オンライン」に書いているので、読んでいただくとして、ここでは、この催事をきっかけに思い出した四半世紀前の出来事について書きたい。

テレビの力を信じて

この企画だが、コロナ禍で何度も延期され実施まで2年かかった。財政事情から長崎に人を割けず、集客のために九州在住の会員、村上雅通さんや井上佳子さんに若者への呼び掛けをお願いし、メディアの力を借りようと、後援名義の使用と告知・取材を各社にお願い

した。

説明に伺った際は、コロナ禍の中、社内で担当者と会えずに資料を交付に置き、電話で説明するようなこともあった。

NHKでは、「応募者の確実な入場が保証できない」とNHKでは告知できない。応募先を詳しく書くように」と、チラシに注文がついた結局、後援名義は頂いたのだが、実施が近づくと応募者は増えない。私は不安になり、担当者に、改めて告知をお願いし、皆さんもぜひご来場くださいとメールした。

幸い、長崎新聞の直前の記事もあり、催には多数の観客が集まってくれた。しかしテレビ局の対応は、シンポジウムにプロデューサーが参加した長崎文化放送（テレビ朝日系列）のニュース取材以外、告知もなく、来場者もなかった。

地域に貢献してきた作家を論じることで長崎の文化を考えようとするのは、地元放送局として伝えるべきテーマではないのか、誰か、覗いてみる価値もないのだろうか。コロナ禍とはいえ、取り付くしまのない閉じられた放送局の姿に、勢いを失った、今のテレビの力を見たように、残念で仕方なかった。

催事の翌朝、私は長崎駅のすぐ前の急な坂道を上り、長崎市西坂公園に行った。公園は26聖人殉教の地で、かつて海に突き出た絶壁の上にある。横長の碑には、豊臣秀吉によって一五九七年に処刑された26人の像が並んで彫られている。その西坂の絶壁に張り付くように建っているのがNHK長崎放送局である。住所は西坂町一番地。局舎の真上にある公園からは、新しく出来た新幹線越しに稲佐山のテレビ塔が見える。

ここへ足を向けたのは、催事の進行を助けてくれた長崎在住のアナウンサー前田真里さんから、「私、西坂青春一番地という番組で何

度かNHKに行ったことがある」と聞いたからである。思いがけず耳にした「西坂青春一番地」というタイトルに、あの頃の放送の青春を懐かしく重ね合わせた。——私は四半世紀ほど前の一九九八年から二〇〇〇年までの二年間、この放送局に勤務していたのだ。

「西坂青春一番地」

一九九九年4月にスタートした午後5時から番組は、玄関ホール全てを開放し、ロビースタジオに若者の広場を作り、市内・県内の高校生に来てもらい、彼らが関心を持つ話題や彼らに知ってほしい問題を議論し、彼らのマインドなどを紹介する25分の情報番組だ。それまで5分程度だった夕方の県域放送を拡充しようと、九州各局が競って企画したもので、長崎の新番組は異色中の異色として、注目というより危惧された。組合や各局から「要員不足の中、なぜ25分もの放送が可能なのか？ 高校生向けでは、誰も見ないのでは？」等の質問が集中した。

後に放送研修所から求められ、局長だった私はこう書いた。

「職場横断的な若者プロジェクトに、パワー不足を逆手に高い志のあるチャレンジングな番組を作ろう。それには今まで使わなかった『新しい筋肉』を使おうではないかと呼び掛けて、この番組はできた。視聴層は高校生の母親たち主婦を想定した。それは私がかつて関わった『週刊ゴッドニュース』の経験による。子どもニュースは、知っているようで実は知らない情報を大人が子供越しに見る番組だ」

今振り返ると、相当前のめりだ。地方局ではなじみ薄い若者向け番組に、皆不安もあった。提案会議で何度も議論し、外部に諮問会議を設けて意見を聞き、各地の高校にアンケートを行い、「長崎局テレビ放送40周年・高校生

向け特番」を試作したうえで実施を決めた。外に直結したロビーは防音に不安があり、開始に当たっては、何度も実験を重ね対策を講じた。実際、選挙中の放送では、記者が各選挙事務所取材して当日の街宣スケジュールをつかみ、街宣車の位置を想定した技術職員が点検調整し、局舎管理の職員が局舎外を見張り、制作職員は番組の構成を工夫し、選挙カーからの音声を避けた。——全職場が集中して取り組んだ番組は、こうして立ち上がった。

地元から頼られる町工場のような放送局

私自身は原爆祈念式典における長崎平和宣言の起草委員や様々な諮問・企画委員などを委嘱され、音楽・スポーツなどの文化行事に呼ばれて喜んで出かけた。

忙しい放送部に代わって、頼まれことは私やると、局長室に編集機を持ち込み、市から依頼された「長崎くんち・ハイビジョン特集」を制作した。長崎文化に関する「シンボジウム」や「リサイタル」などの催事を企画し、これをNHK長崎が録画して放送したこともあった。

このように町工場の親爺よろしく、好き放題に走り回る私に、あきれながらも協力してくれた部長や課長など工場のみならず、それぞれの持ち場で積極的に外に出て視聴者と触れ合い、それを番組に生かした。

多くの職員が隣組の西坂町内会の祭りや行事に参加したり、佐世保支局の若いグループが駅伝大会に出走したりもした。営業のある職員が「御用聞きに行ってください」と、受信料収納に出かけていたことも思い出す。

——注目すべきは、当時こうしたことが、長崎だけではなく全国各地で競って行われていたことである。

背景にあった「公開と参加」

一九九五年から二〇〇五年まで、世紀を跨ぐ10年間のニューメディア・多チャンネル競争に向けてNHKが進めた経営戦略は、視聴者の囲い込みである。

ムスタン問題に苦慮した川口幹夫会長は、視聴者の信頼回復のため「意識改革、業務改革、NHKのイメージアップ」を3本の柱とし、視聴者と対話する『あなたの声に答えます』や『スタジオパークからこんにちは』が生まれた。

一九九七年、後任の海老沢勝二会長は「公開と参加」をスローガンに、全国の放送局を拠点にNHKの放送事業を広く視聴者に公開し、地域放送を全国に発信し、視聴者重視の番組の開発を推進した。背面に大きなモニターを並べた放送センター正面玄関は、その広い空間に多くの視聴者が訪れた。

組織も変わった。営業総局に広報や事業が加わり、放送現場から人が集められ、視聴者と向き合う組織として視聴者総局が新設され、放送総局と視聴者総局間の会議がNHKの放送事業を動かした。

結果、この頃の受信料収入は年々増加する。その好調さは経費、ごまかし等の不祥事で視聴者の信頼を失った海老沢会長が退陣、番組改革問題が明るみになった二〇〇五年で終わるのだが——。この頃の海老沢体制の功罪を云々する立場にはないが、私は、全国、特に地方で働く職員が一斉に視聴者との回路作りに取り組んだ、この一点については大功であると考えている一人だ。

——ちなみに「長崎原爆祈念式典全国中継」は、高校野球中継を中断できないという理由から、長い間提案すらできずにいたが、地域からの全国発信・視聴者のための番組開発を謳う「公開と参加」を逆手に、涉る東京編成を説きつけて実現した。その中継は、二〇〇〇年8

月9日から現在まで続く。そういえば、長崎の祈念式典は、大人ではなく、高校生が進行するのが恒例になっている。——今、高校生の広場「西坂青春一番地」を思い出して、そのことに気づいた。

放送の文化を耕す

大幅減収という公共放送NHKのかつてない事態の前に、私は、あの時代を懐かしい放送の青春として、饒舌に語りすぎたかもしれない。言いたいのは、この危機に對する処方箋は、委縮して業務を縮小することではなく、あえて、視聴者との回路つくり躍起となっていた、成長期のあの頃を見直すことではないかということだ。

今、YouTube・Netflix、スマートテレビにその画面から放送を排除する時代だ。画面に映る映像はネットでもテレビでも同じだ。しかしネットの映像は、情報の断片に過ぎない。情報は放送局の伝送路を通じて、初めて視聴者に向けた「放送」となる。そしてそれは、放送局から品書きなどを添えて包装され手渡してこそ、初めて喜ばれる。

放送が視聴者に届けるのは、コンテンツではなく、多くの手間と知恵が加わった、放送という「文化」だ。文化(culture)を耕さなければ、豊饒な里はすぐ荒野に戻る。文化を耕し続け、放送の豊かな里を保ち続けるためには、制作者のもとに部隊を越えて結集した職員が生き生きと働く、放送局の力こそが必要だ。

年が明け、テレビ開始70年を迎えた。私はテレビはまだまた発展途上だと思いたい。ならば、次代のNHKのかじ取りは、経済ではなく、放送という文化を耕す人たちに期待したい。——ひと時長崎を訪れ、そんなことを考えた。

放送人グランプリ

3年ぶりの懇親会から

昨年の12月10日(土)夜6時より、平河町の海運ビル地下1階の居酒屋「永田町 OCEAN」で、忘年会をかねて、放送人の会グランプリ懇親会が開かれました。

3年ぶり、3年分の懇親会、その盛況を誌上で報告。

今野会長の開会の挨拶



お忙しい中、ご参加頂いた皆さまから、会場ですピーチをいただきました。

掲載のスピーチ原稿は、厚かましい編集部 の懇願に応じて、改めて寄稿して頂いたものです。本当にありがとうございました。

二〇二二年特別賞

「NHK大型企画(OSINT)チーム」

NHスペシャル 善家賢

今回は、放送人グランプリの特別賞という

栄えある賞をいただき、本当にありがとうございました。

最近、OSINT (Open Source Intelligence・オープンソース・インテリジエンス)という言葉彙を、新聞やテレビなどで目にする機会が増えていきます。特に、去年2月、ロシアによるウクライナ侵攻以降、その傾向はより顕著となり、日本のメディアも競うように、この手法を使った独自の調査報道を展開しています。



私たちが、NHKスペシャルで、この手法を本格的に取り入れるきっかけとなったのが、

一昨年2月に発生したミャンマー軍によるクーデターでした。当時、私たちは、記者やディレクターを派遣し、その実態を取材しようと

考えましたが、軍が「緊急事態宣言」を発し、

国際線の着陸が出来なくなったことなどから、現地取材が困難な事態に直面していました。

そうした中、ミャンマー市民たちが、軍による

弾圧の実態を告発しようと、スマホで写真を撮ってSNSなどに大量に投稿していることを知りました。これをネット上だけで埋もれ

させてはいけない。そう感じた私たちは、これらの「公開情報」を最大限に活用するため、OSINTに挑戦。試行錯誤を重ねた結果、ある19歳の女性の死の真相に迫るなど、軍の弾

圧の非道を明らかにしました。その後も、ミャンマー情勢をめぐってOSINTを続け、合わせて3本のNHKスペシャルを制作し、国内外で高い評価をいただきましたが、それは、デジタル時代の新たな調査報道の可能性を強く感じていたからだと考えています。

ただ、その一方で、OSINTは万能ではありません。私も特派員を経験しましたので、特に、戦争や紛争を報道する際、現場での取材が第一だと考えています。しかし、その一方で、最近、通常取材においても、中国など権威主義的な国々で、以前に増して取材ビザが下りづらくなったり、自由な取材が許されなくなったりするケースが増えていきます。そういう意味では、現場取材を最優先としながらも、両輪として、OSINTのように「公開情報」を活用して調査報道が出来るオルタナティブな手法を持つことが、メディアにとって不可欠な時代に突入しているのだと思います。

今後も激動の国際情勢を前に、正攻法だけでは描き切れない事象をあぶり出していきたいと考えています。

「NHKスペシャル事務局 中村直文 “ディストピア”の到来を 座して待たないために」

30年近くに及ぶディレクター・プロデューサー人生において、信じて疑わなかった「常識」がここ数年、大きく揺らいでいる。直近でいえばロシアのウクライナへの軍事侵攻。これまでに日本の戦争やアフガニスタン、イラクでの戦争を取材し、内外に発信してきたが、大量殺戮や核使用といった非人道的行為は、少なくとも先進国の間では過去のものになりつつある、そう思っていた。21世紀の今、まさか責任ある大国がこのような蛮行に及ぶとは。

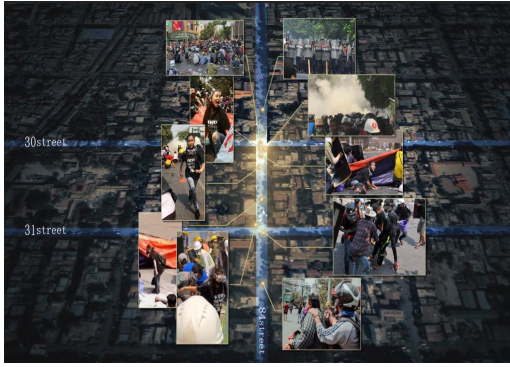
右・中村さん



もう一つ、揺さぶられている「常識」。それは「事実」。こそが、民主主義社会を健全な方向に導く重要なファクターであるということ。それはまがりなりにもジャーナリズムを標榜する自らの金科玉条であった。しかし、悪貨は良貨を駆逐する。デジタル上に生まれた無限にも見える情報空間では「フェイク」が跳梁跋扈。ファクトよりもはるかに速く・広く拡散するのだ。そこにアルゴリズムが生み出したフィルターバブルが輪をかける。「(真偽問わず)信じたい情報だけを信じる」世界。

ディストピア化する世界を前に、私たちが

査だった。決して目新しいものではなく、デジタル以前にも存在した手法だ。公開されている資料やデータを基に調査・分析する。しかしデジタル以降、端末を持つ人の数だけ、ネットやSNS空間に「動画」「画像」「文字情報」が発信される時代になった。オープンソースの量は天文学的に膨れあがるが、デジタル技術を使えば、これらを収集・スクリーニングし、真偽を見極め、取材を深めていく作業はそこまで難しくはない。必要なのは、もはや死語となりつつある「気合いと根性」。「ミャンマーの動画が、実は韓国光州事件のもだった」。そんなフエイクは日常茶飯事。膨大な濃の中からファクトを見つけ出す。番組に結実するのは、気の遠くなるような調査の果ての、上澄みなのだ。



今回、放送人の会より身に余る評価を頂き、深く感謝している。OSINTに関していえば、特定の個人で完結できるものではなく、NHK内でも記者やディレクター、アルバイトの学生に至るまで協業しなければ成果は得られなかった。もつと言えは、海外のジャーナリスト(オシスター)たちとも互いの得意を生か

しながら連携した。デジタル上に国境はなく、フエイクや犯罪行為が自由に行き来しているとすれば、そこに向き合うためには、一個人、メディアでは限界がある。むしろ、メディアの垣根を越えた真実追究の取り組みこそがOSINTにふさわしいと考えている。

最後に、このOSINTのプロジェクトの一つに、ミャンマー関連のSNSで収集した動画(大半はすでに削除されている)をアーカイブ、OSINTの成果をアップし、次なる情報提供を募るデジタル調査報道サイトがある。
<https://www.nhk.or.jp/special/myanmar/>

UB数をしこたま稼ぐ訳でもない地味な取り組みだが、国連からも注目され、イタリア賞では学生審査員の特別賞を頂いた。欧米のメディアはアジアに関してはどうしても手薄になる。日本のメディアとして、「アジアの窓」の役割も担っていかねるのではないか。そんな未来も思い描いている。



 二〇二〇準備ラブリ

「ETV特集」武器ではなく命の水

〜医師・中村哲とアフガニスタン」

NHK 東野真

「ETV特集」のプロデューサーの東野と申します。この番組はアフガニスタンの現場に通って撮影と取材を続けてきた日本電波ニュース社の谷津賢二さんが、上田さんたちと一緒に「中村哲さんの集大成となる番組を作りたい」ということでETV特集に持ってこられた企画で、二〇二六年に制作・放送したものです。幸せな方たちとは言えませんが、3年後にもう一回番組を見ていただくことになり、初回放送時よりもさらに多くの反響がありました。亡くなった直後にきちんと再放送をしたことを含めて評価していただいたのだと思っております。



「ETV特集」のもとを辿ると、一九六二年に教育テレビで定時放送が始まった「教養特集」に端を発しています。今年で60年になると私たちは思っています。何度も危機はありましたが、今もEテレの隅々までドキュメンタリー枠として踏ん張っております。我々の仲間が、外の制作会社の皆さんとも一緒に、なんとか受け継いでいる枠です。一般の方へ

の知名度は低いのですが、これからも頑張つて行きます。こういう賞で応援していただくことが我々にとつての励みになります。ありがとうございました。(拍手)

日本電波ニュース社 上田 未生

あまりこのような晴れがましい席で「挨拶をするという経験が無いので、緊張しています。ですが、今日はわりと近しい感じといいますが、現場感のじむ方が多いので、少しほっとしています。

中村医師と弊社が出会ったのは一九九八年です。それから21年間、撮影の谷津を筆頭に7名のスタッフが現地を訪れ、中村医師が亡くなる直前の二〇一九年11月まで取材をさせて頂きました。私自身はプロデューサーとして16年間関わって参りました。21年間の節目節目でNHKのお力をお借りして、中でもこちらにいらっしやる東野さんには大変お世話になつて番組を制作し、放送して頂きました。賞を頂いた作品(初回放送:二〇一六年9月)は、12月4日に銃撃事件で亡くなられたという事で再放送されたもので(再放送:二〇一九年12月7日再放送)、当時は辛いというか、受け止められない状況でした...



ただ、常々中村医師は、「私の後継者は用水路です。」とおっしゃっていました。中村医師は、現地アフガニスタンの人々と日本のスタッフが力を合わせ、用水路を維持していくこ

とそのものが、両国の架け橋となっていくことを期待しておられたのだと思います。

小さい弊社の会議室で、大好きなカツカレーを召し上がりながら、ぼそぼそとお話をされていたことを、今も思い出しながら、後継者たちの取材を続けております。この賞を励みにして、これからも頑張ります。ありがとうございました。(拍手)

二〇二二年優秀賞「第36回民教協スペシャル『ハマのドン』最後の闘い」

—博打は許さない—
テレビ朝日 松原文枝

この度は栄えある賞を頂きましてありがとうございます。

ここでお会いする方々が、上田未生さんは報道ステーションの特集で一緒にさせて頂き持丸彰子さんはテレビ朝日でもに仕事をした仲間、この場で再開できて感慨深いです。今日は「放送人の会」の会報を改めて読んで参りました。この会が、放送を大事にする、放送って楽しいんだ、放送って面白いんだということ共有し、より深化させたいと思う方々が集まっているんだということを実感しました。



また、表彰式では緊張してしまい受賞された方々のお話をしっかり聞けていなかったのですが、会報を読んで皆さんがどういう思いで作品を作られてきたのかがよく分かり、放送を通して社会に問題提起をしていこうという仲間がいることを本当に嬉しいと思いました。

番組で描いた横浜の「ハマのドン」こと藤木幸夫さんは91歳で、菅さんという最高権力者を相手に闘った人物です。裏の権力者でもあるがためになおさら返り血を浴びるであろうのに果敢に挑んだ。付度が蔓延する時勢の中で、その行動には勇気を貰えます。私は、夜の報道番組が長く政治ニュースを担当していたため、権力側から直接的に圧力めいたことを受けることはよくありました。それを逐一はねのけるのですが、権力と向き合うことの重要性をいつも感じていました。だからこそ藤木さんの行動には強く感銘を受けました。描きたいと思いました。

91歳のハマのドンも92歳になりまして、体が少し弱くなつてはいますが、お元気です。次の市長選で負けたらカジノが復活しかねないと、相変わらずの勢いでやっておられます。

最後に放送人の会で評価頂いたことで、来年の5月に映画化することが決まりました(大拍手) : : 本当に感謝以外にありません。ありがとうございました。(拍手)

二〇二〇年 企画賞「プレバト!」
毎日放送 東京制作担当局長 宗川 圭太
毎日放送の宗川と申します。この度は受賞させて頂きましてありがとうございます。

これまで格調の高い番組ばかりが「挨拶されて、民放バラエティーがこの場に來させていただいていいのかな」とも思っております。

右 水野さん



左 宗川さん 中 上野さん

おかげさまでプレバトも10年ということになりました。私は管理職みたいなことで苦労は全然してないので、実際はプロデューサーの上野や演出の水野が頑張っているということです。

この10年、なかなかバラエティーも視聴率が取れない時代です。視聴率の指標もここ数年でガラッと変わったりしている中で、本当に苦労をして番組を支えてくれているのでマイクを渡して、そこら辺の苦労を語っていただければいいと思います。

本当にありがとうございました。(拍手)

毎日放送 東京制作部長 上野 大介

ありがとうございます。毎日放送の上野と申します。苦労話は立ち上げから関わった水野君に譲るといたしまして、先ほど10年とい

う話がありました。がプレバトはこの10月で10周年を迎えるという記念すべき年になりました。



10年続く番組って、今はもうなかなか出来なくて、長く続く番組が生まれにくい状況なんですけれども、私が若い頃に関わりました「世界ウルルン滞在記」、これは13年半でございました。弊社の今も続いております「情熱大陸」、これは来年で26年ということになります。プレバトも、この先20年、30年と目指して頑張つてやって行きたいと思つております。引き続き宜しくお願いします。(拍手)

毎日放送 東京制作部プロデューサー・演出
水野 雅之

毎日放送の水野です。10年前から演出をやっています。プレバトは10年となりましたけれど、そんなに長く思っているわけが無かったです。番組が始まった時の裏番組は「嵐」、「黄金伝説」で、それぞれの世帯視聴率で15%以上取っている枠で、僕はこういう枠しか担当していないんですけど(笑)、1年続いたら、どうかかな...というところから始めました。

『才能ランキング』という企画も、才能って

1回やっても10回やっても、才能ある人はずっと才能ある人だと思つていましたから、芸能人一周したら違う企画やろうと思つていたら(笑)、夏井先生との出会いがあり、梅沢さんやキスマイやうちノンたちがあんなに早くに頑張るといふ、僕が全然想定していないことが起きて、その結果が、僕がここで挨拶をしているという状況なんです。

色んな所で僕は喋っているんですが、確かにフレーム作りで苦労したのは僕なんですけども、今この番組に一番努力をかけて下さっているのは芸能人の皆さんで、この総合力の時間はゴールデンの時間で多分一番多い時間がかかっている番組だろうな、と思つています。それへの感謝の気持ちを忘れずに、引き続き番組を作っていきたいと思つております。今日はありがとうございました。(拍手)

二〇二二年特別賞「五島のトラさん」ほか

元テレビ長崎 **大浦 勝**
大浦です。今日、長崎からやってきました。実は僕、放送人じゃないんです。5月の受賞式の時は、まだ放送人だったんですが、あの時の挨拶で1か月後には放送人じゃなくなると申しましたが、あれから半年、いま私はユーチューバーです(会場、笑い)。

チャンネル名は、『まさるの大旅小旅』です。放送人の時はドキュメンタリーを中心に頑張ったんですが、ユーチューバーということで、人生は「旅だ」と思っているの、旅風に色んな日本の知られざる風俗や問題を紹介して行こうと私なりに映像発信を始めております。

8月から始めて、自分のやりたいことを表現して行こうと思つたんですけど、実は9月に人工股関節置換手術をして入院したんです。その時、入院から退院まで2週間、自撮りをいっばいして「入院の旅」人工股関節手術の体験

ルポ』として、ユーチューブで発信したところ、2か月ぐらいで6万回ぐらいの再生回数で反響が大きかったです。



自分のやりたいことはちよつと違つたんですけど、ユーチューブという一つのメディアを情報源にしている人がいっぱいいるということが分かりました。

今、自分が取り組んでいるのは、今年の9月中途半端な西九州新幹線(長崎〜諫早〜武雄温泉)が開通して、有明海を走っていた長崎本線の特急とかローカル線が影響を受けているので、「新幹線の光と影・在来線の旅」と題して有明海のローカル線の旅を今、やっております。

DJIカメラや88度カメラとか一人で色々なカメラを駆使しながら、映像表現をしております。勿論、ノーアプです。JRにも何も許可を取らずに全部やって、何かあつたら対処しましょうと言うぐらいのスタンスですが、今のところ何もありません。きちんとお客さんの顔とか分からないように修正してやっております。

今、3回目なんですけど、一昨日、長崎県から佐賀県に取材に行ったんですが、佐賀県の人には僕が長崎から来たというだけで、もの凄く

嫌な顔をされておりました(大爆笑、皆さんのために取材をしているのだと口説いて、いろいろ本音を聞きました、というのを発信しております)。

放送とは又、違ったメディアで、放送には勝てないかも知れないんですが、僕はこれから自分なりに出来る表現をして行きますので是非、「まさるの大旅小旅」の登録をお願いします。

放送人の時は視聴率だったんですが、今は視聴回数と登録数です。ユーチューバーは、まず再生総時間が4千時間を越えないといけない、それはクリアしましたが、登録数が50前後なので、まだお金は貰えない、1000まで達しないとお金にならないので頑張っています。ぜひとも、皆さん、「まさるの大旅小旅」よろしく「登録」をお願いします。ありがとうございました。(大拍手)

司会(渡辺) 大浦さん、一つ訂正させて下さい。放送人をやめられても放送人でありますから宜しくお願いします。そして皆さん、ぜひ大浦さんを応援して下さい。登録して「まさるの大旅小旅」を拝見しましょう。(拍手)

二〇二二年大賞 土曜ドラマ
「今ここに」ある危機とほくの好感度について

NHK **勝田 夏子**
勝田でございます。この度は栄えある賞をいただきまして本当にありがとうございます。

賞を頂いたドラマの放送は、昨年の4月になるので、だいぶ皆さんも忘却の彼方かなとも思っていますけど、当時はオリンピックや、やらないの話のまっ只中でした。今「エルピス」を書かれています渡辺あやさんの脚本で、黒を白と言いくるめたり、敢えて意味の無いことを言つて煙に巻くみたいなのを戦術としてい

る広報マン(松坂桃李)のドラマを、大学という箱庭に社会の様々な問題のメタファーを詰め込んで作ったんです。その中で行われていることが、コロナという脅威に目をつぶりながらオリンピックを開催して本当に大丈夫なのかという当時の論争に重なるところが多々ありました。

右 今野さん 左 勝田さん



あれから一年以上経って、未だにコロナ第8波の中で何も状況が変わっていないと言いますが、結構クラクラすることだな、と思っております。このまま現実から目を背けていくと、何も改善されないままコロナ第36波までいくんじゃないかと思ったりもするんですけど(笑)、未だに世の中の言葉の使い方がおかしいと感じています。

例えば最近の「反撃能力」ですが、あれは、本当は反撃では無く先制攻撃も可能で、恣意的に戦争が出来ることを、NHKを含めてなかなかちゃんと発信できていない。そんな今、大山勝美賞を受賞された佐野亜裕美さんと渡辺あやさんが「エルピス」というマスコミの内幕にちゃんと迫るドラマを作られていて、半分嫉妬と羨望を抱きつつ、でも自分もやるべきことをしっかりやって行かなきゃならない

など思いながら拝見しています。

私は、今年の8月にドラマ部を一端離れましてコンテンツ開発グループというところに戻動しました。

外の制作会社の方々から、NHKで放送する番組を募集させて頂く部署なんですけど、そこでプロデューサーをしております。先日も大規模な募集をしたんですが、本当に色んなプロダクションの方から、公共性のあるプログラムというNHKならこういう企画はどうかという、力のある企画をたくさんいただきました。局内でドラマを作っているだけでは受けられない刺激をいただきました。異動を希望して良かったなと思っております。

もし、ご出席の皆さんの中で、NHKで番組を作っても良いかなと思っただけの方いらっしゃいましたら、お声をかけていただけだと思います。宜しくお願いします。(拍手)

二〇二〇年 優秀賞

「全貌二・二六事件」最高機密で迫る」

NHK 右田千代

NHKの右田千代です。受賞したのは少し前のことになりましたが、改めて、光栄な賞をいただき、ありがとうございます。私たちの番組「全貌二・二六事件」を放送したのは二〇一九年でしたが、現在までの3年間で、制作に関わった仲間がそれぞれ異動しています。

大阪放送局、沖縄放送局、広島放送局、報道局ネットワーク報道部、「クロズアップ現代」編纂など。私自身は現在、報道局・政経国際番組部で「国際報道」やミッドウエー海戦関連の番組を担当しております。本日は、仲間みんなを代表して、お礼を申し上げます。誠にありがとうございます(拍手)。

今回、会にお招きいただいたのを機会に、この3年間、何があったかということを変更

考えました。ご承知の通り、二・二六事件は、日本陸軍の青年将校達がクーデターを起こし、未遂に終わったという事件です。当時、軍にとつての不祥事であるとして当局は多くの事実を伏せ、事件の真相を裁くはずの軍法会議も非公開で行われました。後世にも極めて限られた情報しか伝わってこなかった事件です。



そうした中で、この事件に関する日本海軍が残した極秘文書の内容を、ご縁あって私たちが知ることができ、新たにわかった事実を伝えた番組でした。

一番大きな取材実感は、「事実」というのは、本当にわかっていない、事実を知るのは非常に難しいことだ」ということでした。そして、私たちが「事実」と信じていることが、実は事実ではないという可能性も沢山あるのだ、ということを考えざるを得ませんでした。

番組が放送された二〇一九年以降、今年までの間、世界は決して良い方向に向かっているかと痛感しています。トランプ米大統領の扇動もあつたと言われる米議会議事堂の襲撃事件がありましたし、ウクライナへのロシアの侵攻があり、安倍元首相の襲撃事件があり、数日前にはドイツで政権転覆を狙う大規模なクーデター計画が摘発されたとのこと、それぞれの出来事に震撼させられました。

ここでも「事実」への信頼が揺らいでいることを実感します。

事実に基づいて議論したり、相手の考えに耳を傾けたりせず、対立に我慢しきれなくなると暴力や武力に訴える風潮。一方で、事実がないがしろにされることへの憤りや怒りも、人々の心にあふれているように感じます。

事実や議論を大切にしない空気が世の中を覆っている現在は、危機的な状況にあると思えます。

私たち「全貌二・二六事件」の取材・制作に関わったチームは皆それぞれ異動しましたが、いまこの番組を書籍にしようと、再び一緒に作業をしています。番組の放送から3年経ちましたが、コッソリと書籍化の準備を進めています。なんとか来年ぐらいには出したと取り組んでいます。

この書籍でも、事実とはいかに大事なものであるかという自分たちの実感を、少しでも伝えられるものになりたいと思っています。

私たちは日々「事実」を信じて、その確かな存在に支えられて、この仕事をしています。

「事実」とは、なんて美しいものだろうとさえ思います。もし「事実」の価値が損なわれてしまったら、一体何のためにこの仕事をしていたんだろうと感じます。「事実」という一番大事な原点を信じて、これからも番組を作っていきたいと皆で話しています。

この3年間で、幾分か希望を感じられたニュースもありました。今年のノーベル平和賞を受賞したロシアの人権団体「メモリアル」のメンバーが、インタビューに答えていました。ロシアの人権団体として大変厳しい圧力の中で活動を続けている方達ですが、こう語っておられました。「基本的な人権とは普遍的なものだ。市民社会は国境とは関係なく存在する」として、世界中にいる同じ志を

もつ人たちと自分たちの間に国境はない、と「連帯」を強調していました。

遠い日本にいても、同じ志を抱いていることは決して無意味ではないのだ、と希望をいただきました。

私が今日この場にお招きいただき、是非参加したいと思ったのも、同じ「連帯」の気持ちからです。

ここにいらつしやる報道や番組制作に取り組んでおられる皆さんは、志を同じくする大切な仲間だと思っています。一人にできることは限られています。自分の無力さも日々感じます。けれども、皆さんと連帯して、事実とは何かを取材し、伝え、この世界を少しでも良くして行ければと心から願っています。

本日はありがとうございました。

二〇二〇年 優秀賞

『女優たちの終わらない夏・終われない夏』

NHK 牧野望

牧野望（のぞむ）です。

今日はお招きいただきましてありがとうございます。ふだんは「No art, no life」（日曜8時55分・Eテレ）という番組や知的障害者や精神障害者、高齢者など市井の人が生む表現世界を取り上げる「E.T.V特集」人知れず表現し続ける者たち』など、皆さん何の番組??耳なじみの無いジャンルの番組制作を、NHKの隅々の方でやっています。

主旋律ではない、マイナーコードなので、諸先輩の奥深い、凄く創作秘話スピーチを伺った後に、どんな話をしたらいいのかと考えたのですが…まずは、このような晴れやかな賞をいただき、大変嬉しく思っております。どうもありがとうございました。

「放送人の会」で言うと、日韓中テレビ制作



者フォーラムで(※)「新日本風土記・東北の秋」という番組を選んでいただき、無錫でのシンポジウムにお招きをいただき、無錫であつたのですが、あいに僕は他の仕事がありまして渡航できず、大先輩の伊藤純氏が彼の地に赴き、登壇しました。

※第13回日韓中フォーラム中国・無錫

大会（二〇二〇年10月14日）

そういう縁もあつて活動を存じ上げるようになったのですが、NHKの先輩の方も含めて、私には話しかけにくい方々ばかりで、お声がけいただいたのに、場違いというか不思議な気持ちになつています。

お褒めいただいた番組は「女優たちの終わらない夏・終われない夏」というドキュメンタリー。渡辺美佐子さんを中心に広島・長崎の惨禍を伝える手弁当の朗読劇が、平和を願う演者（俳優）らの高齢化で幕を閉じる、その最後の瞬間まで撮らせていただいた番組です。

デジタル時代の今になんなのですが、30年以上続けてきた自主公演の朗読劇が終わるといふベタ記事を朝日新聞の多摩版でまたまた目にしたのが、放送の1年半前の二〇一八年。企画云々とは全く関係なく「あつ、これなんか面白そうだな」と単純に思つて実際に武蔵村

山の市民会館に朗読劇を観に行つたら、こんなにもいい芝居が無くなるのは実に惜しい、残念と思つたんです。

終演までの1年間、老俳優や彼女たちを支える市民団体などを追っかけてみたくになりました。小さな囲み記事から始まつて、こんなに大きな祝宴に繋がつたと思うと、アナログもロートルもまだまだ「悪くないな」と思っています。（一同笑）

今日は撮影で来られなかった「かわうそ商会」の正岡裕之さんという方がディレクター。ぼくとは10年前程前に「新日本風土記」（NHK BSプレミアム）で出会い、以来、何度となく一緒にやつていた敬愛する先輩ですが、その正岡さんが、以前取材した渡辺美佐子さんを大好きで大好きでしようがない。そのことを存じ上げていて、正岡さんが渡辺美佐子さんはじめベテランの俳優さんの切なる思いを撮つてくれて、今日この場所にお招きいただくことができました。

選評も本当に嬉しかったんです。「戦争・国家・人生・役者など深い思いを静かに伝える秀作を讀みたい」と書いてくださった、他には無い、お褒めの言葉・感想だったんで、なんかすごい励みになりました。そのことをお伝えしたくて本日、参加させていただきました。どうもありがとうございました。（拍手）

二〇二〇年 特別賞 杉田成道

フジテレビ 杉田成道

何を貰つたか全く覚えていないんですけど、20年前に放送人の会で「北の国」が終わつた時にいただいて以来、会員なのに会に出たことも無く、本当に申し訳ございません。

今日来て皆さんのお話を伺つていて、実はテレビに絶望しております…あつ、そう言

えは私はまだフジテレビに籍があるんですよ、演出をやっておりますが1本も仕事がないんです(笑)。あの、そこに居るドラマの方、是非よろしくお願いします。(笑)



そうなんです、絶望してらんですよ。僕、80近くになるんですけども、小学1年の子どもがおりまして、うちの58インチのテレビを独占しているんですよ、58インチに映っているのは朝から晩までユーチューブなんです。うちの民放局は何も映つてないし、勿論NHKも映つていません。

これはもう、テレビは駄目だと思ひ、自分の局を見ると、10分見ると嫌になつちやつて大体消しちゃういますね。なんで、こんなドラマ、作っているんだろうと常々思つていました。

でも、ここに来ると皆さん気概のある人ばかりで、こういう人たちはわが社には見当たりませんが、NHKしかないのかなーと思つて…なんか賞を取っている人みんなNHKで、民放は何やっているんだって思いますが、でも希望は多少あるんですよ、きつとね。

この前、三騎の会をやろうと言つて、脚本家の池端俊策と私と鶴橋康夫が集まつたらね、鶴橋という演出家が、80過ぎのロートルですが、がこれから7本ドラマを作るんだと言う

から、そんなのもう死んでいるよと言ってるね。また、この前、NHKをやめた若泉久朗さん。この会に引つ張り込んで、酒を飲んでテレビの絶望論を喋ってまして、でも結局お世話になったテレビだから、なんかやらなきゃ拙いんじゃないのという話になって、やっぱり脚本家だ、脚本家がいけないという話になりまして、なんとか脚本家を育てるのにはどうしたらいいかという話を2時間も喋って、結局何も出てこなかったんですけど、でも何かやろうという気持ちだけはあります。

と言うことで、何も出来ない自分がちよつと忸怩たる思いはありますけども、でも、これからも頑張つて行きましょう！（拍手）

二〇一二年 特別賞

NHK「東日本大震災プロジェクト」

フリー・プロデューサー 佐藤 謙治

「復興五輪に想つ」

震災から10年に渡り災害関連番組を制作してきたNHK「東日本大震災プロジェクト」。私はその末席で、ドキュメンタリー「証言記録 東日本大震災」の現場プロデューサーを務めてきました。番組のテーマは「震災をさまざまな角度から記録する被災者の証言」。彼らの切実な訴えを自分事として捉え支える、被災者と支援者の「つながり」や「絆」に主眼を置いてきました。

10年の歳月は被災地だけでなく番組の姿形も変えてゆきます。震災5年を前後する頃から局の内外から「いつまでも悲嘆に暮れている場合ではないだろう」という声が聞こえてくるようになります。ポスト震災をアピールする復興五輪が全面に押し出され、行政に頼らない被災者の「自助」を国が強調し始めた頃です。番組のタイトルバックも「奇跡の一本松」から被災地の「明るい未来」に差し替えら

れ、山積する課題や復興を巡る対立などの生々しい現場は、次第に番組から遠ざけられるようになりました。

なかでも震災7年後に取材した福島県の漁民の番組では、誰のための復興なのか、テレビはそこにどう楔を打てるのか、思い知らされました。当時、漁民たちは自らに課した試験操業と厳しい規制で、魚の放射能汚染が解消されたことを証明。本格操業の目処が立ち始めていました。一方、国は漁民の反対をよそに、膨大な汚染水を希釈し海洋放出する計画を押し進めます。番組は、豊かな海の復活を目指す男達の不屈の挑戦を追いました。

問題の発端は、震災2年後に発覚した汚染水漏れ事故の多発でした。その年、IOC総会の五輪招致で安倍首相は、汚染水は完全にブロックされ「アンダーコントロール」と明言しますが、漁師たちは「オリンピック反対とまでは言わないが、早く元の福島の海に戻してくれ」と激しく反発しました。

制作現場では当初、このシーンを漁民たちの証言を受け、コメントで「汚染水問題は解決されたかのように装われ、漁師たちの願いは置き去りにされていきます」と締めくくる考えでした。当事者の東京電力が「今の状態はコントロールできていない」と認め、国も恒久的な打開策を迫られ海洋放出の検討を始めていたからです。NHK解説委員番組での「汚染水問題の収束には数年以上かかる」と、メディアの大勢も同様の論調だったことを踏まえた上でコメントでした。しかし、結果として放送されたのは、「過熱するオリンピック報道で、福島の厳しい現実を置き去りにされています」に変わります。

問題の本質をオリンピック報道にすり替えるかのような、ぼやかした表現。その経緯



を詳しく述べる余裕はありませんが、突き詰めて言えば、復興五輪＝国策五輪という構図の中での、「政権への悪意が感じられる」という曖昧な理由からでした。改編を受け入れたのは私の責任であり、悔いの残る番組になりました。

翻って、昨年放送された「河瀬直美が見つめた東京五輪」では、「五輪反対デモに参加しているという男性」「実はお金をもらって動員されていると打ち明けた」と表記した字幕が捏造ではないかと問題になりました。シーン冒頭での、肉声ではなくテロップでの唐突で不自然な問題提起。試写では事実の真偽のみならず、番組構成そのものへの疑問の声が上がったのではと思えました。

しかし、会見では「チェック機能が十分に働かなかった」「非常にお粗末」と制作現場のミスが原因とされ、反対デモ参加者への謝罪はありませんでした。BPOが意書で「デモの価値をおとしめようという悪意が介在していたかは不明」と、わざわざコメントした理由を深読みしたくもありません。

さらに、この番組の冒頭では河瀬監督が、「五輪を招致したのは私たち。だからあなたも私も問われる話」と映画の製作意図を述べました。ネット空間には、私はオリンピック反

対なのに「私たち」と一括りにしないで、デモを排除する空気を感した、などの書き込みが飛び交いました。「私たち」という堂々句で、一つの価値観が手っ取り早く全体の価値観にすり替えられることへの反発のつばやきでした。

そうした危うさは、震災報道で連呼された「絆」という言葉のニュアンスにも通じるところがあるように思います。原発事故による自主避難者や健康被害を訴える人々の取材で、明るい未来や希望とセットで語られるとき、「絆は辛い響きに聞こえてくる」と返されることがあります。地域から分断され孤立する実情を掘り下げようとしない、テレビへの苛立ちが言外に感じ取れます。

制作現場の第一線を退いた今、改めて気づかされたのは「私たち」や「絆」という言葉に内包される、見えづらい危うさです。集団に一つの価値観を称揚する共同幻想が生まれるとき、その隠れた裏に率先して絡め取られているのは、実はメディアではないか。集団感染を拡大するスプレッダーの役割を果たすことで、テレビは無自覚に異論を排除する時代の空気を醸し出してはいないだろうか…。

震災から12年を迎える今年、福島では処理水と名を変えた汚染水の海洋放出がカウントダウンの段階に入り、復興五輪は汚職の闇の一端が暴かれるなか、宴の後始末に追われています。権力への付度や悪意の真相は未だ藪の中としても、同調圧力が強まる時代だからこそ、真実に迫る制作者の眼力と覚悟が問われていると自戒の念も込めて思つ次第です。

二〇一〇年 優秀賞 「文化放送報道スペシャル 戦争はあった」

文化放送 鈴木 敏夫

文化放送の鈴木です。はからずも大トリの挨拶になってしまい、何を話そうかと焦っております。私どもはラジオ番組です。もう10年近く「戦争」に関する番組を作

り続けています。しかしテレビもそうだと
思うのですが、正直言って「戦争もの」は
なかなか聴いてもらえないのです。地味で
つまらない番組だと思われがちです。です
から2年前にこの番組を制作した際には

「皆に聞いて貰える番組を作ろう」と言う
目標を立てました。そして打合せで「今年
はサスペンスのような番組を作ろう」とい
う意味不明なことを言い出してしまいまし
た。戦争という極めて重いテーマを軽く扱
おうとしているという誤解を受けそうです
が、とにかくどのような手段であれ、過去
の戦争は身近な場所で起きたのだというこ
とを今に生きる人たちに伝えたいというの
が狙いでした。その題材探しのタイミング
でここにいるアーサー・ビナードさんが

「面白い本を見つけたよ」と持って来たの
が小松左京さんの「戦争はなかった」とい
う短編だったのです。

「戦争はなかった」は1974年に世に
出た作品です。主人公は徴兵されて戦争を
経験したサラリーマンで、ある日、仲間の
同窓会に出席したところなぜか自分以外の
誰も先の戦争のことを覚えていなかったと
いうホラーです。皆に「いつの戦争の話
しているのだ」「戦争なんて無かったよ」
と言われ、主人公は少しずつ精神の均衡を
失ってゆくのですが、我々はこのストーリ
ーを逆手にとって「確かに我々は戦争を見
たことが無い。では戦争は本当に無かつた
のか、それともあったのか探してみよう」
というテーマを立てたというわけです。何
と幼稚な発想かと言われそうですが、今の

日本で戦争があったことを知っている若者
は何パーセントいるのでしょうか？この小
松作品は予知夢のような作品だったと思
います。



5人の記者の分担作業で、ある記者は東
京・板橋に痕跡を残す零戦パイロットの訓
練施設を探に行きました。ある記者は自
宅の近所の女子大学の瀟洒な校舎が実はか
つて陸軍の施設だったことを知りました。

またある記者はインテリジェンス組織の陸
軍中野学校が果たして中野のどこにあった
のかを探しにゆきました。極めつけは文化
放送の川口にある送信所が戦時中はNHK
の送信所で、しかも米軍向けの妨害電波も
発信していた「隠ぺい放送局」だったこと
を知ったことです。一度も足を運んだこと
の無かった自局の送信所を初めて訪ね、そ
の痕跡を捜しました。このように皆の手作
業で戦争を探してみましたところ、東京にも戦
争はあったことを初めて肌感覚で知りまし
た。

自分たちとしてはあくまでも最初の目標
どおりに「サスペンスのような戦争もの」

を作るという目的を果たし、それで終
了。放送関連の賞への出品予定も全くあり
ませんでした。



しかし文化放送のOBである田中秋夫さ
んの声掛けで、放送人の会、ラジオ分科会
の「ラジオ聞き酒の会」に呼ばれて皆さん
の感想を伺うことになりました。すると会
のメンバーのお一人から「君たちは凄
いよ、これは加害の歴史を描いているよ」と
言われたのです。言われても「ああ、そう
なんですか」とすぐにはピンと来ません
でした。そのようなことは考えてもいなか
ったのです。その方から「戦争を取り上げ
る番組は、原爆や空襲など被害の歴史ばかり
でほとんどが加害側としての戦史を描いて
いない、これはなかなか無いことだよ」と
言われました。目から鱗と言うか、まさに
「気づき」ですよね。

同席したアーサー・ビナードさんとこの
会の翌日に「どうやら俺たちは加害の歴史
を取り上げたみたいだよ」「そうだったん
だね」という話になりました。そしてその
時のお褒めの言葉を自信にして、当初は予
定に無かつたのですが、いくつかのコンク
ールにこの番組を出品してみたところ、放
送文化基金や民間放送連盟賞など多くの賞
を頂くことになったというわけです。きつ

かけと気づきを与えてくれたのは間違いな
く「放送人の会」です。

この番組の制作(結果?)を通して我々
が学んだのは、加害の歴史は必ずしも直接
的に表現するだけではなく、様々な表現の
仕方があるのだということです。それは
我々の場合、偶然的な産物だったわけでは
ないかとヒントになりました。私の手
から離れたあとも、送信所のエピソードを
他のスタッフの手によってスピノフとし
て制作した「軍属ラジオ」という番組がギ
ャラクシー賞を受賞しました。その「軍属
ラジオ」という番組にはここにいるアーサ
ー・ビナードさんが引き続き参加していま
す。このようにいろいろな形で実を結んだ
わけですが、すべては、その端緒となった
「放送人の会」のおかげです。あの時いた
だったアドバイスのおかげだと強く感じて
います。

ということで、ここにいるのが話に出て
きたアメリカ人の詩人アーサー・ビナード
さんです。今日は国立でサイン会がありま
したので、来場がちよっと遅くなりました
が、いつもなかなかいい話を聞かせてくれ
ます。ではアーサーさんにマイクを渡しま
す。(拍手)

(追記)当日の挨拶の中でお伝えし忘れた
のですが、この番組がきっかけで小松左京
氏のご遺族ともその後さまざまな情報交換
をする関係になりました。去年は神戸に出
向いてご次男へのインタビューも行い、小
松左京氏が戦争について何を考え、どのよ
うに伝えたかったのかについての思い出話
も伺いました。通常のラジオ番組はスタッ
ジオのただで成立し得るものですが、ドキ

ユメンタリーの場合はそうはいきませんので、外に出て人に触れ合うことになりません。そのことでまた新たな出会いが生まれ、それが次なる番組へのヒントを生んでいくものだと痛感しております。コロナ禍でリモート業務が賛美されがちな時代であるからこそ一層強く感じております。

詩人、俳人、随筆家、翻訳家

アーサー・ビナード

鈴木さんは、いつもハードルを高くしてくれて（爆笑）…。

加害を描いているって言われたときには、「ハァー！」と、初めて気づいたんですよ。全然、加害のことは考えていなくて、何が面白いか？というのを考えていた。

加害者で言うと、僕はアメリカ人になっちゃう。被害加害の線引きだと、僕はいつも向こう側に行っちゃうからね。実は、鈴木さんと作っていたもう一つの番組があったて、その番組の中でホロコーストを体験した方に会いに行つて、（その方はドイツでは無く、練馬区に住んでる方）センス・セグレットさん。皆さん、取材したい方がおれば、こっそり連絡先を教えます。（笑い）

子供の頃に、今のウクライナで体験した人で、ピアニストになってニュージールランドに移住して、またドイツで学んだ中々の強者（つわもの）で面白い方なんですけど、話を聞こうと録音機材を持って会いに行つて、カラオケボックスに入ったら、「俺はね、ホロコーストの話してもしょうがないよ」って言うんです。「どうしてですか？」と聞いたら、「いや、ホロコーストは俺がやったことじゃないんだよ、俺がされたことなんだよ。されたことを喋って

も意味ないんで、仕掛けた奴の話を聞かないと意味ないし、やった人が自分のやったことで人生が決まるし、そう言う話を聞く意味はあるけれど、ただ受け身的にされたことは、もう話を聞いてもしようがない」と言われたんです。

されたことあとに、したことを話して下さいと言って、色々聞いたら、全部語ってくれたんですが、確かに面白いのは自分がしたことなんです。



残念ながら日本の陸軍省・海軍省の多くの戦犯たちが、大日本帝国の大東亜共栄圏で、堂々と自信満々にやったことは、殆ど消されている。書類は焼いちゃったし、みんな喋ってくれないし、聞けてないことが沢山あって、僕は否定肯定とか、被害加害じゃなくて、誰が何をやったかと言うことを聞きたい。そういう思いで聞きに行つたり、僕らよりずっと掘り下げている先輩たち聞いて行つても、戦争の消されているところ、陸軍中野学校は何も無いんですよ。

日本の一番凄い教育機関の中野学校の教科書は、今の小学校中学校高校で使った方がいいんです。エリート教育の最たるもので、天皇批判もOKなんです。中野学校の

教科内容を、今の公立高校でやれば良いじゃないですか。

先ほど、震災の番組の話があつて、11年経つてみんな忘却の彼方、無かつたことになつて、と。

実は福島の第1原子力発電所がメルトダウンスした時に、僕は広島で被爆した者たちの絵本を作っていたんですけど、その時は峠三吉という詩人の本を読んでいたんですね。その峠さんが四國吾郎とその仲間たちと一緒に「辻詩（つじし）」（※1）をやつたり、同人誌（※2）をやつっているんです。その同人誌を持つている先輩がいて、読んで見ると、原爆から4年経つて特集を組んでいて、特集のテーマが「記憶の風化、忘却、広島は消える」というもの。4年しか経つていないのに、もう忘れていく。それで、どうやって語り継ぐかが課題になつている。



僕らが戦争の番組が受けないとかぼやいているけれども、その課題はいつでも、いつの時代でもある。ひよっとしたら日本が一番忘却の彼方へ多くのものを片付けてきた近代国家かもしれない。

だから僕らはどうすれば良いのかと言うと、さつきテレビはつまらないとの話があつたけど、そう、つまらないんですよ、つまらなくしているんですよ、震災の番組を意図的につまらなくして片づけているんじゃないか（笑い）。陰謀論と言われるかもしれないけど（笑い）。

でも、面白く出来るはずで、脚本が大事という話もありましたが、僕は狡いんです小松左京の力を借りたんです（笑い）、左京はスゴいよ！左京の原作は間違いない！だから、もう毎晩、小松左京さんの墓のある神戸の方を確かめて寝ようになっている（笑い）。

先輩たちがいるおかげで、放送人の会もいっぱい良い仕事をしてきました。テレビはどうしようも無いと言つたつて、今まで凄惨番組がいっぱいあるでしょ、それを見返して、これから腐つてもラジオ、腐つても鯛、腐つてもテレビというような番組を作つていったら、とても面白く思いますが、追いつまれているから、逆に出来ることがいっぱいあると思うし、先輩たちがやったことを中心に据えれば面白くなる筈です。

長く喋りましたが、ありがとう（ざい）ました。（※3）（大拍手）

編集部より

※1（参照・Wikipedia）

「辻詩」は、絵を四國、詩は主に峠が担当した一枚モノの手書きの反戦反核ポスター。

2009年〜2021年「われらの詩の会」の若者達が手分けして、市内のあちこちにゲリラ的に掲出した。今のバンクシーのようなアート・アクティビズムの活動。

※2

「われらの詩の会」の会誌

『われらの詩』1979年～83年。
※3

本稿は、編集部の不手際で、アーサーさんが校正をしております。

二〇二〇年 優秀賞 ETV特集

ドキュメント「精神科病棟×新型コロナ」



右より奥、菅野修一さん、持丸彰子さん、

青山浩平さん。

NHK 菅野修一

この度は栄えある賞をいただき大変光栄に存じます。またこうして志を同じくする方々と交流できる場があることは、大きな刺激にもなりますし、新たなものを生み出す原動力になると感じております。

受賞したETV特集「ドキュメント 精神科病院×新型コロナ」は、普段は目を向けられない、それがゆえにブラックボックスになっている精神科病院の内実を、コロナ禍を機に描き出した番組です。

差別的な医療構造や劣悪な環境・扱い、それに向き合おうとしない国や行政の姿勢は、精神科病院の中の話に留まるものではなく、私たち社会が目を背けているがゆえに生まれているもので、誰しもが当事者になりえる地獄

きの問題であることを伝えようと試みました。1年に渡り病院に通い記録し続けたディレクターの愚直な取材によって、そのメッセージは迫力をもって伝わったのではないかと思います。



今、このチームで再び精神科病院をめぐる闇をあぶり出すべく、続編の制作に取り組んでおります。繰り返される虐待や違法な身体拘束といった問題を抱える病院の実情を、内部告発を元にした膨大な記録から明らかにすると共に、こうした病院を存続させている社会の構造や意識を問うものにすべく、取材を続けております。なんとか問題の解決に向けた一歩につながるようにと、今回は番組単体ではなく、ニュースと組み、多角的な発信ができるよう取り組んでおります。

入院している患者の多くは、行き場を失った人たちです。その声なき叫びを世間に届く形で伝えることが、公共放送、そしてドキュメンタリーが生き延びる一つの道であると信じ

ております。

今回も地道で膨大な取材のたまものですが、前作以上のインパクトをもって様々な感情を揺り動かすものになると思っておりますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

（自下旬に、ETV特集にて放送予定です）

渡辺さん、司会進行お疲れさま。



『放送人の証言』30名を

YouTubeでの一般公開します。

URLは

<https://www.youtube.com/@Broadcastst1>
[ngCreatorsTestimony](https://www.youtube.com/@Broadcastst1)

☆今回公開の証言者は30名です。☆
北川 信 (元テレビ新潟社長)
大山 勝美 (テレビドラマ演出家)
橋本 潔 (テレビ美術監督)

川口 幹夫 (元NHK会長)

山本 隆則 (ドラマ演出家)

澤田 隆治 (プロデューサー) 制作会社経営

川竹 和夫 (NHK放送記者)

岡田 太郎 (テレビドラマ演出家)

中道 定雄 (テレビ番組プロデューサー)

田 英夫 (ジャーナリスト)

武 敬子 (ドラマプロデューサー)

新井 和子 (ドキュメンタリー作家)

川平 朝清 (元琉球放送会長)

横澤 彪 (元フジテレビプロデューサー)

大和 定次 (音響効果マン)

末次 撰子 (教養番組プロデューサー)

磯村 尚徳 (ジャーナリスト)

伊藤 豊 (放送機器開発技術者)

守分 寿男 (ドラマ演出家)

村野 賢哉 (科学解説者)

鴨下 信一 (ドラマ演出家)

勝部 領樹 (ジャーナリスト)

金子 鮎子 (女性初のカメラマン)

山川 静夫 (アナウンサー)

青木 賢児 (ドキュメンタリー作家)

鈴木 健二 (アナウンサー)

兼高 かおる (旅行作家)

熊沢 敦 (ラジオ番組プロデューサー)

石橋 恵美子 (フラワーデザイナー) 消え物

杉山 邦博 (スポーツアナウンサー)

公開は2月13日(月) 午前10時からですが併せて書き起した文字ファイルも電子書籍で順次公開予定です。

なお、「放送人の証言」のPR映像は、「放送人の会」のホームページに

掲載されています。

放送メモ・ドキュメンタリー番組 (テレビ) (2022年9月～23年1月22日)

2022年9月のメモで未掲載の番組を含む。

4月2日(土) 23:00～、59分、NHKEテレ ETV特集「私たちは何を目撃しているのか ウクライナ侵攻が変える世界 海外の知性に聞く」

△ノーベル賞作家スベトラーナ・アレクシエービッチ、フランス歴代大統領の政策顧問だったジャック・アタリ、新たな冷戦を警告するアメリカの政治学者イアン・ブレマー。△インタビュー：道傳愛子、D：中田美里、池屋?雅之、鍋島望峰、P：山口智世、制作統括：村井晶子、東野真、

4月9日(土) 23:00～、60分、ETV特集「時を彫る」 ☆☆☆ 少々、とっちらかっているが…。タイトル短くて良い!

△美術院国宝修理所。2020年11月～2年間の取材。京都奈良に4つの工房。120年の歴史がある。35人の仏師。撮影場所と美術品の限定をしない。△古の日本人の心を伝える『時の記憶』、△D：河原愛子、制作統括：伊藤雄介、梅原勇樹、制作著作：NHK京都。△知らなかった!! なんとって、伝統芸は深くて面白い。

4月10日(日) 9:00～、59分、NHKG、NHスペシャル「被災の海 未来をどう築くか」

たくましく再生した被災の海、その現状と課題。△語り：渡邊佐和子、D：立山遼、堀江凱生、藤川正浩、制作統括：宮本康弘、大崎要一郎、石井有、山崎淑行、制作著作：NHK福島・仙台

4月17日(日)～、7:00～、毎月1回・日曜日・60分、NHKEテレ こころの時代～宗教・人生「全6回シリーズ 歎異抄にであう 無宗教からの扉」

日本人の多くが抱く“宗教”への誤解や“無宗教”性は、明治以来の“国家神道”が一因だとし、「歎異抄」が紡ぐ「大いなる物語」が不条理な人生を乗り越えるための新たな扉になる。 出演：阿満利磨(宗教学者、明治学院大学名誉教授。元NHK社会教養部CD)、語り：高橋美鈴、朗読：糸井洋司、D&ききて：鎌倉英也D、池座雅之、P：浅井靖子、制作統括：諫山法子、制作著作：NHK。

4月23日(土) 4:50～、30分、テレビ朝日 テレメンタリー2022「漂流の先 ～商業捕鯨再開4年目 クジラ肉はどこへ行く～」

△商業捕鯨再開4年目を迎えた今、日本最大の捕鯨会社は窮地に立たされる。漁場の制限・捕獲頭数の制限・補助金の停止。△人々の思惑の海を漂うクジラはどこへ向かうのか。 △ナレーター：柘植忠司(山口朝日放送アナウンサー)、D：吉村千秋、P：高橋賢、制作著作：山口朝日放送

4月23日(土) 5:20～、30分、テレビ朝日 日本のチカラ「全盲先生から生徒へ～ラストメッセージ～」

△埼玉県皆野町の町立中学校。全盲の国語教師、新井淑則(60)。普通中学で授業を受け持ち、これまで1000人以上の教え子がいる。△28歳で右目を失明、34歳で左目も失明。△一時は自殺も考えたが音楽教師の妻に支えられ、9年かけて復帰。△障害のあるワタル君は命を懸けて守る…最後の授業で。△ナレ：リリー・フランキー、企画：民間放送教育協会、D：猿渡研二、P：大黒和典、江口英明、雪竹弘一、制作著作：テレビ朝日

4月23日(土) 22:00～、49分、BS1 NHKスペシャル「ブルカの向う側～タリバン統治下の女性たち～」

世界はアフガニスタンを戦争の競技場にした。戦乱の十字路、半年間の記録。△語り：サヘル・ローズ、今井朋彦、撮影：Shams Sullah Shams、河野康明、児玉義弘、取材：山香道隆、高橋潤、内田敢、斑目幸司、D：吉岡英由紀、制作統括：善家賢、新井雅樹、大庭雄樹、制作著作：NHK

4月23日(土) 23:00～、59分、ETV特集「さらば!ドロップアウト 高校改革1年の記録」

70人以上いた退学者を2年間で4割減らした都立八王子拓真高校。高校は最後のセーフティネット。磯村元信校長。子ども食堂と連携、食糧配布、専門家のカウンセリング、進路未定者は卒業後もサポート。△撮影：高山直也、D：山浦彬仁、制作統括：加藤善正、村井晶子、

4月24日 24:55～、30分枠、日本テレビ NNNドキュメント22「知的かみのある私が夢を追ってみた件」

△知的障害がある楓(20)は仕事を辞めてドラマを学ぶ専門学校に進学したい。憧れは敬音(けいん)さん(20)。△楓の両親は複雑な思いを抱くが、仕事の合間にひたむきにドラマの練習する姿に次第に応援するようになる。 △語り：鈴木吾吾、P：柳井宏治郎、D：大平真理子、CP：芝 至

4月30日(土) 23:00～、59分、ETV特集「ウクライナ危機 市民たちの30年」

戦火のキーウで爆撃音を聞きながら、教育大臣などを務めたパルホメンコ(88)は、冷戦終結からの30年を孫(35)に語る。孫は16才まで日本に暮らした。△コーディネーター：西前拓、リサーチャー：鶴藤千恵、高澤圭子、D：久保田瞳、岡田亨、制作統括：梅原勇樹、

5月23日(月) 25:20～、60分枠、CBCテレビ「やったぜ! じいちゃん」 11月27日(日) 10:00～、60分枠、BS-TBS ドキュメントJ×愛知

△印刷屋を営む・脳性小児麻痺の船橋一男(74)と妻・瑞枝、半生の記録。△50年前の番組はボカシが無いので、差別の眼差しがありありと映っている。△ナレ：塩見三省、構成：宮崎祐人、D：仲尾義晴(ホーボーズ)、P：藤井稔、制作協力：HI、制作著作：CBCテレビ、※民放連エンタメ部門の最優秀賞受賞

5月22日(日) 24:55～、55分、日本テレビ NNNドキュメント22「生きる力 神戸連続殺傷25年途絶えた手紙」

△25年の継続取材のまとめ。△97年神戸市須磨区、10歳の女兒と11歳の男児が犠牲に。△「酒鬼薔薇聖斗」は14歳、「少年A」。△娘を失った父・山下賢治さん(73)が初めて社会に思いを発信。“償い”とは何か、そして“生きる力”について問いかけた。△Aが手記の出版後に、被害者の父・賢治さんに送った手紙…弁護士が保管…を読む。△ギャラクシー賞・5月度月間賞。△ナレ：藤田千代美、D：堀川雅子、P：吉川秀和、制作著作：ytv

5月29日(日) 22:00～、49分、NHKBS1 「沖縄返還50年証言記録 沖縄どこにもないテレビ ～人気番組が映した半世紀～」

沖縄のテレビ番組は独特の進展を遂げながら、時代の波と呼応。△アメリカ統治下の厳しい検閲下の広報番組、沖縄言葉を飛び交うコントで、爆発的な人気を得たお笑い番組。歌姫・安室を生み出した番組。△人々や社会はどのような番組を求め、沖縄のテレビ局はどうこたえてきたのか。その歩みをNHK・民放の壁を越え、貴重映像を交えて描く。△！駆け足過ぎる！ 他者の眼差しも必要かも？ 健闘作品だが。語り：ジョン・カビラ、取材：河田めがね、D：渡辺孝、制作統括：小池幸太郎、制作著作：NHK沖縄

6月4日(土) 19:30～21:00、90分、NHKBSP 中国王朝 英雄たちの伝説『悪女たちの裏切り』(3/28にBS4Kで放送)

夫・劉邦の愛妾を「人豚」とした、呂後の残虐。ラストエンペラー溥儀の妻・婉容は阿片におぼれて密通を重ね。側室・文繡は離婚を求め夫を捨てた。△悪女の裏切りの真相とは？ 「悪女」たちの素顔に新しい光が…。△語り：戸田恵梨香、井上二郎、出演：浅田次郎、取材：牟田口山な菜、D：阿部修英、楊央華、P：近藤史人、全万石、國分禎雄、制作統括：堂垣彰久、中野力、制作協力：テレビマンユニオン、トップシーン、制作：NED、制作著作：NHK

<7月8日(土)11時31分頃、安倍晋三銃撃事件、奈良県奈良市の近鉄大和西大寺駅北口付近 >

7月9日(土) 17:30～、80分、TBS

報道特集「銃撃事件の現場から 山上徹也(41)」⇒「統一教会と政治」8/20。家族教育支援条令の制定運動。鈴木エイト、有田芳生。

7月9日22:00～、50分、NHKG、NHKスペシャル「安倍元首相 銃撃事件の衝撃」～中身が無い！～

特定の宗教団体への怨み…統一教会など固有名詞を放送しない。母親がのめり込み献金の果てに家族崩壊。御厨貴(政治学者)のコメント、繰り返しで長い！

8月22日5:00～、60分、NHKEテレ。こころの時代～宗教・人生「被爆者とともに40年～相談員 村田未知子～」

△村田未知子。東京の被爆者団体に相談員となって40年。都内に暮らす被爆者や家族から年間一万数千件の健康や法律に関する相談が持ち込まれる。△仕事を続ける理由は、原爆を体験し苦しみに耐えてなお生きる人々に「人間の美しさ」を見るからだ、と言う。

△語り：コムアイ、D：今理織、P：平位敦、制作統括：鎌倉英也、制作著作：NHK広島

10月2日(日) 21:00～、NHKG、NHKスペシャル「安倍元首相銃撃事件と旧統一教会～深層と波紋を追う～」

キャスター：高瀬耕造、上越大学教授・塚田穂高(話し下手!)。まだ忖度しているのか？ メディアの責任を忘れて…。

10月2日(日) 24:58～、57分、TBSテレビ、ドキュメンタリー解放区「それでも中国で闘う理由～人権派弁護士家族の7年～」

中国で弱者に寄り添い続けた弁護士がある日突然“姿を消す”。「国家の安全」を理由に何も明かさぬ当局。絶望的な状況でも希望を捨てず闘う家族らの7年を追った。△ナレ：豊田綾乃、高柳光希、D：松井智史、延広耕次郎、P：森嶋正也、CP：松原由昌、制作著作：TBS

10月8日(土) 4:50～、30分、テレビ朝日 テレメンタリー2022「コロナ禍の障害者事業所」

障害者の感染者を事業所が引き受け、療養～休業の場をつくる。障害者施設のコロナ病棟化で、大きな損失を被る。大阪の事業所で8,500万円の損失。

ナレ：宮城さつき、D：西村美智子、P：西一樹、製作著作：ABC TV

10月9日/16日(日) 5:00～、60分、NHKEテレ。こころの時代～宗教・人生「2回シリーズ 徹底討論 問われる宗教と“カルト”」

前編『“カルト”問題の根源をさぐる』、後編『宗教といかに向き合うか』 △YouTube版動画が10万回以上再生され、新書を出版。

△前編…論点①“カルト”とは何か？ 論点②社会体制と宗教 論点③現代宗教の“歪み”とは

△後編…論点①宗教離れと宗教集団の“劣化” 論点②政治と宗教のゆくえ 論点③宗教の社会性・公共性

安倍銃撃事件から2か月過ぎの9月中旬、宗教者・研究者6人が集結し、旧統一教会問題から宗教とカルトの本質を徹底討論する。

△出演：島菌 進(宗教学者・東大名誉教授、新宗教)、釈 徹宗(如来寺住職、相愛大学学長、比較宗教思想)、若松 英輔(批評家・随筆家、カトリック信徒)、櫻井 義秀(宗教学者・北大大学院教授、日本カルト協会顧問、87年札幌の霊感商法から、35年間旧統一の問題に関わる)、川島 堅二(牧師・宗教学者・東北学院大学教授、日本脱カルト協会顧問、ここ5年は二世が問題)、小原 克博(牧師・宗教学者、キリスト教思想、宗教倫理学。前編の司会)

△D：矢部裕一、平井敦、制作統括：鎌倉英也。制作著作：NHK。△なるほど…勉強になった。双方向サービスで事前にレジメを配ってくれないかな？

△後編のラスト課題『いま日本人は「道徳と倫理」をどこで学ぶのか？ 学校教育の「修身」だけで良いのか？』は…？？ ☆☆☆

10月9日(日) 14:00～、55分枠、フジテレビ ザ・ノンフィクション「TOKYOデリバリー物語 スマホと自転車とホームレス」

仮名・和田さん(42) コロナ禍で配達員だらけ～ホームレス、△仮名・高山さん、早大政経卒・日本銀行入社、23歳うつ病、28歳退社。FXで94万円の借金。
△つくりの東京ファンD・佐々木大史郎、「現代的な日雇い仕事。困窮の予備軍」△経済が回り始めて、フードデリバリーに逆風。△令和4年度第77回芸術祭参加作品。
△語り：芳根京子、構成：田代格、D：真壁優仁、演出：石飛篤史、P：神野敬久、CP：西村陽次郎、制作協力：ネツゲン、制作著作：フジテレビ、

10月9日(日) 24：55～、NNNドキュメント「ふるさと解散 豪雨時代 被災集落からの警告」

△福岡朝倉市・杷木松末(はきますえ)地区&小河内地区。2017年九州北部豪雨。22年3月小河内地区が壊滅。△18年の西日本豪雨による、災害リスクは住民が減る都市部にもある。△語り：吉瀬美智子(朝倉市出身)、D：安部光慶、樋口淳哉、P：富永大介、制作著作：福岡放送

10月22日(日) 4:30～、30分枠、テレビ朝日 テレメンタリー2022「決断～老人と向き合う82歳～」

ポディービルダーの引退を追う。齋藤忠男82歳、ビルダー歴50年。ガンになった妻を大事にしたい。
ナレ：吉川晃司、D：野本揚三、P：大西雄介、制作著作：愛媛朝日テレビ。

10月23日(日)&30日(日) 14:00～、55分×2回、フジテレビ。ザ・ノンフィクション「あの日 僕を捨てた父は ～孤独な芸人の悲しき人生～」

ゲーム芸人・藤田は認知症の父に振り回される…。かつて、女と駆け落ちして、息子と母を捨てた父は今や認知症でバチンコ好き。△語り：宮崎あおい、
構成：石井成和、撮影・演出：朝川昭史、P：石川剛、CP：西村陽次郎、制作協力：NEXT EP、制作著作：フジテレビ。

10月29日(土) 21:00～、120分、NHKEテレ「ワルイコあつまれ 秋の大感謝祭SP」

構成：鈴木おさむ、デーブ八坂、永井ふむふむ、P：甲斐洋威、小野？ D：鎌野瑞穂、福本悠、制作統括：原田秀樹、大西健次郎、キャスター：高瀬穂希アナ
出演：稲垣吾郎、草薙剛、香取慎吾、明石家さんま、山本耕史、真矢ミキ、黒川智花、利重剛、加藤清史郎、関根麻里、関ミナティー、

10月29日(土) 22時30分～、90分、NHKBSP。「贋作の誘惑 ニセモノVS.テクノロジー」

△美術鑑定と贋作の果てなき戦いの最前線をヨーロッパに追う。△伝説の贋作師バルトラッキに独占取材！△飛躍的な進化を遂げる鑑定テクノロジーと、さまざまなテクニックを駆使する贋作者たちの熱き戦い。△贋作師が驚きのテクニックと哲学を披露。△ホンモノとは？ニセモノとは？アートとはなにか？
語り：小山英美、D：田原靖士、P：藤波重成、制作著作：木道社、制作著作：NHK

10月30日(日) 5:00～、60分、NHKEテレ。こころの時代～宗教・人生「オモニの島 わたしの故郷 映画監督 ヤン ヨンヒ」

△私は難民の娘だと分かる、2018年4月認知症の母とチェジュド(済州島)を訪れ、私は故郷を貫つた。△家族が北の収容所に入れられても、映画を作り続けるか否か、その覚悟が問われるとは…。△撮影：吉田洋平、D：京田光広、制作統括：井上利丸、花村芳輝、制作：NEP、制作著作：NHK大阪 ☆☆☆☆
△1964年大阪・猪飼野生まれ。戦前、父は済州島から猪飼野へ、後に朝鮮総連の幹部になる。70年民族学校に通うが、次第に反発。71年、帰国事業で次男と三男が北へ。72年長男が帰国命令、後に精神を病む。△87年朝鮮大学校卒、国語教師になる。94年ビデオカメラを持って朝鮮へ、家族のホームビデオを作る。
97年ニューヨークに学ぶ。7年間。03年ニュースクール大学大学院で修士号取得・映画『ディア・ピョンヤン』以下、略。
△リメイク版…ETV特集・1月21日(土) 23:00～、60分、追加取材：ソウル・済州島・東京、インタビューで新たな構想を語る。△語り：萩原聖人、朗読：下間都代子、△撮影：吉田洋平、D：京田光広、制作統括：花村芳輝、井上利丸、村井晶子。△見やすくはなっているが…。

10月30日(日) 22:00分～、49分、NHKBS1、BS1スペシャル「翻弄される国境の町～フィンランド・カレリア地方～」

コロナ&ウクライナ戦争で国境検問所が閉鎖される。町でたった一つのレストランも閉鎖される。店主のマルガリータ(52)をとおして描く。
撮影：今井巧、D：久保田直、制作統括：松永真一、三浦尚、毛利匡、制作：NED、制作著作：NHK、ソリッドジャム

10月30日(日) 25:00～、30分、NNNドキュメント「シリーズ大廃業時代① 潮時 ～自主廃業という選択」制作：テレビ金沢

11月6日(日) 24:55～、30分、NNNドキュメント「シリーズ大廃業時代② 継ぐ ～このバトン受け取るのは…」制作：テレビ新潟

△①黒字なのに後継者不在で廃業。54,700件の6割が経営余力を残した諦め廃業。魚屋、リボン工場。△語り：屋良良作

△②上越西造の場合。公営ギャンブル企業～「日本トーター」が券売機・払い戻し機の製造に変わるものを求めた。オートレース場の点検保守をしていた50代男性が酒造りの修業を始める。△語り：前田佳織里、撮影・編集：九十歩陽仁、D：阪野茂、P：倉島実、制作著作：テレビ新潟

11月5日(土) 23:00～、ETV特集「ブラッドが見つめた戦争～あるウクライナ市民の8年～」

△通称ブラッド(声は西野Dが担当)・市民兵(32)映像ディレクター、SNSで発信。△ヤヌコーヴィッチ政権を崩壊へと導いた、2014年のマイダン革命から。
語り：井上二郎、D：西野晶、取材：浅川芳穂、制作：NED、制作統括：東野真、三浦尚、吉岡攻、制作著作：NHK、オルタス・ジャパン

11月5日(土) 26:00～、55分枠、ザ・ノンフィクション「そこにおいて いいんだよ もじゃくん夫婦と不登校の子どもたち」

△横浜市泉区、学べる居場所「かけはし」。廃校跡を借りたフリースクール。代表・廣瀬貴樹(もじゃくん・夫39) 千尋(ちーさん・妻41)。子どものように走る夫と振り回される妻。△資金計画などは無縁のもじゃくん、市長も視察しただけで、様々な試みは実を結ばない…。それでも子どもたちの笑顔がある。

△語り:高梨臨、構成:石井成和、演出・撮影・編集:込山正徳、CP:西村陽次郎、制作協力:ファルーカ、制作著作:フジテレビ

11月12日(土) 4:50～、30分枠、テレメンタリー2022「わたしの使命 ～希少ガン闘病者からのエール～」

△熊谷誠司(56)、10万人に1人の希少ガン『膠芽腫』。△指圧師、妻と長女。生きた証を残したい。恩返しのため闘病生活を伝えたい。

△撮影・編集:山川昭彦(トラストネットワーク)、D・ナレ:佐藤彩加、P:杉沼勤、制作著作:山形テレビ、

11月27日(日) 24:55～、55分、NNNドキュメント「大きくなった赤ちゃん～ゆりかご15年～」

△熊本市・慈恵病院の赤ちゃんポスト『このとりのゆりかご』。2007年に開設。△これまで161人が預け入れられた。出目が分からないケースは約2割に上る。

△開設日当日、最初に預けられた子どもが3歳の宮津航一さん。△宮津さんをメインに追う記録ドキュメント。△高校2年の冬に、里親と養子縁組をして戸籍の上でも家族となった。△今年4月大学に進学。実母の10回忌に植えた桜が初めて咲いた。△ほかに、内密出産と出自情報の保管の問題…ドイツの制度を学ぶ。△出産する女性の出目が分かるものを『封筒』に残す。その封筒をどこで保管し、赤ちゃんが何歳になったら開封するのか?

△日本は、制度は認めたものの、保管は病院、開示の年齢も定義しなかった。△ナレ:大東駿介、D:吉村紗邪、P:村松正哉、制作著作:くまもと県民テレビ

12月3日(土) 4:50～、30分枠、テレメンタリー2022「人生やり直し請負人 幅5センチの塀の上にて」

△中溝茂寿(57)が福岡中洲で営むビル管理会社は従業員の半数以上が元受刑者。△中溝も元組員、古傷を守るため右手に手袋を装着。現在は法務省の協力雇用主として従業員の社会復帰を後押しし、自らも再犯の恐れと闘う中溝社長の日々を取材。△刑事事件の再犯率は49%。覚醒剤の再犯率は70%。中溝は再犯が怖いから、更生保護の世界にいる。△ナレ:藤崎健一郎アナ、撮影・D:平岩和之、カメラ:山本喜丈、藤井啓之、P:西一樹、制作著作:ABCテレビ。

12月3日(土) 20:00～、50分+50分、NHKBS1、BS1スペシャル「こうして僕らは医師になる ～沖縄県立中部病院研修医たちの10年～」

△2012年の研修医29人の中から2～3人をピックアップ。今の奮闘を描く。研修医時代の映像を織り込みつつ。△錦見満唯・広島中央病院の感染症/救急医療、研修医から感染症を学びアメリカへ広島へ。元広島カープの池谷さんをエクモから離脱させる。△長嶺由衣子・神奈川県秦野市で在宅医療に取り組む/栗島島で2年間一人で診療、訪問診療も。△船戸雅史・医療コンサルタント(公衆衛生)、癌の再発患者の治療を国立がん研究センターと取り組む。/離島～ハーバード大。

語り:田中圭、D・撮影:下村幸子、制作統括:松永真一、太田宏一、制作:NEP、制作著作:NHK、☆☆ 長期取材の厚み!

12月11日(日) 24:55～、30分枠、NNNドキュメント「無国籍ブルー」

△愛知県美浜町、一人暮らしの滝澤ジェロム、無国籍の大学4年生。△母親は当初、滝澤という名字の日本人男性と結婚し来日、すぐに別居し、日本で知り合ったフィリピン人男性との間に、99名名古屋市中でジェロムを産んだ。△9歳の時、家族全員が不法残留で摘発され、両親は収監、児童養護施設に預けられる。

△処遇は「不法残留からの仮放免」で、許可なく県外へ移動や就労は禁止される。△中学生の時、ジェロムには国籍がないことが発覚。無国籍の理由は母親にある。不法残留の発覚を恐れ、フィリピン大使館に出生届を出さなかった。△小学校入学のため名古屋市に出生届を出したが、日本国籍は取れない。

△18歳で児童養護施設を出た後、奨学金でなんとか日本福祉大学に入学。△大学2年の時、日本への定着度などが考慮され、在留特別許可がとれた。在留カードの国籍欄は「フィリピン」。△2021年11月東京の児童養護施設に入社が決まる。△2022年4月書類がすべて揃い、ジェロムはフィリピン国籍を取得した、『エシル・ジェロム』。『滝澤』の名字は使えなくなる。△日本国際事業団(JSCC)の無国籍相談ファイルの厚さが、この国の現実です。

△ナレ:永田亮子、撮影:岡本亮、監修:安川克己、D・撮影:成瀬裕平、P:中保謙、製作著作:中京テレビ。☆☆☆

12月17日(土) 23:00～、89分、NHKBS1。 軍人スポークスマンの戦争～大本営発表の真実～

△太平洋戦争期、戦況を人々に伝えた「軍人スポークスマン」。「大本営発表」は後に虚偽の代名詞となる。△彼らはどんな思いでそれを伝え、敗戦後、どう振り返っていたのか? △今回、焼却を免れた「大本営発表」の原稿を発掘。読み解くと、当初は正確を期した発表が、やがて虚飾に染まっていく。

△出演:保阪正康、辻田正憲、D:秋山浩之、中山真太郎、制作統括:齋藤圭介、匂坂縁里、制作著作:NHK、TBSスパークル。

12月17日(土) 23:00～、60分、ETV特集『子どもたちのために(マジ時々笑)▽絵本「動物会議」で戦争を語り合う』

△第1章「〇〇のために」、第2章「絶望と希望」第3章「かしこい大人」。ゲスト:高橋原一郎、ヨシタケシンスケ(絵本作家)

△『動物会議』は、戦争を止められない愚かな人間に、動物たちが「子どもたちのために」と団結して立ち上がり、奇想天外な方法で平和を創り出す物語。ドイツの児童文学作家ケストナーによる73年前の作品。△人間は問題を暴力でしか解決できないのか。△お茶の水付属小学校の子どもたちの喋りが、イマイチ。

D:松原翔、制作統括:東野真、制作著作:NHK、

12月23日(土) 21:00～、60分枠、NHKBSP。新日本風土記「空き家」

△全国850万戸の空き家。少子高齢化や過疎化で増える。△新たな希望。①徳島県神山町では空き家を活用し移住者の店やIT企業のオフィスなどが次々オープン。②山梨県韮崎市では元ランドマークの商業ビルをリノベーションし商店街も活性化。③茨城県では元スーパーが在日外国人の宗教施設に。④岩崎では元遊郭がシェアハウス。⑤石巻では元布団屋が映画館。△日本全国の空き家を巡る旅、復活と再生の物語。☆☆☆ 手間がかかっている？

語り：中條誠子、井上二郎、撮影：吉田誠、石井有生、D：室口裕、岸田浩和、取材：中村賢二、リサーチャー：成瀬康生、P：佐野達也、伊藤純、制作統括：末次徹、斎藤直子、制作：NEP、制作協力：、、(ten-ten)、制作著作：NHK。

NHKスペシャル「未解決事件File09 松本清張と帝銀事件」

12月29日(木) 21:00～、89分、NHKG。①『松本清張と“小説 帝銀事件”』真相に迫った清張の知られざる足跡を追う。ドラマ。

12月30日(金) 21:00～、59分、NHKG。②『74年目の真実』不可解な供述記録をAI解析、動機は？ドキュメント。

①脚本：安達奈緒子、D：梶原登城、P：桑野智宏、新名洋介、制作統括：松本卓臣、山崎啓明、出演：大沢たかお、要潤、井川遥、迫田孝也、山崎銀之丞、千葉哲也、榎木孝明、佐野史郎、豊原功補、法律監修：石井威一郎、制作著作：NHK。△ドラマの演出力未熟！

△弁解すれば、帝銀事件で果たせなかった思いが、『日本の黒い霧』の名作を産んだ…これって、ちゃんと失敗したことを見せる。ドラマとして面白いかい？

②D：中川雄一朗、中川治輝、新名洋介、制作統括：松本卓臣、山崎啓明、制作著作：NHK。△占領期、闇は消された。

12月30日(金) 19:00～、50分+50分、NHKBS1。BS1スペシャル「SAND IS THE NEW GOLD ～世界を巻き込む砂の争奪戦～」

△直面する砂不足。砂は宝物。コンクリート、水道水、さらに半導体にも欠かせない天然資源。△川原は取り尽くした！爆発的な需要から、国連も枯渇が懸念。

△3年に渡り、世界各地の熾烈な砂争奪戦の裏側を取材した調査報告。△輸入業者の宇佐さんをメインに追う。△中国資本がマレーシアの砂を飲み込む。円安で輸入できない！砂の獲得を国家戦略の肝に据える中国。△「九州スターグループ」台湾で盗掘、没収した浚渫船が競売にかけられ、台湾人経由で中国人が買う。△また、浚渫船建造を加速し、中国航空建設は船200艘。世界で加速する港湾開発に進出。ブラジル・港湾建設⇔大豆の輸入。△砂漠の砂を資源化する…石炭の燃えかすフライマッシュ、コンクリートへの実用化。△ベトナム…砂の盗掘で川岸が浸食され50万人が危機。△九州馬毛島の自衛隊滑走路、宇佐さんは手配できるか？

語り：豊原謙二郎、取材：張景生、???D：新里昌士、制作統括：夏目亮平、制作著作：NHK。☆☆年の瀬に、勉強になったぞ！

『映像の世紀バタフライエフェクト』 4月22日(月) 22:00～、45分、NHKG

蝶の羽ばたきのような、ひとりひとりのささやかな営みが、いかに連鎖し、世界を動かしていくのか？

第24回『世界を変えた“愚か者” フラーとジョブズ』 11月7日。 第26回『戦場の女たち』 12月9日。

拡大版73分『ロックが壊した冷戦の壁 SP』 12月30日。これは、第3回・第5回・第23回を再編集した。

第3回『ベルリンの壁崩壊 宰相メルケルの誕生』歌手ニナ・ハーゲンの「カラーフィルムを忘れたのね」が英語版になり…。

第5回『ヴェルヴェットの奇跡 革命家とロックシンガー』

アメリカのロックバンド、ルー・リード率いる「ヴェルヴェット・アンダーグラウンド」の「I'm Waiting for the Man」がプラハの春へ。

第23回『ソ連崩壊 ゴルバチョフとロックシンガー』ソ連のロックバンド「キノー」

～参考・『映像の世紀』の歩み～

『映像の世紀』国際共同取材：ABC、1995年～3月～、月1回、75分・全11回。

『新・映像の世紀』NHK放送開始90周年・終戦70周年記念特番、2015年10月下旬～、月1回、75分・全6回。

『映像の世紀プレミアム』2016年5月～2020年1月、不定期、90分・全15回。

『映像の世紀』と『新・映像の世紀』を合体し、新たな映像を追加し、芸術・女性・兵士などテーマごとに紹介。

☆☆ 『放送人の証言』・YouTube公開中・第弾 放送人・30名のインタビュー映像を公開しています。☆☆

URLは <https://www.youtube.com/@BroadcasutingCreatorsTestimony>

放送人の会は2021年より、「放送人の証言」をもとに、これからのメディア文化の礎とすべく、IL(情報経営イノベーション専門職大学)とデジタルアーカイブ化事業を立ち上げ、総勢200人を超える方々のインタビュー映像をデジタルで編集・蓄積しつつあります。公開の第一弾として、2月13日(月)午前10時より、30名を公開中

放送人グランプリ 2022」ラジオ部門候補 <候補9番組>

① 11月27日(日) 20:00~20:59、60分、中国放送 生涯野球監督 迫田穆成 ~終わりなき情熱

△ナレ・取材・構成：坂上俊次(RCCアナウンサー)、D：角 賢直(RCCフロンティア)、技術：黒元敬太(サウンドオフィスクロスロード)、P：増井威司。
△第77回文化庁芸術祭賞・ラジオ部門大賞受賞。△迫田穆成(さこだ・よしあき)の人生、野球感、世界観に迫る。△6歳で被爆し、広島商業時代に甲子園制覇。同校監督として1973年に優勝。怪物・江川投手を2安打で攻略して名将と称され、83歳の今もなお、生徒数150人の県立竹原高校野球部を指揮する。

② 5月29日(日) 19:00~19:55、55分、山形放送 鉄格子に顔押し付けて 21枚に刻み込んだ“抵抗”

△ナレ：松下香織、朗読：小坂憲央、取材・編集：伊藤翼、△戦前、小学校教師の斎藤秀一は子どもたちにローマ字を教えて共産主義者だとして何度も逮捕され、投獄の末、肺結核のため31歳の若さで亡くなる。言論弾圧に抗い信念を貫いた生き方を、彼の残した言葉・獄中の詩、関係者の証言などから解き明かす。朗読劇をうまく取り入れることで言論弾圧の愚かさを描き出したとして、2022年日本民間放送連盟賞・番組部門・ラジオ報道部門・優秀賞を受賞。第77回文化庁芸術祭賞・ラジオ部門優秀賞受賞。

③ 1月2日(日) 26:00~27:00、60分、ニッポン放送 あの日の「誓い」から10年 始まった共生社会への挑戦!

△出演：小椋汐里(仙台市立台原中英語教諭)と生徒のみなさん、ナレ：上柳昌彦、△P：遠藤竜也、D：森田耕次、構成：桜林美佐、
△東北大地震から全盲の女性を長期取材している。10年前の誓いを胸に中学校の英語教師として教壇に立つ。戸惑う生徒たち。△生徒たちと信頼関係を築く、プロセスが丁寧に描かれている。△取材を継続してきたスタッフの熱意を感じる。△「共生する」とは…理屈を超えた主人公の志が胸を突いた。
△第77回文化庁芸術祭賞・ラジオ部門優秀賞受賞。

④ 6月4日(土) 22:00~22:50、50分、NHK-FM FMシアター「琥珀のひと ~たゆたうこと いきること~」

△脚本：新井まさみ、音楽：青葉市子、出演：石橋蓮司、志田彩良、斎藤暁、ほか。△技術：品川明加、音響効果：坂本愛、演出：内藤朝樹、制作統括：高山英男、制作著作：NHK宇都宮放送局。△楓の森でメープルシロップを作り、孤高に生きるモーリー(石橋蓮司)を女子学生(志田彩良)が訪ねて来る。二人の交流を通して、原発事故の放射能の影響で栃木の山林、川、湖が汚染され仕事を失った人たちが、その不条理な中でどう生きて行くかを問いかける。△地方からの発信に拍手。△第77回文化庁芸術祭賞・ラジオ部門優秀賞受賞。

⑤ 5月15日(日) 19:00~19:55、55分、TFM/5月22日(日) 21:00~21:55、55分、FM沖縄

FM沖縄・TOKYO FM共同制作 沖縄本土復帰50年特別番組 血や怒り悲しみでもなく人を抱く色として咲けハイビスカスよ

出演：普天間かほり、平山良明、屋良健一郎、佐藤モニカ。△総合P：延江浩、原田洋子(報道情報センター専任部長)、又吉里香(FM沖縄・放送制作部)
△2022年5月15日、沖縄は本土復帰50年を迎える。番組タイトルは屋良健一郎が詠んだ短歌。△沖縄出身の普天間かほりが、沖縄で歌われてきた「短歌」を通して、この50年について皆さんと考える。△国頭郡今帰仁村生まれの87歳の歌人・平山良明が、日本で唯一の地上戦が行われた戦時下の沖縄から振りかえる。
△沖縄で短歌研究と創作を続ける名桜大学の屋良健一郎と歌人・佐藤モニカ夫妻に、本土復帰50年のその節々の想いを表現した短歌などを読み解く。

⑥ 6月26日(日) 20:00~20:55、55分、TBSラジオ 荻上チキが見たウクライナ ~見過ごされる声に耳を傾けて~

※会報96号・P9に紹介文が掲載されています。

⑦ 8月11日(木・祝) 20:00~21:00、60分、文化放送 文化放送戦後77年スペシャル 13歳少女の『決戦日記』~天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ~

※会報96号・P10に紹介文が掲載されています。

⑧ 9月19日(月・祝) 13:30~15:55、145分、ふくしまFM 吉田拓郎を語ること~あゝ、それが青春~

△パーソナリティ：鈴木美貴子、古賀徹。△2022年いっばいで、52年間の音楽活動から卒業を表明した吉田拓郎。福島民友新聞社の紙面とコラボして、福島県に住むみなさんで「吉田拓郎にまつわる青春の思い出」を、思う存分語り合う特別番組。△思い出に残る吉田拓郎の1曲をエピソードと一緒に募集。

⑨ 1月3日(火) 20:00~、55分、文化放送 象のRADIO~キャンティの時代

△出演：川添象郎、制作：鈴木敏夫、佐藤理恵子(フリー) △『象の記憶』の著者・伝説の音楽プロデューサー川添象郎(かわぞえしょうろう、81歳)が、自らの半生を語りながら、ヒット曲誕生の秘話を語る。△フラメンコギタリスト、音楽プロデューサー、空間プロデューサーとして日本の文化を作ってきた仕掛け人を支えたのが父親・浩史で、その父が開業した飯倉のイタリアンレストラン「キャンティ」には、加賀まりこや大原麗子、三島由紀夫、大江健三郎、イブ・サンローラン、イブ・モンタン、シャーリー・マクレーン、ジャン・リュック・ゴダールらが集まって化学反応が生まれる…。

<オマケ 個人・団体 > 赤江さん、武田さん、FM沖縄さん、檜原さん (※アイウエオ順)

2022年の話題の『連続・テレビドラマ』（参考資料：Real Sound 小田慶子の『SNSの厳しさに耐えて戦っていた10本』より）

1. **エルビスー希望、あるいは災いー** カンテレ 10月24日（月）22時54分枠・10回
脚本：渡辺あや、演出：大根仁、P：佐野亜裕美、制作：ギークピクチャーズ、出演：長澤まさみ、眞栄田郷敦、連続殺人事件の冤罪。 ☆☆☆☆
2. **鎌倉殿の13人** NHKG
脚本：三谷幸喜、演出：吉田照幸ほか、制作統括：清水拓哉、尾崎裕和、出演：小池栄子が出色！ 小栗旬ほか
3. **カムカムエヴリバディ** NHKG 2021年11月1日から2022年4月8日、112回。
脚本：藤本有紀、演出：安達もじりほか、制作統括：堀之内礼二郎、櫻井賢、出演：三代ヒロイン・上白石萌音、深津絵里、川栄李奈 ウクライナ侵攻とリンク。コロナの影響で放送開始が1か月遅れる。
4. **初恋の悪魔** 日本テレビ 7月16日（土）22：00～、54分枠×全10回
脚本：坂元裕二、演出：水田伸生ほか、P：次屋尚、池田禎子（ザ・ワークス）、CP：三上絵里子、出演：林遣都、仲野太賀、安田顕ほか 役者の怪演で見ちゃう！ 連続殺人事件の冤罪
5. **あなたのブツが、ここに** NHKG 8月22日～、月曜～木曜、全6週・24話×15分
脚本：櫻井剛、演出：益子原誠、棚川善郎ほか、制作統括：櫻井壮一、出演：仁村紗和、佐野晶哉（関西ジャニーズJr.）、毎田暖乃、岡部たかしほか シングルマザーのキャバ嬢がコロナ禍で、宅配ドライバーに転進するが…。
6. **Silent** フジテレビ 10月6日（木）22：00～、54分枠×全11回
脚本：生方美久、演出：風間大樹、高野舞ほか、P：村瀬健、出演：川口春奈、目黒蓮、篠原涼子、鈴鹿央士、夏帆、
「若年発症型両側性感音難聴」。別離の悲しさ。コミュニケーションとは。

(※) 最終話の視聴率(ビデオリサーチ調べ・関東地区)は、番組最高の個人全体5.3%、コア5.3%、世帯9.3%を記録。
コア視聴率が5%を越えたのは、18年の『グッド・ドクター』以来。録画視聴率も常にトップクラスだった。
(出典：12/22「TVLIFEweb」、12/23「東洋経済ONLINE」より) (なお、コアの個人視聴率=13歳～49歳の男女の個人視聴率。)
7. **空白を満たしなさい** NHKG 6月25日（土）22：00～、土曜ドラマ・全5回×49分。
原作：平野啓一郎、脚本：高田亮、演出：柴田岳志（NEP）、黛りんたろう、制作統括：勝田夏子（NEP）、落合将、出演：柄本佑、鈴木杏、萩原聖人、死んだはずの人間が生き返る、主人公は自殺と言われるが、記憶は無い。殺されたのか？ 生きる意味・幸せの意味を学ぶ…。
8. **石子と羽男—そんなことで訴えます？—** TBSテレビ 7月15日（金）22：00～、54分枠・全10回
脚本：西田征史、演出：塚原あゆ子ほか、P：新井順子、制作：TBSスパークル、制作著作：TBSテレビ、
東大卒のパラリーガル「石子」と、高卒の弁護士「羽男」が、凸凹コンビを組み、人々が抱える身近なトラブルに挑みながら、お互いのコンプレックスに
向き合い成長していく姿をコミカルに描く。
9. **17才の帝国** 5月7日（土）22時～、50分・全5回、NHKG
脚本：吉田玲子、D：西村武五郎、プロデューサー：佐野亜裕美（関西テレビ）、制作統括：訓覇圭、出演：神尾楓珠、山田杏奈、星野源、河合優実ほか
AIが選出した若きリーダーたちが地方都市を未来都市に変えようと奮闘する、SFエンターテインメント。
10. **おいしいサム!!** 1月8日（土）23:40～、44分・全8回、東海テレビ・日本映画放送共同製作連続ドラマ
原作：伊藤理佐、脚本・演出：山口雅俊（ヒント）、企画：市野直親（東海テレビ）、P：遠山圭介、塚田洋子（日本映画放送）ほか、
出演：吉田鋼太郎、木南晴夏、佐久間由衣、武田玲奈、MEGUMI、
何かと融通が利かない父と、男を見る目がない三姉妹、そして全てを超越した母が織りなすラブ&ファミリーコメディ。

2022年の話題の『テレビドラマ&バラエティー』 ～下馬評座談会から～

恋せぬ二人 NHKG 1月10日(月) 22:45～、30分・8回

脚本：吉田恵理香、演出：野口雄大、制作統括：尾崎裕和、出演：岸井ゆきの、高橋一生。

内容：アロマンティックアセクシャルを通して、生き方を問いかける。第40回向田邦子賞の受賞作。令和4年度文化庁芸術祭優秀賞。

拾われた男 NHKBSP 6月26日(日) 22:00～、45分・10回

原作：松尾諭、脚本：足立紳、D：井上剛、制作統括：真鍋斎、成田岳、制作著作：ウォルト・ディズニー・ジャパン、NEP、

出演：仲野太賀、伊藤沙莉、鈴木杏、草彅剛 達者な作り。

しもべえ NHKG 1月7日(金) 22:00～、44分・8回

しもべえ 特別版 NHKBSP プレミアムドラマ 9月25日(日) 22:00～、49分・全8回、10年後と、しもべえ誕生秘話が漸く

原作：村田ひろゆき、脚本：荒木哉仁、遠山絵梨香、D：山内大典、紙谷楓、制作統括：谷口卓敬、小林宙(共同テレビジョン)、

出演：安田顕、白石聖、金子大地、矢作穂香、ずっと喋らない安田顕さんが面白かった。

正直不動産 NHKG 4月5日(火) 22:00～、44分・10回 ドラマ10

原案：夏原武・脚本：水野光博・作画：大谷アキラ、脚本：根本ノンジ、

D：川村泰祐(アンドリーム)、金澤友也・野田健太(テレパック)、制作統括：野沢淳(テレパック)、山本敏彦(NEP)、岡本幸江(NHK)、

出演：山下智久、福原遥、市原隼人、草刈正雄、制作：NEP、制作著作：NHK、テレパック、

ガラパゴス NHKBSP・4K 2023年2月6日(月) 21:00～、89分・2回 特集ドラマ

原作：相葉英雄、脚本：戸田山雅司、D：若松節郎、制作統括：谷口卓敬、八木康夫(テレパック)、

出演：織田裕二、桜庭みなみ、満島真之介、伊藤英明、高嶋政宏、鶴見辰吾 自動車業界と人材派遣の闇を描く

私のバカせまい史 フジテレビ 22年2月より不定期に放送

第1回2月26日、第2回5月6日 24:58～60分枠 ギャラクシー賞・月間賞、

第3回9月29日 20時～21時54分・SP、第4回10月12日(水)～25時台、30分枠・全6話

CP：島本亮、総合演出企画：加藤智章、P：池田拓也、須藤景子、演出：錫木亮、D：神垣光、亀山剛志、飯塚桂子、菊池駿介、

誰も調べたことのない「せま〜い歴史」を芸能人が独自の解釈でプレゼン！ 武田鉄矢のものまね進化史、愛憎グルメ史、

あたらしいテレビ NHKG 1月1日 23:05～、60分。

語り：小藪千豊、構成：長崎周成、堤義明、D：寺田穂波、P：平野義高、制作統括：三好健太郎、坂部康二、制作：NHP、制作著作：NHK、

スタジオ出演：佐久間宣行、パンサー向井慧、あの、杉浦友紀アナウンサー、

VTR出演：津田健次郎、生方美久、湯浅政明、毎日暖乃、戸田奈津子、林士平、えなこ、Ado、

VTR出演：竹村武司(放送作家)、原田和実(フジテレビ)、大森時生(テレ東)、小山テリハ(テレビ朝日)、Aマッソ加納、

VTR出演：フワちゃん、milet、上白石萌音、

カノッサの屈辱 JOCX-TV2(フジテレビ) 90年4月9日(月) 24:20～91年3月25日、30分枠・全42回

企画：ホイチョイ・プロダクションズ、構成：小山薫堂ほか

あの胸が岬のように遠かった～河野裕子と生きた青春 NHKBSP 6月6日(月) 21:00～、89分。 ドラマ&ドキュメンタリー。

原作：永田和宏「あの胸が岬のように遠かった～河野裕子との青春」、出演：柄本佑、藤野涼子、

D：毛利安孝、撮影：夏海光造、脚本・演出：石澤義典(テレコムスタッフ)、脚本・プロデューサー：伊藤純、

制作統括：東野真(NHK)、柴田周平(NEP)、大伴直子(テレコムスタッフ)、制作：NEP、制作著作：NHK、テレコムスタッフ

<内容> 最愛の妻が亡くなったあと、若いころに綴られた日記が見つかった。そこには2人の男性の間で揺れ動く切ない恋心が、数々の短歌とともに瑞々しい筆致で綴られていた。夫は日記を頼りに、青春の日々を追想する心の旅に出る…。

ほんたうに俺でよかったのか BS1スペシャル 2月25日(金) 20:00～、60分、NHKBS1。ドキュメンタリー。

放送人グランプリ下馬評座談会

恒例の下馬評座談会をお届けします。いつものようにA、B、C、Dとあるのは段落記号のようなもので、特定の発言者を示すものではありません。

グランプリノミネートの参考にして下さい。投票締切は、3月17日(金)です。

◇22年から23年へ、放送「思ひこ」

NHK会長の行方

A 今日NHKの新社長・稲葉延雄が就任する日。昨日は前田会長の退任の日で、正面玄関から職員に見送られてNHKをあととした。

見送りの数で会長の人気と実績が分かるが、私が取材したところでは二〇〇人だったそうです。おそらく、動員をかけられたのでしょう。過去、外部から来た会長では、アサヒビール出身の福地茂さん(二〇〇八年一月〜二〇一一年一月)、J R東海出身の松本正之さん(二〇一一年一月〜二〇一四年一月)にくらべるとはるかに少ない。あの二人の時は4階玄関が人で埋まるようになった。

B 週刊東洋経済1月28日号の特集「NHKの正体」に、元総務相の武田良太・衆院議員のインタビューが出ています。これが凄く、放送法

の概念を全く理解していない。「受信料の1割超値下げは、菅総理の施政方針演説にもあった公約で、自民党の参院選公約にもしている。それを前田会長は衛星だけの値下げにしようとした。国民との約束を公然放送が破るのは言語道断だと、地上波も含む値下げに戻した。『NHKのチェック機関は国会であり』選挙で支持を得た政権が影響力を持つのは当たり前だ」と言う。

C 嘩然のひと言だ。こう言う大臣に対してメディアは何をしたか、だ!

「歴代の会長の中でも、政治、政府自民党の影響を強く受けた会長だ」とあったが、全くその通りだね。これで、会長がみずほ銀行から日本銀行出身に替わるわけだが、システム障害が未だに尾をひいている、みずほの前田さんより、まだ日銀の方がまし……?

D 朝日新聞が前田会長の3年を総括して、

「歴代の会長の中でも、政治、政府自民党の影響を強く受けた会長だ」とあったが、全くその通りだね。これで、会長がみずほ銀行から日本銀行出身に替わるわけだが、システム障害が未だに尾をひいている、みずほの前田さんより、まだ日銀の方がまし……?

A 非常に頑固だという風評もあるが、前田前会長を見ているので、少し逆には振り子が振られるのでは、との期待もある。

B もっとも経営委員長が森下委員長だからどうなるか? なにより、前田体制を支えたプロパー上層部と上層部以下の人たちが、我がごととして前田体制の負の遺産と向き合っていて欲しいと思う。トップが替わったからと言って、もうあんなことは無いとは考えずに。

C 引き続きNHKをウォッチしていくのは当然だが、放送人の会としても、NHKの経営計画に意見を出したのだから、この後どうするか? 理事会の議論としても、問題提起をしていきたい。

D 建前では民放連もNHKも三元体制維持になっている。総務省でデジタル時代の放送制度のあり方の議論が進んでいる。丁寧にフォローしたい。民放ローカル局の経営がキツイ状況にある中で、地上波が基幹放送だと言いつつ、い続けるのか、放送のありようを文化の意味と制度の意味、両方から考えたい。

ラジオの行方

A ニッポン放送の檜原麻希社長、女性が社長になるのはキー局で初めてだと思いが、今の時代の象徴的な挑戦をしていて、放送自体も実に元気で、色んな賞にも挑戦している。

TBSラジオは三村社長の前で大きく変わっている。永六輔や小沢昭一によるTBSラジオの空気が失われて、どんどんつまらなくなっている。その中では、武田砂鉄の「アンタノカレッジ」が面白い。

B ラジオではネットの良い面と悪い面、両方の影響を受けている。若い人は映像を倍速で見ると言われるが、音楽も頭の30秒しか聞かないので、頭の30秒以内にサビを持って来るという。

では、ラジオはどう対応をするのか? 音楽を全曲、最後まで聞かせるのがラジオの基本だが、どんどん短い秒数で切っていく番組が増えていて、どうなるか……

ドラマ枠が増えたが、短くもなり

C 今年で芸術祭が終わりました。テレビドラマ部門は、殆どがNHKの出品で、民放キー局から出てこない現状ではやむを得ないと思っている。

その一方でドラマ枠がどんどん増えている。ゴールデンタイムで、各局みなドラマ枠は増えている。将来の配信のため、コンテンツを溜めようとしているのだが、芸術祭に出そうという作品は皆無となっている。この二極化は果たして、どうなのか?

D 昔、民放各社、普段は連続ドラマで視聴率を取らなきゃ駄目だから、芸術祭にはチャレンジしようよ、というのがあった。今の経営者と現場の編成は、そんなチャレンジは不要で、質より量なのだ。

A 昨年、韓国のトップの制作プロダクション

「愛の不時着」を制作したスタジオドラゴンの企画のヘッドと話したら、日本のクリエイターで日本のお客さんをターゲットにしたドラマを制作していきたいと言う。その真意は、日本の80年代90年代のドラマに注目しているからだ、そうだ。

韓国では一歩でも先に行こうと戦略を立ててやっているのに、日本の民放はただ量産するだけでいいのだろうか?



Youtube 作家の盛衰

B 今、放送作家協会の中でYoutube作家が増えている。Youtubeを作っている作家たちに話を聞くと、表紙だけしか見してくれないからサムネイルを一番重視する、アバントとか引張りとかCMまたぎとかを全く考えないで、はじめにドーンといいいものを出す、そうしないと直ぐ変えられちゃうからと言う。

今までの文学やりたい、テレビを作りたいという人たちとは、感覚的にも違って、数字で考える理系がいっぱい入って来ている。しかも、収益が多く入ってくる映像を考えるよりも、小さいものをいっぱい作って、それ

で自分の価値を上げていく、と言っ。

C それって、深夜ドラマがすごく短くなっているとか、30分ドラマをいっぱい出したりとかが、スピンオフを必ず用意するとか、そういう傾向にも通じるのかな…。

D Youtube は配信状況を色々分析できて、1秒ごとに、どういう人が見ている、どのくらいで人が離れていくかというのが、全部アナリストでチェック出来る。すべて30秒以内で6割くらいに落ちている。

最初の30秒だけ見て変わっちゃうんです。Youtubeの2分番組でも、6分番組でも、大体30秒で6割に減っちゃう。

つまり、頭が面白くないは見ない。これが、そのままテレビ番組にも通じると思わないが、制作者は影響されているように…。

あ、配信の時代

A かつて演出家の鴨下信一さんは「言うた。

「今、テレビは娯楽から教養に移りつつある。教養も新書版の教養である」

これに倣えば、今、テレビは娯楽から情報に移りつつあるんじゃないか、と。

番組も情報の一部として捉え、音楽も情報で、頭をちょっと聞けば、「あつ、この音楽はこんなものだ」と決めつけちゃう。

ドラマだって早く見て、あらずじきえ情報として手に入れればいい。ラジオと一緒に、じっくり味わうことから遠くなっている。

B 視聴率でも、「娯楽」より「情報」が大きく占めている。広範な情報を収集して、情報番組や教養番組として放送しているNHKが番組の数も多く、視聴率のシェアが大きくなっている。結果、民放の娯楽番組は段々シェアが落ちて、かつて娯楽の王様みたいだったフジ

テレビは視聴率の上位にほとんど出てこない。視聴者のテレビの見方が変化し、地殻変動が起きている。

C 動画配信GYAO!が遂に撤退！一時、相当もてはやされた先駆的な配信だったが、あとから出たNetflixやAmazonに戦略的に負けて撤退する。つまり、番組論ではなくビジネス論での撤退だった。

D NHKのネット配信を、民放と新聞は「民業圧迫」と反対しているが、もう、そういう時代じゃないと思う。NHKとか民放とかいわずに、ネット配信の時代に、どうやってテレビが生き残れるか、そのためのコンテンツはどういうものを作ったらいいのか？ 何もしないと、このまましり貧になるわけで、放送人グランプリの選考もその視点で考えていきたい。ネット配信時代に生き残れるという視点で、音楽やバラエティなどのエンタテインメントから選ぼうと思っている。

赤江玉緒さんが引退！

A ラジオ出身なので、今年に入って一番大きな出来事は、赤江玉緒さんの引退宣言です。

「5歳の娘との時間を優先させたい」ので、TBSラジオの人気長寿番組『たまむすび』（月〜金 午後1時〜3時30分）を3月いっぱい終了するというもの。

子どもはまだ「5歳で時計が読めない、まだ時間の概念がない時に、母親としてちゃんと接していかないといけないんじゃないかと思うので、6歳になるまで子育てをちゃんとしようと考えて、TBSと折衝して引退となったと言っ。

他局のパソナリティー（文化放送のタケ小山 ニッポン放送の金子達仁）がみなさん素晴らしいことだ、新しい生き方だと仰って、ラジオが新しい生き方を提示したようで、面白

いなと思いました。

アーカイブ利用のバラエティ

B 昨年、フジテレビが放送した「私のバカせいまい史」（22年2月より不定期に放送）がすごく面白かった。過去のバラエティ映像を駆使して「ものまね放送史」みたいなものを作る。ものまね番組に本人が登場したのは何時からか、コロッケが美川憲一のマネをした時に美川憲一が現れたのが最初だ！ みたいなことを、番組映像をふんだんに使いながら見せて行く。

すると、過去の番組映像が面白く輝くんです。ドラマの再放送はあるけれど、バラエティの再放送は殆ど無い。過去のバラエティ映像をちゃんと再利用しながら面白い番組を作る、番組アーカイブスを活かす方法として、すごく良いんじゃないかと思いました。

「st:art」の映像を語る

「st:art」の配信

C 配信とテレビの関係で、22年特徴的だったのは「st:art」の成功だと思っ。「テレビ番組史上最高」とされる1話平均六〇〇万回弱もの再生回数を記録して、配信の回数ももの凄く多かったことで、テレビ視聴率（※）も好調な数字となり、フジテレビはst:artで救われたみたいになった。

（※）放送メモ一覧・P.23を参照
なんで、あれだけ話題になって若い人たちがずつと見ていたかというところ、テレビだからだと思うんです。例えば稼いだのが配信回数だったとしても、やはりテレビドラマだからこそ、沢山の人が見たんだと思っんです。

例えばNetflixで『初恋』というドラマがあるって、個人的には「st:art」よりずつとずつと

面白かった。結構話題になったが、「st:art」ほど話題にはならない、例え、配信で視聴回数を稼いだとしても大きな話題にはならない。

「テレビドラマである意味」を知らずも説明したように思います。

D 「st:art」の成功は、第1話がすごく良くできていたからだ。後半は失速したが…。今の人たちは2回目3回目を待つてくれないので、初回に心を掴まないといけない。「st:art」は初回成功したおかげで、配信につながったと思っ。

A 登場人物は、どこまでもいい人だけが出てくる。わけても、湊斗くん（鈴鹿央士）というすごくいい人が出てくる。なんか、そういうの信じられなくて、絶対この人心の闇が見えてくるだろうと思っっていたら、最後まで見えなかった（笑）。でも、それを今の若い人は要望しているんですね。

どこまでもいい人は、誰も人を傷つけない…。誰も傷つけないドラマを放送界としてどう考えていくか、大事なことと思っます。

B 倍速視聴に対してアンチの視点を提供した。その意識はなかったとしても、若い人の心を掴んだ。作り方によってはアンチも成立するのだと分かった成果は大きい。

C 分かり易い説明ゼリフでテンポを上げ、急展開を連続させて、録画視聴やザッピングを防ぐ…この手法を捨てて、物語の展開は極端に少なく、大きな出来事もないまま終わる。手話やスマホでの会話の無音のシーンが多

用される。キスシーンすらなかった。丁寧で純度が高い作品で、仕事のシーンも減らして、主人公の恋にスポットを当てた。80年代後半から90年代のヒット作と今の視聴者は同じニーズだった。

『エルピス』と価値観の提示

D 自粛や同調圧力とか、キャンセルカルチャー(※)など、不寛容な社会が広がっている。

テレビでも、モーニングショーから玉川徹コメンテーターがいなくなったり、付度や自粛が見え隠れする。ドラマやテレビの番組が、付度や自粛を体现しないで、価値観をちゃんと提示する、そんな役割が担えないかなと思っ

ていて、出会ったのが『エルピス』だった。(※)主にソーシャルメディア上で、過去の言動などを理由に対象の人物を追放する、現代における排斥の形態のひとつ。

A 『エルピス』は、連続ドラマとしてチャンネルをひねって毎週見る可能性がまだあるのだと、作り手としてはすごく励みになった。

作り手とか、テーマ性とかは80年〜90年代ドラマのいい時代を彷彿とさせるもので、勿論アップデートはしています。配信、配信という流れの中で、エルピスの成功は良かったなと思います。

B 情報番組にいたことがあるので、こういう人たちが本当にいたよなと思いつつ、事件からみながらどこに転がっていくのかと最後まで見せられてしまった。『エルピス』は絶対推したい。

大山勝義賞受賞者の活躍

C 受賞者の皆さんのすごい活躍がうれしい。賞を受けた人が活躍するから、だんだん賞も大きくなる。22年活躍の佐野亜裕美さん、昨年大山賞を差し上げた。

『鎌倉殿の13人』の演出、吉田照幸さんは、『サラリーマンNEO』からドラマに入ってきて、第3回(二〇一七年)の受賞。

三谷幸喜さんの脚本が面白く書いても、それを絵にしてクストとさせるのは演出ですか、合戦シーも含めてよくやっただと思います。あの陰惨なサバイバルゲームの話、笑いを

クスリとさせながら、最後まで持つて行きました。

D 第2回受賞者の中島由貴さんは、来年の大河ドラマ「光る君へ」のチーフ演出です。脚本：大石静、制作統括：内田ゆき、主演：吉

高田里子(紫式部まひる)。全員女性。「源氏物語」でどうかという声もあるが、今の男の作り手でこれだけ根性ある人がいるか、ということ。中島さん頑張ってください。受賞者の活躍は嬉しい、大山賞の意義、ここに

あります。

『鎌倉殿の13人』

A 登場人物の一人一人がこれまでの描き方とちよつとずらしたところで、新解釈で描かれていて、みんな魅力的だった。次々に死んでいく、殺し愛する人も含めてエンタメとして良く出来ている。

大河ドラマの欠陥は、どんな登場人物でも最後は平和を望んでいた平和主義者になってしまうところだ。三谷はやつぱり逆らつて、義時も平和主義者として描かずに、政子に間接的に殺される。作家とかクリエイターは、人とは同じことはやらないというのが本来の姿で、その意味でも、三谷も吉田もあのチームは良かった。

『恋せぬ二人』

B 気になったドラマをもう一つ、『恋せぬ二人』。脚本の吉田恵理香さんが、向田邦子賞を受賞した作品。今どきのLGBTQのドラマつて大嫌いなんだ。LGBTをやつとけばいいだろう、みたいな浅いドラマがあるじゃないですか、その手のドラマかなと思つて見たら、ああ、こういう人たちがいるんだという発見と、生き方を素直に問いかける、いいドラマだった。

C これ以外に気になったのが、『拾われた男』。仲野太賀が好演。足立紳さんのホン、続

きを見ずにはいられない。もう一つ、『しもべえ』。ずっと喋らない安田顕さんが面白かった。それと、山下智久主演の『正直不動産』。

お題の「新しいNHK」

D NHKはバラエティーも含めて完全に民放の作りになっていて、チャンネルを間違えたかなって思つたりする。『正直不動産』はキヤスティンングや作り方も含めて民放の作りです。それはそれでいいんです。

ドキュメンタリーでもTBSの職員が90分ドキュメンタリー(※)を作っているから、それはいいんです。

(※)放送メモ一覧・P20を参照。問題は、前田副会長は「新しいNHKの「新しい」とは何なのかを言わなかったこと。

企画採択の基準は「新しいNHK」じゃないから駄目だと、わけの分からぬ価値基準で採択されている現状があるんじゃないですか？

『正直不動産』のように民放風の作りだと、確かにNHKの作りじゃないから、それが「新しいNHK」だという。馬鹿じゃないかと僕は言いたい。それを民放に置いたら、普通の民放のドラマだ。もうちよつと、放送の世界を見て下さいよ、と言いたい。

A 曲がりなりにもNHKと民放の二元体制と言っているなら、それぞれ得手不得手があるって当然で、NHKは民放でやらないこと、民放でできないことを大事にして欲しい。

ところが、NHKでしかできない企画が、僕が知っている限りでは通らない、何でと言つたら「新しいNHK」じゃないからと言つ。開いた口がふさがらないね。

いい加減にしろーという感じです。**B** 具体的には、NHKならではのドラマはどういうのか？

C スポンサーの関係で、民放がドラマ化できない領域がある。自動車、系列、銀行…：かつてNHKでドラマになった。どちらかというと、民放では経済社会、大企業はすんなりとはドラマになりにくい。

一方で、商売になると思つたら『平沢直樹』のようにドラマ化はする。

D 特集ドラマ『カラバゴス』が放送中です。自動車業界と人材派遣の闇を描いたもので、これはNHKでしか出来ないドラマです。会員の八木康夫(テレパック)の制作です。ぜひ、ご覧になってください。

NHKBSP&BS4K
2月6日・13日(月) 21:00。

A 民放のコマーシャルで、この5年間急激に増えたのが人材派遣のCMです。人材派遣業はピンハネ会社ですが、派遣業者も多くなつて競争が激しくなり、仁義なき戦いになっている。

B グランプリの対象になりますね。

C NHKは、本当はこういうものをやるべきなんだ。大体、ドラマ10でなんで『大奥』を放送するのか分からない。もう、TBSが2本も映画を作っているじゃないですか。

『エルピス』をきちんと評価したい

D 今までの話を伺うと、これまでNHKは付度とは関係ないところでドラマを作っていたけれど、今やNHKの方が付度企業になつちやんじやないかという気もして、その意味でも『エルピス』が民放で出来たことをきちんと評価したい。

渡辺あやさんは、これまで主にNHKで活動されてきた。『カーネーション』『ワンダーウオール』(今ここに)にある危機とほくの好感度についてなど、とても素晴らしかった。だが、『エルピス』までのことはやらなかった。

A 最終回、勸善懲惡の世界が好きなのは、善と悪足りなかったでしょうね、巨悪を倒してすーっとしたかったのに、と。

でも、あのドラマが言っていたのは、善と悪みたいな二元論を如何に超えていくか、というドラマだったと思うんです。そういう新しい価値を作っていくことに果敢に挑戦しながら、真美じゃないことは、人の体がいかに飲み込まないのかを描いて、マスメディアに関わる人間がいかに正直な身体で生きていくのかを、すごく根源的に訴えたドラマでした。

B 長澤まさみ扮するヒロインが初回で嘔吐あります。あの嘔吐は佐野亜裕美さんの嘔吐であり、渡辺あやさんの嘔吐でもある。男の作り手だと、あの表現はしないかもしれない。

短歌の青春 永田和宏と河野裕子

『あの胸が岬のように遠かった』河野裕子と生きた青春』

C 純愛ものかつ青春もので高齢者の回顧談みたいなものだが、私は現代短歌に興味があるので、短歌がこういう風に映像化されることに感心した。

短歌の現代史を簡単に言う。戦後の短歌は、戦争体験を踏まえた上で、かつての短歌和歌の世界から切り離すことからスタートした。例えば塚本邦雄と寺山修司らが、時代をどう切り取るかで、単なる戦後短歌を超えた現代短歌という表現世界を作り上げた。

その上に、60年安保で言うと岸上大作であり、全共闘世代で言うと道浦母都子などが、尖って踏み込んだ表現を切り開いた、その後、『サラダ記念日』の俵万智が、短歌を口語化しただけでなく、高度経済成長期の青年たちの心情を短歌という形式で表現した。

尖った短歌から俵万智に行く、その直前の一瞬の静止状態みたいなところに、永田和宏

と河野裕子二人の短歌は位置づけられる。

その短歌というデリケートな表現の世界を、このドラマは非常に初々しく描いている。

私の一番好きな永田の歌

「スバルしずかに梢をわたりつつありと、はるばると美し古典力学」

多少深読みすると、永田は京都大学の物理の世界で勉強して、専門はまた違った細胞生物学者になったのだが、その若き学生の短歌は、非常に透明度の高い精神が現れていて、その透明度の高さに河野裕子の気持ちも動かされたのではないかと私は思っている。

こんな風に短歌の流れの中に、このドラマを位置づけると、なかなか面白かったと思います。

実際の二人の映像も番組には出て来ませんが、癌で亡くなった河野役を藤野涼子が演じ、永田役の柄本佑は高齢の役までやるのですが、この二人が中々いいんです。

ロケーションの映像も非常にいいんです。制作はテレコムスタッフです。テレコムスタッフはあまりドラマをやっていない(※)のに、良く出来ているという点も評価して、グランプリ大賞に推薦したいと思ひ、長々と説明をさせていただきました。

D 補足します。同じスタッフでドキュメンタリーを作っています。

BS1スペシャル『ほんたうに俺でよかったのか』 これも良かった。

A 妻が亡くなって12年後に妻の日記を読むと、好きな人がいたのが分かって、永田さんはうるたえる。歌人だから、そのうるたえを『ほんたうに俺でよかったのか』と歌に詠む、それがいいなと思った。

B 結構、ナルシストなんです。娘さんと息

子さん二人いるが一人とも歌人です。これがなかなか良い歌を詠む。

C 70歳になっても青春を思い出している、回春番組だね(笑)

D NHK側の受け皿になっている伊藤純さんは、4年前に『平成万葉集』3回シリーズをBSPで作った方で、普通のプロデューサー以上に和歌にも造詣がある幅の広い人です。八木康夫さんと組んで、京都撮影所舞台のドキュメンタリードラマを作り芸術祭優秀賞を受賞しています。

非常に優れた作り手で、今回はプロデューサーだけでなく脚本にも手を出していますね。ドラマの撮影は民放の名カメラマン・夏海光造が撮っている。NHKの良い部分と民放の良い部分が合わさった番組です。これも又NHKの良さである。

A 『舞いあがれ!』でも、ヒロインの幼なじみの貴司くんが歌を詠む。脚本の桑原亮子は歌人でもある。俵万智さんがその歌を誉めている。

今、短歌が来ている!という感じですね。

ドラマ制作の流動性、人と会社

C 佐野亜裕美さんはTBSを退社し、関西テレビに転職した。第2回大山勝美賞受賞の岡野真紀子WOWOWは芸術選奨新人賞を取って、WOWOWをやめて今、Netflixです。NHKをやめた黒崎博と組んでドラマを準備している。

やりたい企画があったり、生意気だからと現場から飛ばされたが、あくまで現場で作りたいたい会社を変わって、局を超えて作るというように流動性が出て来た。

加えて、NHK、民放、制作会社だけじゃなくて、ヨコの動きが出て来たのは、これはこれでテレビが終わコンと言われる時代にあつて、

ある種の風穴になり得るかもしれない。そういう視点からもNetflixを捉えてもいいかもしれない。

D 作る側からすれば、テレビ局だけじゃなくて、Netflixもあるというのはチャンスですよ。

A 才能のある人にとっては、出口の選択肢があることで、配信系は制作会社に著作権が付いてくるんです。これは凄く大きいことです。場合によっては、映画も含めて色々な展開が可能になります。

ドキュメンタリーも流動性

B キー局から相手にされなかったドキュメンタリーだって、地方局の東海テレビが映画化して劇場公開して、相当な展開となったので、本体のキー局TBSも2年前からTBSドックスというブランドで、ドキュメンタリー映画を作り、系列局を支援している。

また、21年3月にドキュメンタリー映画祭を渋谷のユーロライブで4日間開催している。

C 昨年の優秀賞受賞作『ハマのドン 最後の闘い』博打は許さない』は、5月に映画公開する。

二二六事件の右田千代さんのチームは書籍化をしている。5月発売予定。

D Youtubeを初めて分かったことは、映像情報拡散が容易だということ。Youtube用についた動画がFacebook、Twitter、Instagram、TikTokで拡散できる。今の通信系はつながっているから、ひとつYoutubeに上げたら、他のメディアで拡散できる。その一方で、テレビは拡散の機会が低い。

A TikTokの番組PRはどこもやっている。

B いずれにしろ、放送番組をいかに多くの人に楽しんで貰えるか、その戦略がこのネット時代には是非必要なのだ。

アーカイブの財産をどう伝えるか？

C 若いクリエイターたちは、80年代90年代のドラマが良かった時の作品を知っているのだろうか？

お正月にNHKG『あたらしいテレビ』を見たんですが、そこでフジテレビの面白いバラエティーを作っている原田和実さんが「言語化できない笑いを作りたい」、「なんで笑っているか分からないけどメッチャ笑っちゃう、考えても考えても分からない笑いを作りたい」と言ってたけれど、すごいいいなと思ってんです。

考えて見れば、昔のフジテレビって、原稿に書けない笑いを作っていたなと思いついて、果たして若いクリエイターたちは、知っているんだらうかと思っただけです。

D 手持ちのVHSをデジタル化しながら、昔のドラマをいっぱい見たんですが、すごく面白いんです。若い作り手の人に見て貰いたいなと思ったりしました。

A 市川森一脚本賞財団が上映会とシンポジウムでやってた企画「テレビドラマの巨人たち」は、脚本家で括って昔の面白いドラマを見て貰いたい、見せたいという企画なんです。若い人が来ないんです。

12月の長崎でも、若い人を集めようと、大学に行ったり、伝手を頼って色んな所で薦めてみるんですが、結果として会場に足を運んでくれたのは、昔のドラマを懐かしむおじいちゃん、おばあちゃんたち、我々の世代になってしまふ。若い人たちへ、上映会の告知が届いていないということもあるかも知れないが、関心がそっちに向いてないのは確かだろう。

B かつてのテレビをどう伝えていく…テレビが生き延びるためにも必要ですね。

C 大学でテレビドラマ史の授業をしている

んですが、学生はとて面白がってくれんです。過去のドラマを見て、面白くてビックリするんです。バラエティーでも、『カノッサの屈辱』を見せると、もうビックリするんですよ。今の若い人に、古い番組を見て貰う企画、いいんじゃないですか？

D 単発でやっても駄目なので、定期的にやる必要があるのでは？ 以前「放送人の世界」を上智大学でやっていただけで、学生さんが集まらないということ結局、あそこを会場にするのをやめてしまった。大学でやるとなると、強ちにサポートする、或いは自分で主催する先生たちも必要で、単発的にあちこち行ったり、こちへ行ったりしても、駄目だということ感じはしますね。

やり過ぎ！ 家康の番宣

A 「NHKは民放だ」のつながりで、大河ドラマの番宣。し過ぎていてるを超して滅茶苦茶やっちゃっている。民放も昔からやってたけれど、NHKは朝から晩まで、俳優やタレントが出てきて、誰それ役のナントカですってやられると、本チャンの大河を見ていても、誰それ役のナントカがやっていると見てしまう。するとフイクションじゃないような、ドキュメンタリーのような感じがしてきて、全く楽しめなくなってくる。物語の中に入りたのに、演者の余分な情報が邪魔をしてしまうのだ。

B 22年正月のNHKニュースには吃驚した。トップに大河ドラマの発表会があつて、そこで主役がこんなことを言いました、というのが冒頭に出てきた。

それから1年、放送が始まる前々今も、色んな番組に主役などがゲストで出ている。歴史番組も三河や岡崎城など宣伝一色になっている。

C この件、散々書いても変わらないから、N

NHKに言っても無駄だと思っている。

このクレージーな番組宣伝を、上から指令するの、言われなくても各部がおもんばかつて家康を番組に入れるのか。

『歴史探偵』はまだいい。『ブラタモリ』から何から何まで、関係ない番組が家康をさわる。夜7時のニュースも放送に合わせてやる。

「鰻だつて、匂いをあちこちで嗅がされる」と食う気がなくなるって書いたんですが、全く変わらないですから、ナントカに付ける薬はない、くらいに思っている。

D あんな番宣やり過ぎです、むしろマイナスです。逆にも言わない。逆に付度して「うちでも何か家康をかじるようにしよう」が、今のNHKです。会長が替わろうが替わるまいが。

5分ダイジェストに意味はあるのか？

A 5分ダイジェストが凄く増えました。『拾われた男』が盛んにやりましたが、するとダイジェストだけ見て、見た気になっちゃうじゃないですか、だから実は逆効果じゃないかという気もするんです。

本来、50分60分ないと表現できないことをやっている筈なのに、それを自ら5分にまとめちゃって、どうするんだ！って思います。**B** 普通の感覚なら、ドラマの現場からNGを出すべきです。5分ダイジェストは邪道です。

C 2倍速視聴じゃないけれど、テレビから内容(ドラマ)を受け取るのじゃなくて、情報の断片を受け取ればそれで良しとする。断片だけでも、仲間同士の話には加わるから…。

◇ドキュメンタリーの候補を語らう

『未解決事件』109 松本清張と菅原事件

D ドラマは平沢貞通・死刑囚を主人公にしないで、松本清張がフイクションで書くか、ノンフイクションで書くか、葛藤をかかえ…。事件に迫るのか、成長前の作家の悩みを描くのか、見えていて落ち着かない。途中で挫折した…。

A どう見せるか、演出もどっち付かずで、未熟だった。

B 私は面白かった。特にね、ドラマ編で、事件をフイクションで書くかノンフイクションで書くか悩みを見せて、ドキュメンタリー編で、ドラマで描かれた悩みを重ねて見ていると面白かった。

C 私もそこはすごく面白かった。未解決事件の建て付け…最初にフイクションで作って、それからノンフイクションで作っていく…を、すごいメタ的にやっています。安達奈緒子さんの脚本も丁寧だった。

D 戦後史の暗部の米軍、GHQが、今の日米安保体制につながることを、もうちょっと踏み込めばいいのと思ったが、それでも、未解決事件の中でも私の評価は高いんです。

ジャーナリズム論から言っても、うまく出てくる。新聞ジャーナリズムとは違う、今の文春砲につながる活字ジャーナリズムのルーツが描かれていた。新聞とは違う取材方法の描写がうまい。

A 松本清張が一人前になる前の話で、「小説・帝銀事件」を書くことで、後の『日本の黒い霧』を書く骨法が見つかった、と話がおさまっている。

事件の真実にフイクション&ノンフイクションで迫る『未解決事件』の方法論で言う、少しズレている。平沢貞通氏はAIの分析に晒されただけで、ドラマ編では松本清張が主人公では、平沢氏にはいい迷惑だ感が拭えない。

『見た何が永遠か』

『立花隆 最後の旅 完全版』

B 岡田明敏ディレクターはあれほどの沢山の資料を託されたのに、この程度で立花隆を描かないで欲しい。亡くなって1年じやなく、もっと時間をかけて、段ボール箱を精査して外プロも巻き込んで作ってほしい。NHKに残る立花隆アーカイブスを駆使しながら、立花隆の知の世界を丁寧にじっくり描いて欲しい、それが、一次資料・立花隆の世界を託された者の責任だと思っ。

C NHKには過去に、吉本隆明、埴谷雄高などテレビとは一番遠い世界の巨人たちを、きちつとドキュメントしている人たちがいて、中身の確かな深い番組をちゃんと作っている。

NHKじゃないと出来ない、NHKがやるべきテーマであり題材だから、どこにもない一次資料を活かして、しつかり取り組んで欲しい。

『小さな村の物語 イタリア』

D 今年も又、BS日テレの紀行番組ドキュメンタリーを推薦したい。テレコムスタッフの制作で、15年以上もやっている。普段着の日常を描きながら、豊かに暮らす、美しく生きる」とは、どういうことなのかが見えて来る。

A イタリアの小さな村、二組ぐらいの人間の生活を追い、彼らの意見を聞く。インタビュアーは顔を出さない。20年10月から村を再訪する。10数年ぶりに訪れて、どう変化したかを描く。22年10月から従来の新しい出会いに戻した。

B 都会に働きに出たけど、故郷がいいと戻って来た人、親の仕事を見て育ったので仕事

を継がなきゃとか、昔の日本でも確かにいたような人々の営みが描かれていく。

C 開始当初から東芝1社提供。18年4月より、ダイワハウスと東芝メモリ（現キオシク）の2社提供。昔見たイタリア映画を思い出す。

『映像の世紀 バタフライエフェクト』

D 昨年の10月11日、第70回菊池寛賞（二〇二三年）を受賞した。4月に放送を初めて、半年ぐらいで菊池寛賞は珍しい。因みに、最近では19年に「おかあさんといっしょ」、18年東海テレビドキュメンタリー劇場が受賞している。

A 95年から始まった『映像の世紀』は、アーカイブドキュメンタリーとして、色々な形で続いているが、バタフライエフェクトは今までの伝統の先を行っている、歴史の争点を色んな切り口で見せている。

B 一昨日放送の『零戦 その後の敗者の戦い』。零戦をテーマに、設計した堀越二郎や、航空産業の技術者たちが、戦後いかに平和のための新技術の開発に携わり成功したか。胃カメラの実用化、新幹線の高速度運転、宇宙開発の基礎ロケット…。

C この着眼も含めて、あたかも、ウクライナの戦争を予感していたかのように、バタフライエフェクトが4月から始まっている。戦後50年の95年から始まった『映像の世紀』のいい伝統をずっと引き継ぎながら、さらに新しいものを加えていく…これこそ、NHKならではの作品だ。

D ステイプ・ジョブズが面白かった『世界を変えた“愚か者” フラーとジョブズ』。

A 女性兵士で括った『戦場の女たち』は狙いがよく分からなかった。着地に失敗したと思う。

B 拡大版73分『ロックが壊した冷戦の壁SP』は、第3回・第5回・第23回を再編集したもの。

C HPによれば、寺園慎一CPは「10人程度の映像のリサーチ専門のチームが存在し」、「米国立公文書館から専門のアーカイブス機関まで、世界中から映像を集めている。制作期間は1本あたり4か月から5か月だ」と言う。

D 本来、取材というのは発見と意外性。結論ありきでやれば、うまく落ちるが、発見はない。予定調和になりがちなところを、作り手は心しなければならぬでしょう。

『11人の時代と宗教・人生』

A 最近、注目している番組を紹介したい。NHK Eテレで日曜朝5時から60分、『11人の時代と宗教・人生』で、E.T.V特集では出来ないことを時々放送している。

安倍元首相狙撃事件を受けた、2回シリーズ『徹底討論 問われると宗教と“カルト”』は6人の宗教学者が旧統一教会の問題から、宗教とカルトの本質を討論

短くしたYouTube版動画が10万回以上再生され、新書で書籍化した。10月30日放送『オモニの島 わたしの故郷 映画監督ヤンヨンヒ』で、ヤンヨンヒは自分史、朝鮮総連の幹部の娘から自立へ向かう苦難の歩みを語る。ぶつきた棒だが熱量がある番組だった。

1月21日のE.T.V特集で、ソウル・済州島・東京の追加取材を加えてリメイク版が放送された。分かり易くはなった。

おまけで紹介。8月22日放送『被爆者とともに40年〜相談員村田未知子〜』広島制作。

『新日本風土記』のテーマも

B 『空き家』は抜粋に面白かった。アーカイブを利用しつつ、全国の空き家再生の取り組みを描く。

ほかに『縄文の旅』、『異物屋の秋』、『夏のうた 沖繩』、『夏のうた』、『松本清張 出会いの旅路』。みな、面白い。

C もともと新日本風土記（※）は地方の若いディレクターの登竜門で、ディレクターを育てるための番組だった。

（※）二〇一一年4月からNHK BSPで金曜21時、58分番組。東京と地方局の制作。

例えば、尾道をテーマにすると、広島放送局の中堅ディレクターが1年くらい尾道に通って撮る。ちよつとは地方でデカイ顔をしていたのが、仕上げに東京に来て、伊藤純さんの元で、編集からナレーションまでガツンとダメ出しをやられる。そういう教育的な側面があつて地方局からは喜ばれていた。

D ちなみに、伊藤純プロデューサーは新日本風土記で18年度芸術選奨文部科学大臣賞（放送部門）を受賞している。

A その良い伝統が、地方局の効率化で、定観測的に1年尾道に通うことは出来なくなつた。変わって、東京のプロダクション、テレコムスタッフやテレビマンユニオンなどを使ってテーマ主義で作るようになった。地方軽視の苦肉の策ではあるが、プロダクションの手練れが作るの、面白いのだが…。定観測とテーマくくり、この両面があつての新日本風土記が良い。

今は、月のうち半分の2本が再放送になっている。新作は2本しかでない。

「これだけは、言いたい。」

B フジテレビのドキュメンタリー枠、ザ・ノンフィクションにいい作品がある。

『TOKYOデリバリー物語』

スマホと自転車とホームレス

コロナ禍、ホームレス予備軍を抜けようと奮闘する、デリバリー配達員たちを追う。FXで94万円の借金がある男は早大卒、日本銀行入社後うつ病になり28歳で退社している。制作協力ネッツゲン、大島新の会社。

C 10月1日にアントニア猪木が亡くなった。土曜日の朝に報じられて、テレビ朝日は2時間のサタデーセッションを丸々、『アントニア猪木の追憶特番』にした。

わずか12時間弱で用意した特番、テレビマの熱意を感じた。

D 前号の消費座談会で話題になった、電通の問題をクローズアップ現代+が10月12日に放送した。

『五輪汚職疑惑の深層』スポンサー選定の間に迫る』透明性無き五輪との訣別は可能かを検証。出演：田畑佑典（NHK記者）、菜田亮子（中京大スポーツ科学部教授）

A 文化庁の今年の予算がいろいろなところで大きく削られているように思います。防衛費が増大して、あからさまに文化庁の予算が削られている。大変、恥ずかしい国になっている。終戦ドラマものすごく減りましたね。放送界も、ここで頑張らなきゃ駄目じゃないかと思う。軍国主義化していくことに対して、放送界全体として考えて欲しいと思いました。

◇情報バラエティーの候補を語る◇

『球辞苑』プロ野球が

100倍楽しくなるキーワードたち

B 民放各局は球団のスポンサーになっていくので、NHKでしか出来ない、NHKならではの番組。“究極の野球辞典”を目指す、プロ野球深掘り情報バラエティー。

スタジオとVTRで構成。12月4日「延長戦」、12月25日「完全試合」、1月29日（日）で通算86回になった。

『ヒューマンゲルメンタリー』

オモワマイ店

C 昨年も推薦したが再び推薦。中京テレビ制作。情報の断片ではなく、人間のストーリーが見える。

D TBSに、地域発の情報バラエティーも置いていますので、どうぞご覧下さい。

『最強10代集結 超無敵クラスSP』

A 10代の若者の青春を正面から見据えたこの番組は「大人が忘れていたものがそこにある」と素直に感じさせる見事な時空を創り出している。少子高齢化が進み若者の数が激減する中で、10代を正面から支援する番組は貴重だと思う。

☆高校生水族館長と柘太一アナ、モデルの星来が石垣島の怪魚を捕獲。☆ラストチャンスにかける長野県松本蟻ヶ崎高校書道部に密着☆往復50キロ以上・長距離チャリ通学の高校生に、梨紗（お天気キャスター）が密着追走。ドキュメント取材力を駆使して、この三つの企画を連続取材し、制作し続けるスタッフの情熱は高く評価できる。

B すごく面白いんです、いい番組です。僕は日曜日の昼の再放送で見ました。

日本テレビは、BPOのテレビ局が薦める「青少年へのおすすめ番組」として、23年1月15日の放送を推薦した。

座談会発給

日時：1月25日（水）13時～16時

場所：海運クラブ 306会議室

出席：石橋映里、岡室美奈子、小川和之

木原毅 菅野高至、鈴木嘉一、深尾隆一、前川英樹、三原治、八木康夫、渡辺紘史、書面参加：新山賢治、千葉邦彦

放送スケジュール
投票の締め切り

3月17日（金）です。

石橋映里さん



岡室美奈子さん



小川和之さん



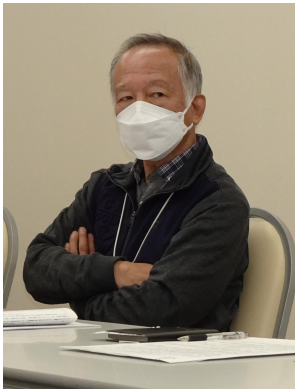
木原毅さん



鈴木嘉一さん



深尾隆一さん



前川英樹さん



三原 治さん



八木 康夫さん



渡辺 紘史さん



セキユリテイ対策のため
千代田放送会館に認証装置を設置
エレベーター利用と隣接室の扉の開閉

3階以上の階に行くには、
認証が必要となります。



カードをかざして認証を済ましてから、
階数のボタンを押してください。



認証には『1日入館カード（ICカード）』
が必要ですので、1階通用口か、受付にて「行
先」をお伝え頂き、「所属名」「氏名」等を所定
の用紙にご記入頂き「1日入館カード」をお受
取り下さい。
なお、必ず対面にて『1日入館カード』を
ご返却お願いします。

入館許可証（旧ADカード含む）を利用さ
れている方は、『セキユリテイ登録 申請用
紙』をNHKの総務局に提出の上で、認証カ
ードとして利用できます。詳しくは、事務局
までお尋ねください。

第87回放送人句会

令和四年十一月十三日（火）◇於 赤坂・麦屋
出席 鶴橋康夫 林備後 佐々木光野
近藤久仁 深尾一化（以上五名
兼題 鮫鱈 埋み火 囁み
（業界用語） バミリ

空耳や埋み火の妻何か言う 康夫
埋み火や着古しギヤバジン着るなり 康夫
冬晴の空に終活バミリけり フミ
尾根道に登れば時雨の富士見えず 久仁
月夜道我が影小さき師走かな フミ
埋み火を火箸でさぐる寝顔みて 久仁
踏み切の向こうに赤し冬蓋微 久仁
北の街柳小路の鮫鱈鍋 久仁
年明けの逢ふ瀬をバミリの暮れ酒場 久仁
店バミリ待てど独りのイヴの夜 一化
深海の鮫鱈己が姿見ず 光野
埋み火や耳をすませば水のをと 備後
バミリも定位置に座す日向猫 フミ
忘年も視郎ありせばいかばかり 一化
我が心非売品です埋もれ火に 康夫
納屋に棲む駄句迷ひ出る年の暮 一化
鮫鱈を捌く美貌に罪やある 備後
筑波嶺がとつぷり暮れて鮫鱈鍋 久仁
鮫鱈のテイクファイブの粘りかな 備後
幸不幸鮫鱈鍋で締めくくり フミ
バミラれてゐるやも知れぬ冬の蝶 備後

埋み火の赤きを吹きてメラメラと 一化
埋み火や夜書くふみのいと長く 備後
さよならの声また残る埋み火に 康夫

次回・第88回
2023年2月14日（火） 麦屋
兼題 春浅し ワカメ 鶯
（業界用語） 化粧前

訃報

沖野 瞭（おきの あきら）
二〇二二年12月27日 享年88。詳細は不明。
昭和9年生まれ。一九五八年NHKに入り、
広島中央放送局を経て、60年よりAK芸能局
で、ラジオドラマを演出。

「愛と修羅」（原作・柴式部）で67年度イタ
リア賞グランプリ受賞。「まんたら」（脚本・寺
山修司）で67年度芸術祭大賞受賞。第19回68
年度芸術選奨新人賞を受賞。

連続テレビ小説「藍より青く」（脚本・山田
太二）を制作。その後、担当部長を経て、アナ
ウンサー室室長、金沢放送局局長を経て、早期退
職し、JRR西日本でPR部門を担当。

倉内均（くらうち・ひとし）

二〇一三年1月7日、脳内出血のため長野県
松川村の自宅で死去、73歳。青森市出身。
テレビマンユニオンで「史上最大！アメ
リカ横断ウルトラクイズ」などの制作に携わ
った後、88年に番組制作会社アマゾン（現
アマゾンラテルナ）を設立。

映画監督としては「佐賀のがばいばあちゃん」や「日本のいちばん長い夏」などを手掛
けた。

12年〜18年、全日本テレビ番組制作者連盟(ATP)理事長を務めた。

理事改選のご案内をお願いします

総務室 小川和之

寒い日が続いていますが、会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。

さて、新年を迎えまして、今年度も残すところあと1か月半余りとなりました。5月には理事の改選期を迎えます。

改選のスケジュールは以下の通りです

- 3月8日(水) 改選公示
- 3月29日(水) 投票用紙送付
- 4月18日(火) 投票締め切り
- 4月19日(水) 理事選考会
- 4月22日(水) 決算理事会
- 5月20日(土) 理事会 総会

理事の総数は20名以上35名までとなり、新しい理事候補は選考委員会で選出され、総会の決議で選任されます。選考委員会が審議決定する理事候補は会員投票による上位15名及び選考委員がこの会における活動実績を勘案して推薦し、本人の同意を得たものとなっております。

なお、理事会は理事総数の過半数の出席で成立しますが、今期はコロナ感染その他の事情で欠席者も多く遠隔地の理事の方には音声によるリモート参加して頂くなどの手だてを講じて何とか成立して参りました。

言うまでもなく、理事会への出席は理事の重要な役割です。改選の選考にあたりましては、先の規定にありますように「会における活動実績を勘案して」進められます。

お送りする投票用紙にはその時点で在籍する会員の方のお名前が総て記載されますが、ご多忙などの理由で理事候補を事前に辞退された方は、三月の投票用紙配布までに事務局までお知らせ頂ければ幸いです。

いずれにしても、理事改選はこの会の最も重要な事項です。規定に基づいてつつがなく準備を進めてまいりますので、各会員各位のご理解(協力を宜しく)お願い致します。

編集後記

▼恒例により、お詫びと訂正。昨年9月発行の会報11頁で、名作の舞台裏『風神の門』のゲスト表記で、主役のお名前間違ひがありました。大変、申し訳ありません。お詫びして訂正いたします。

誤：三浦洋一 正：三浦浩一

本当に申し訳ありませんでした。

▼この10年、倉内さんには脚本賞の選考委員をして頂いた。選考の場では、候補作にABCのランク付けて、その理由を明快に語るのだが、受賞作の選評はなぜか哲学的で、僕の密かな楽しみだった。倉内功さん、ありがとうございました。心より、ご賞福をお祈り申し上げます。

▼沖野さんに金沢で「馳走して貰ったのは、ラジオ班の慰安旅行で、新任の局長を肴に酒を呑もうという班員の魂胆だった。まだまだ古き良き時代のNHKであった。▼agentを見ながら、手話は相手の目を見ながら会話を。言葉は相手を見てなくても聞こえる。なるほど、「目は口ほどにものを言う」だ。心配になつて、広辞苑をひもといた。「情をこめた目つきは、口で話す以上に強く相手の心を捉える」とある。身も蓋も無い説明だが、「情をこめた目つき」がなんとも可笑しい。▼可笑しく無いのが、目が泳いでいる政治家の、日々溢れる心のこもらない言葉だ。(たかゆき)

会員名簿

2023.02.10 現在

【あ】 藍澤幸久 相田洋 相本芳彦 青木裕子 青山悌三 秋田和典 雨宮望 新井和子 【い】 池田正之 石井彰 石井ふく子 石田研一 石橋映里 石橋冠 石原信和 磯智明 板谷駿一 市岡康子 市川哲夫 市村元 伊藤博文 井上佳子 今井義典 芋原一善 岩澤敏 岩瀬弥永子 【う】 上村忠 浮田周男 臼杵敬子 【え】 江川雄一 江口展之 遠藤利男 遠藤雅充 【お】 大池雅光 大川光行 大沢悠里 太田昌宏 大類なぎさ 緒方陽一 岡田裕克 岡野真紀子 岡室美奈子 岡本勉 小川治 小川和之 小河原正巳 荻野慶人 尾田晶子 織田晃之祐 【か】 加賀美幸子 柏木登 片岡敬司 加藤滋紀 加藤拓 加藤義人 金平茂紀 川平朝清 鎌内啓子 亀谷弘美 軽部淳 川喜田尚 川口健一 川渕恵子 河邑厚徳 【き】 北川泰三 北川信 北出晃 北村美憲 北村充史 木下浩一 木原毅 木村成忠 【く】 工藤英博 隈部紀生 訓覇圭 黒崎博 黒沢淳 【こ】 小池勝次郎 河野尚行 小玉滋彦 後藤和晃 小山紳人 近藤邦勝 今野勉 【さ】 斎藤秀夫 斎明寺以玖子 寒河江正 坂元良江 桜井元 佐々木彰 佐々木光政 佐藤敦 佐藤幹夫 佐藤理恵子 佐野有利 【し】 塩田純 重延浩 重村一 重盛政史 静永純一 柴田陽一郎 清水誠 志村一隆 下崎寛 下重暁子 下村幸子 白井博 新山賢治 【す】 菅野高至 菅野嘉則 杉田成道 鈴木俊樹 鈴木典之 鈴木弘貴 鈴木芳夫 鈴木嘉一 須磨章 【せ】 清野豊 関佳史 せんぼんよしこ 【そ】 曾根英二 【た】 高島秀之 高田宏 竹中一夫 田澤正稔 多田健 田中秋夫 田中直人 田中典子 田中則広 【ち】 千葉邦彦 【つ】 塚原あゆ子 塚本茂 塚本幹夫 辻本昌平 土屋敏男 つボイリヲ 露木茂 鶴橋康夫 【と】 東城祐司 戸田桂太 富沢一誠 豊原隆太郎 鳥谷規 【な】 長井展光 中込卓也 中崎清栄 中島僚 中島由貴 永田浩三 永田俊和 永野敏一 中町綾子 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村芙美子 中山和記 並木章 【に】 新村もとを 西憲彦 西村与志木 仁藤雅夫 二宮文彦 【ぬ】 沼田通嗣 【の】 延江浩 信井文夫 【は】 萩原豊 林健嗣 林宣昭 林安二 原田令嗣 【ひ】 日笠昭彦 玄武岩 【ふ】 深尾隆一 藤井チズ子 藤井正博 藤久ミネ 藤村忠寿 古川重樹 【へ】 逸見京子 【ま】 前川英樹 牧之瀬恵子 増山麗央 松尾羊一 松田幸雄 黛りんたろう 丸山友美 【み】 三上義智 水上毅 光原朋秀 三原治 三村景一 三村千鶴 宮崎洋 宮川鑛一 【む】 村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】 本木敦子 元田成 譜橋毅一 【や】 八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山鹿達也 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 山根世世 山登義明 【よ】 吉澤保 吉田賢策 吉村豪介 吉村直樹 【わ】 和崎信哉 渡辺浩平 渡辺紘史

【賛助会員】 日本民間放送連盟 TBSメディア総合研究所 融合研究所 日本ケーブルテレビ連盟

放送人の会

No.97・別冊
『風神の門』
2,023.03.08

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel&fax03-3221-0019 Mail info@hosojin.jp

発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野 勉

編集長 菅野高至、鈴木典之、逸見京子、田中典子、松尾羊一、

事務局 深尾隆一 須斎恵美子

第52回名作の舞台裏

風神の門

(NHK、一九八〇年4月9日から、
毎水曜の夜8時、全23回)
日時：22年11月5日(土) 13時半
場所：横浜市情報文化ホール



〈ゲスト〉三浦浩一 (出演・霧隠才蔵)

小野みゆき (出演・お国)

金子成人 (脚本)

〈司会〉今渡辺 隼史 (演出・放送人の会)

主催 (二社) 放送人の会

(公財) 放送番組センター

〈番組概要〉

大坂冬の陣から夏の陣へ。戦乱に乗じて世に出ようと京に上った伊賀忍者の霧隠才蔵を主人公に、猿飛佐助らの甲賀軍団、才蔵にライバル心を燃やす獅子王院ら若き忍者たちの活躍を描く青春時代劇。

原作：司馬遼太郎『風神の門』、『城塞』より、

脚本：金子成人、

音楽：池辺晋一郎、主題歌・クリスタルキング

「時間差」(作詩：阿里そのみ、作曲：池辺晋一郎)、

他の出演者：磯部勉(獅子王院)、樋口可南子

(青子、多岐川裕美(隠岐殿)、亜湖(梅ヶ枝)、
渡辺 隼史(猿飛佐助) 竹脇無我(真田幸村)

* *

司会・渡辺 放送人の会の渡辺 隼史です。司会を勤めます、宜しくお願ひします。

では、一言ずつ挨拶をどうぞ。

三浦浩一 才蔵の三浦浩一です。今日はどうもありがとうございます。(大拍手)

小野みゆき お国をやらせていただいた小野です。宜しくお願ひします。(大拍手)

金子成人 脚本の金子です。(大拍手)

渡辺 皆さん、本当に久しぶりです。よろしくお願ひします。

さて、先ほど見ていただいたのは、今日のお二人(才蔵・お国)にあわせて、若い忍者たちが、戦乱の時代に「風神の門」をくぐろうとするドラマの前半部分・第3回と、お国が才蔵に惹かれていく第6回とを多少編集したものを合わせて見ていただきました。

これは42年前の作品ですが、改めて見て、三浦さんどんな感想を持ちましたか？



三浦 若いんです！ 滅茶苦茶、もう、本当に若かったです。何も分かんないで、ただ若さだけでやっていました。

渡辺 お幾つですか？

三浦 25か26でした。

小野 私は21です。

渡辺 ！？ はたぢやない？

小野 えっ？！ はたち、20歳でした！ とにかく、もう恥ずかしくて見られない。(演じることなど)何も分かっていたいなかったし、お国は



ご存じの通り裏切つてばかりいるから(当初徳川、豊臣方の二重スパイだった、演じながらそれが腹立たしくて、孫人が討ち死にしたのもお国のせいだし)と考えて、苦しかったです。

渡辺 金子さんはどうですか？ 先ほどご自身書かれた台詞の間違いを指摘されていましたね？

金子 また、昔の言葉遣いで書けていないところが二つくらいあった。それに気づいて愕然とした・・・若かったんです。24歳の時から書き始めて、これの放送の時は31歳ですから、まだまだで、こんな大作をやってしまった・・・。

渡辺 私もそうでしたが、お三方も新人と言ってもいいぐらいの時代で、三浦さんは東京キッドブラザースで柴田恭兵さんと主役をやっていたが、殆どテレビドラマはやったことがない・・・。

三浦 民放でちよつとやらせて貰っただけで、

NHKなんか、本当にはじめての作品でした。

渡辺 小野さんは資生堂化粧品「ナツコの夏」のキャンペーンガールで売り出した直後ですよ。79年、売り出して直ぐ、最初に映画「トラック野郎 熱風300キロ」(79年8月上映)があつて、次も映画「戦国自衛隊」(79年12月上映)でした。

小野 時代劇だけどミニスカートみたいな着物着て、川辺を走るだけという感じで、全く所作(指導)はないんです。

NHKがはじめてのテレビドラマでしかも時代劇、なんにも分からなくて大変だったんです。

渡辺 金子さんも、倉本さんの元で修業しながら1、2本書かれて…。

金子 倉本さんの作品(72年「おはよう」TBS)でデビューしたんだけど、新聞で「金子の脚本は、倉本さんの作った世界を見事にこわした」と酷評されてしまい、一年ぐらいいつも書かずにいて、日活ロマンポルノの脚本公募に応募したら、採用され、映画制作されたんです。



それで、倉本さんの怒りが解けて、日本テレビ「太陽にほえろ！」を1本(74年12月3日

放送「銃弾」書いた。「大都会闘いの日々」

(倉本聰と石原プロの共同企画、76年6月)を1本書いてから、「大都会PARTⅡ」(77年)を数本書かせて貰いました。

渡辺 昔から連続ドラマはプロデューサーのものと言われ、プロデューサーが全体の構成を考え、作家を選んで、俳優をキャスティングして、演出家を決める。演出家はそれぞれ担当回を演出するというのが普通です。

ところが、風神の間では、プロデューサーとチーフ演出家が非常に鷹揚で、若い人に全部任せてくれました。だからキャスティングやドラマの構想も、初めから若い人が参加して作り上げたんです。

金子 今は民放各局スタッフが集まって台本について打合せを重ねて撮影に入る、というのは滅多に無いんです。

でも、あの頃は民放でも、夜中、若い演出家と脚本家が会議室に集まって、どうしよう、こうしようという意見を出し合ってた覚えがあります。

渡辺 箱根で合宿をしましたね。

金子 しました。直ぐ消えたりする超能力の忍者はやらない。その当時の人が持っている聴力、走力で出来ることをやろう。超能力で直ぐ簡単に消えたら、天下なんか直ぐ取っちゃいますよ(笑)。

渡辺 司馬遼太郎さんの初期作品には、忍者ものに伝奇小説的色彩があるので、超能力が出てくる。

ですから、超能力を禁じ手にしたドラマの方が、原作より絶対面白いという自信がありました。

また、原作では、才蔵は女とみれば直ぐ手を出す性格で、青子も隠岐殿もお国も出会い頭に男と女の関係になってしまふんですが、金子さんが人間らしく若者らしく、見事に造形

し直したんですね。

金子 主役が助平だと主婦層が嫌うんじゃないかと恐れたんです。才蔵に嫌悪感を抱かれたらオシマイですから。

渡辺 原作から言うとう、濡れ場が幾つかあっても不思議じゃ無いんだけど、23回にわたって一度も無かったですね。純愛で全部いきました。

三浦 純愛で良かったです(笑)。素の僕は助平だから、そう言うの出来ないで演じられたから良かったですよ、ホントに(笑)。

渡辺 キャスティングされた時は、どんな感じでした？

三浦 東京キッドブラザースで芝居をやつていましたが、ある時、主筆していた東田多加さんが「今日はNHKの方がいい見えるから頑張つてね！」みたいなこと言われて、「なんでNHKの方が来るのかな？」って思つていて、キャスティングで役者三浦浩一を見に来てるとは全然思っていなかった。

渡辺 新大久保の稽古場に行ったら、東さんが口立てで演出して、皆さん汗だくになって動



き回っていた。その時は主役と決まっていた見に行ったのか、記憶に無いんです。さっき、金子さんと話していたら、見に行ったあとで

決めた、らしいんです。

金子 名前は拳がついていだけれど、何をやるかは決まっていなかった。

渡辺 まさに、若い人がキャスティングまで参加していたチームだったんですね。

小野さんは、キャスティングされた時は、どうだったんですか？

小野 全然覚えていないんです。若駒(武道殺陣の劇団)の道場が先だったんです。

急に呼ばれて道場に行つて、端から端まで板の間の道場を前転して行くんです。マネージャーは、次のドラマのために、時代劇みたい

ですつて、と。あと、着物(着付け)と所作事、襖の開け閉め、歩き方、それに発声。発声は全然ダメでした、難しくて。

渡辺 小野さんには、ともかくお芝居をして貰わないと困るというので、みんな小野さんのところに特訓に行つていた。

小野 いろんなお稽古をして、ドラマに入る前が長かったんです。毎日が3種類の部活みたいな感じでした(笑)。

渡辺 動きの大きな動いているドラマにしよう、三浦さんを活かすには動きながら芝居をして台詞を言つて貰う。お国さんは、細かいことを言うより、「目の力」を活かして、それが撮れば何とかなる、と。

小野 えー！ 出来が悪くて本当にすみませんでした。

三浦 今日観させていたでいて、本当にお国の目の表情がたまらなく良かったですね。耐えている女、というのが…。

小野 本当ですか？！

三浦 本当、小野みゆきさんこんないい芝居していったんだー！って。

小野 まわりがベテランの方が多くて、すごいキチンとした芝居をなさる方が多いから、みんなよく(私に)腹を立ててなかったって、なん

とも申し訳ない気持ちだが、いま又、甦りました。
渡辺 人物の造形について、金子さんにもう一度、聞きますね。

原作では、才蔵はなんでもやっちゃうような男で、獅子王院は得体の知れない獣みたいな存在として描かれています。また、お国は二重スパイで、どっか途中で消えてしまう女性です。

この3人の造形を、どんな風に考えたんでしょうか？

金子 才蔵はともかく馬鹿に書こうと思った(笑)。独りよがりでも自分さえ楽しければいい。



だが、愛らしさが残っていないといけない。狙っていないが、ユーモアがある。馬鹿さ加減が、ほどよくいい加減な人物にしよう。それに振り回されるのが、お国でね。気分的に、振り回されたでしょう(と、小野さんへ)？

小野 振り回されたというか、(拗ねて)ちょっと嫌い、みたいになっちゃう。

金子 夫婦みたいに喧嘩しながら、結果的に長

持ちしちゃう、そういう二人にしようと思つた。

渡辺 原作では、隠岐殿と才蔵が、風神の門という戦乱の世をくり抜けて、旅立ちをするというのがラストです。

ドラマでは、才蔵とともに旅立つのをお国に変えました。

金子 ストレスを感じながら付き合っていくか、なきやならない中で、何か思いが醸成されて



行つたんだね。本当は楽な男だと、お国には最後に分かつたんだ。

獅子王院と青子は、ローマの休日をやろうと思つた。それは、うまく行つたような気がする。二人は、公家のお姫さまと忍びだから、破局へ向かつてずつと書いていた。

渡辺 金子さん、途中、構想を少しずつ変えていくようなことがありましたか？

金子 冷泉公裕さんが演じた、青子の屋敷の馬があんなに広がるのは考えずに、ただの執事のように描こうと思つたが、冷泉さんが面白いから、コメディリーレリーフみたいになつと惚けた味を足しました。

それと、さつき見た映像の中で、変な夫婦が出たでしょ、峯のぼるさん 国谷(くにや) 芙美子さん。勝手に作つただけで、二人はあと

あと出てくるんです。

渡辺 峯のぼるさんは東さんの劇団の先輩ですね。

三浦 そうです。峯さんと国谷さんは東京キックドラザーズの先輩で、お二人からいろんな精神的なものを教わつたんです。でもお二人、イイ味だしてましたね、たまにないスよね。

渡辺 太陽を切り捨てた才蔵が、独りカメラに向かつて走り続けるタイトルバックですが、実は全部埼玉県で作っています(笑)。

最初の画面の、太陽を模したマグマは、川口の鋳物工場の溶鉱炉でのアップでした。才蔵が走ってくるのは埼玉県の嵐山カントリークラブというゴルフ場、16番ホールから17番ホールへ走ってくる(爆笑)。

三浦 あれね、もう何回も何回も走つて、最後の最後がOKだったんです。何百メートルも



向こうから、ものすごい望遠のカメラで撮っているんです。ちよつとでも画面のワク(フレーム)から、僕が外れてしまうと、「ハイ！もう1回!!!」と声がかかる。走っている最中に、一回転んだりとか、そのたびに泥だらけになるんです。刀の柄が折れてしまつたりとか、だから衣装も替えて、刀も替えて、5回か6回走

つて、最後の最後にOKが出た。

渡辺 扇風機で落ち葉を散らして、そこをひたすら走る。

三浦 本当に最後の最後に決まつて良かったです。

渡辺 ロケ地は近郊の神奈川県でした。オープンセットがあつた生田(小田急線)やその周辺相模原や厚木あたり、街道は小田急線の柿生付近や、津久井湖の手前のところとか、矢櫃(やびつ)峠などに通つて行つた。

CGなんかない時代、広がりのある映像はロケで撮影することが多かった。東京の周辺は緑が多くて、まだ格好なロケ場所が沢山ありました。

ここで、才蔵とお国の最初の出会いをご覧下さい。場所は、京都八瀬の湯殿。いまで言うサウナ風呂です。姫様は隠岐殿のこと。才蔵さんは禪一つのヌードです(笑)。

〜映像の音声(一部)〜

才蔵(裸のまま)『失礼いたします、姫様とは？』

お国『何者！ 無礼者！』

お国『なぜ主人の湯殿に押し入つた！』

才蔵(そっぽを向いたまま)『残り香を頼りにここに来た、そしたらあの女がここにいた！』

まだ湯を浴びておらん』

才蔵『今の姫御料はいずれの方か？』

お国『申せません』

才蔵『亭主はおるのか？ 誰かの女房か？』

お国『いいえ』

才蔵『お主は？』

お国『くに』

才蔵『お国さんか…』

渡辺 どつちかと言つと、お国さんのほうが慌てていますね。

小野 これ、初めてのシーンで、台詞は少な

くても段取りが多くて…もう緊張して、出
口だと思つて壁に向かって突進して、「セッ
トを壊すか！ なにやっているんだっ！お
国！！」と、岡本チーフ演出に副調からスピー
カーで怒鳴られました。それぐらい緊張して
いて、何が何だか覚えていない。三浦さんの
お尻とか全然覚えていないし、そもそも才蔵
を見ていない！

渡辺 最後のカットで、才蔵の衣服を如何に
も汚らわしいもののように、ふいと放るのは
自然でいいですね…。

小野 もうちよつと、ちゃんとした昔の人の
ために、着物つて袂がめくれちゃいけないの
に、なんでもボンとやるから、いつも注意



されています。さよならする時も、袂がめ
くれないように（片方の手で）抑えるのを、
ガラガラつて出しちゃうから、そういう粗忽
な感じがバシバシ出ていて、本当に見苦し
い…。

渡辺 そこが普通の女性っぽくて、結局、最
後は平凡な幸せを才蔵と得るようなかたち
に、つながっているじゃないかと思えます。

小野 みんなに、私のことを普通だと言つて
下さい。私、見た目で本当に普通じゃないと
思われているんです。私、普通なんです。才
蔵さんとも恥ずかしくて口きいていないで

すよ、芝居でもずーっと。

獅子王院とは喋っているんですよ。けれど
才蔵さまとは全然喋ってないんです。恥ずか
しいし…何んか…。

渡辺 収録中、ズーっと？

小野 才蔵さんも喋らないから。

三浦 僕、撮影中に、共演者の方に台詞以外
に日常会話を交わした覚えがない。

小野 すごく大人しかったですよ。

三浦 大人しかったというか、僕も本当に緊
張していたから、周りが見えていなかった。
自分のことですから、よく分かります。

小野 本当に静かな人だなーって思つて、今
と全く違うから。（笑い）

三浦 今は喋れるようになったけど…。

小野 今の姿が信じられない、えー！ あん
なに喋んなかったのに！ そのぐらい大人
しい青年だったですよ。（笑い）

三浦 本当に喋んなかったよな。

小野 出合いの湯殿でも、全然喋ってないん
です。

三浦 だから、そのままきこえない感じが、
お国と才蔵には出ている。普段こんな風に喋
っていたら、そういう風にはならない。

渡辺 大河ドラマと違って、制作費が多くな
いから、エキストラの数も少なくて、撮影に
苦労しました。会場に、撮影の曾我部さんが
いらしてます（立った曾我部さんを紹介す
る）。（拍手）

曾我部 物語の後半で合戦シーンが入って来
まして、台本の書きに「大軍団が進んで行
く」というのがある。でも、お金が無いから
エキストラが5、6人しかいなかった。（笑い）
スタジオだと、カメラが2台あって、長玉で
ずっと向こうから若武者が5人から6人で
「わっ！」と来て、カメラ際にやられて、
パンと倒れる。倒れた人は直ぐに衣装をち

よつと変えて、次のカメラに向かって走つて
行つて、又倒れる。又立つて、カメラに向か
つて倒れる…これを何回もやって、彼らの
最後の仕事は、動かなくなってバタツと倒れ
死体になる。

渡辺 当時出来たばかりのクレーンカメラと
いうのがあって、死屍累々と、5、6人を撮
る。カメラに撮られ、カメラが行きすぎると、
過ぎた死体は直ぐ起き上がって、少し先に倒
れる、とカメラがパンをする、すると5人
が10人になる（笑い）。スタツフもキャスト
も若かったから、みんな面白がつて、そんな
撮り方でやりましたね。CGとか、デジタル
加工がまだ出来ない時代だからこそその工夫
でしたね。

三浦 印象に残っているのは、土遁（どとん）



の術。渡辺さんの演出回で、土の中に埋めら
れる。水の中に顔を付けて死体になるとい
うのはあったけど、土の中に埋められるのは初
めての経験だったから、怖かったんですよ。
監督さんが「本番！」つて言つて、助監督
さんの「ハイ！ カメラ回りました5秒前！」
のギリギリで、スタツフさんが寝ている僕の
顔に、最後、土を被せるんです。それから
本番になって起き上がるんだけど、その間、
土を被せられている間がすごく怖くて、それ
は覚えてますね。

渡辺 そうとは知らず…やらせたんですよ、
大変、失礼しました。

三浦 いやいや…でも、本当に面白い体験
をさせて貰いました。

渡辺 話が変わりますが、お二人の時代劇体
験を教えてくださいませんか。

三浦 小さい頃から、映画を見ました。

渡辺 50年代から60年代、東映時代劇の片
岡千恵蔵、市川歌右衛門、中村錦之助、伏見
扇太郎、ですか。

三浦 そうですね。東京に来てからは、歌舞
伎座と落語の寄席に通つたりしてまして、時
代劇の言葉遣いを、勉強しようと思つたわけ
じゃなくて、好きで通つていたのが役に立つ
たようですね。

渡辺 テレビでは63年に大河ドラマが始ま
つて…。

三浦 大河は見てました。尾上松緑さんの
「花の生涯」。

渡辺 大河第2作ですね。

三浦 でも、水戸黄門は見てなかったですね。

小野 私も、洋画を見ていたから、全然見て
ないです。祖母が見ていた水戸黄門は決まり
きつた話がつまらなくて、見てないですね。

渡辺 そういう意味で言うと、時代劇を経験
してなかった人が新しい青春時代劇と取り
組んだことで、逆に面白くなったんですね。

傘亭 そう思います。私も時代劇を作ろうな
どとは思わなかった。

良かったのは、舞台設定が江戸時代に入る
前の戦国で、決まり事が余り無い時代です。
身分差はあるけれど、表立つて描かなくても
済むという、割と自由に書ける時代で、僕に
は書きやすかったです。

しかも登場人物が忍者でしよ、どうにでも
なるし、直線的で元気だから余計描きやすい。
渡辺 台詞がとて短く端的で、もたもたし

ない面白さがありました。

(客席へ)「この中で、放送で風神の門を見てらした方はどのくらいいらつしやいますか? 手を上げて頂くと…結構、いらつしやいますね。ありがとうございます。」

当時、番組の反響は手紙や葉書で、直接、番組制作現場へ来ました。中学生、高校生からの手紙が多く、どうやらクラスの中では最良が才蔵・お国派と獅子王院・青子派に分かれて、それぞれ最良を競っているようでした。

金子 獅子王院と青子派、人気の秘訣は「ひたむきさ」だと思う。仇(敵)だが、「奴だつて人間だぜ」というただのワルじゃない、ひたむきに青子(樋口可南子)への思いを最後まで貫く…。いじらしいと言えはいじらしい。

渡辺 青子が最後に呼び捨てで、「獅子」というのが印象的でした。

金子 名前を呼ばれるだけで、嬉しいんだよ。(笑)

渡辺 ここで、最終回(23話)のラスト5分をご覧下さい。風神の門というまがまがしい競争の世界をぐり抜けたあとの二人です。

〜映像の音声(一部)〜

お国「大阪へはもどられませんか?」

才蔵「遊女屋になつてもいいのか?」

お国「それだけはおやめ下さい」

才蔵「笑」

お国「いざこへ参ります」

才蔵「あてもなく雲の流れるままに行くのもいいな…どうだ?」

お国「はい、いざれへなりとも…」

才蔵、うなずくお国に顔を寄せ抱こうとするが、お国に頬を引つ叩かれる。

渡辺 才蔵の間抜けっぽいところがラストシ

ーでも出ましたね。

金子 最初に、湯殿で馬鹿さが出てくるから、それ(馬鹿さ)で閉めないとうとうしようも無いと、考えていました。(馬鹿さの芝居は)ここが一番、いいね。

三浦 いやー、本当にもう…。

渡辺 撮影は半年間でしたが、皆さんにとって「風神の門」はどうだったのでしょうか?

三浦 映像の世界では、「風神の門」に出会っていないければ、いまの僕はないと思います。



金子さんのおかげだし、スタッフさんのおかげだし、本当に力のある大先輩の俳優さんたち大勢を支えて貰えたおかげで、今も僕はやれているなっと思っています。

この作品は役者としても、人間としても、原点の作品だと思っています。(大拍手)

渡辺 はい、ありがとうございます。

小野 いとおしくて、かけがえない作品です。今回、我が家で23回全部見てしまったんですが、最後の獅子王院と青子の別れのシーン、無理ですよ、見てられないん(涙で絶句)…。

三浦 あの二人は、泣けるよね。

小野 私にはある種、青春の1ページのような作品でした。会場のみなさんも、私と同じようにある種、青春の1ページだったかも知



れないと思います。そういう思いを皆さんと共有できたこと、40数年ぶりなのにわざわざ足を運んで下さったこと、本当に心から感謝いたします。ありがとうございます。(大拍手)

渡辺 獅子王院のラストカットは、才蔵とお国の旅立ちを陰で見守っているんですが、金子さんはどう考えて作られたんですか?

金子 今までの生き方、何かに縛られていくというのが如何に窮屈かを思い知ったんです。そうするとね、たとえ忍びをやめても猟師とか何かで、独りで生きて行く道を見つけて行く男です。もう組織について動こうという気はほぼ無い。

渡辺 獅子王院は、悩ましい奴ですね。

金子 恋をしたことで一皮むけたんだね。

渡辺 はい、ありがとうございます。(会場から質問を受ける)

男性 小学生の時に見ました。その9年後に、民放の「風雲真田幸村」で、再び霧隠才蔵を演じています。才蔵は自分の持ち役だという感覚はあるんですか?

三浦 ずーっと僕が生きている間は、霧隠才蔵は他の人にやらせたくないって、マジで思っていました。そしたら、テレビ東京の「風雲真田幸村」で、また才蔵の役が来まして「しめ

た!」って思いました。本当によくぞ又この役をくれたなって。未だにこの歳になつても、才蔵を他の人にはやらせたくないって思つたりもします。(拍手)

渡辺 金子さん、生き残った人たちの後日談というのをドラマに出来ませんか?

大坂夏の陣から30年、40年経った明暦に時代を移して、お国と才蔵がどういう生き方をしているのか? 獅子王院は今どこで何をしているか、見たいですね。金子さん。

金子 今の自分を投影できるから、それは面白くなるね。皆さん、今の歳、相応の悲しみも可笑しみも書けるね。

渡辺 ぜひ、あらたな後日談の物語を金子さんに期待して(笑)、ちよんど時間で。ゲストの皆さん、会場の皆さん、本日はどうもありがとうございます。(大拍手)

放送人タラシイロー3

投票締め切りは、

3月17日(金)です。

訃報

北川泰三(きたがわ たいぞう)

二〇二二年10月26日急性心不全のため永眠享年88。

同志社大学卒、KBS京都(京都放送)入社。ラジオ・ドキュメンタリー…K少年院の記録「ピートシガーに似た男」三派会字連のへの公開質問状」ほか。

テレビ中継…U局ネット「祇園祭山鉾巡行絵巻」退社後、京都文化短期大学助教授を経て、京都学園大学(現・京都先端科学大学)人間文化学部文化コミュニケーション学科教授。

著書：『テレビ映像論』（97年）。学芸・日本放送芸術学会理事、日本広告学会評議員ほか

荻野 慶人（おぎの けいじん）

二〇二三年2月4日多臓器不全のため永眠、享年91。

早稲田大学第一文学部英文学専修を経て、55年、宝塚映画製作所入社。58年6月より讀賣テレビ放送入社。テレビドラマの演出を経て、取締役制作局長、編成局長、シナリオ委員会委員長。00年6月退職。

主な作品：「大阪野郎 第一部『こてばん』」「けつたいな奴」「河内カルメン」「道頓堀」「暖流」「霜降山殺人事件」「女たちの大阪城」ほか。

放送人の会・第10期総会と

放送人グランプリ2023贈賞式パーティーを開催します。

会員の皆さまは、是非ともご参加下さい。

5月20日（土）

会場：千代田放送会館2Fスタジオ

午後1時30分～3時 総会／理事大会

午後3時～ グランプリ贈賞式

午後5時30分～受賞者を囲むパーティー

場所：1F千代田ラウンジ

会費：5千円

総会・贈賞式は、年に一度の当会の重要な行事です。

また、受賞者を囲むパーティーは、これまで3年にわたり実施できませんでした。放送人の仲間として贈賞、受賞を喜びあい、懇親する良い機会となるものです。

このパーティーに参加して5千円をお支払いいただくことは、逼迫する当会の財政に寄与する大事な機会ともなります。皆様のご協力を期待しています。よろしくお願ひします。

（グランプリ贈賞委員会より）

理事候補の投票締め切りは、

4月18日（火）です。

第88回放送人句会

2023年4月11日（火） 麦屋

兼題 栄螺 春日傘 山桜

（業界用語）ランスルー

編集後記 ▼97号のお詫ごと訂正

お一人のお名前前に誤りがありました。大変申し訳ありません、お詫びして訂正いたします。

* 11頁2段目・中頃の見出し

誤：赤城玉緒 正：赤江玉緒

* 32頁2段目・最後の行と3段目・写真

誤：岡村美奈子 正：岡室美奈子

▼97号が分厚くなり、名作の舞台裏が別冊となりました。お許し下さい。▼KADOKAWAの「週刊ザテレビジョン」が3月1日発売の最終号で休刊となった。創刊は40年と半年前の82年9月22日。カラーグラビアなどを多くして購読層を10代から30代に絞ったテレビ情報誌だった。▼すでに創刊20周年だった東京ニュース通信社の「週刊テレビガイド」を追いかけて、やがてテレビ情報誌2強時代が始まる。▼82年、僕は3月に朝ドラ「本日も晴天なり」の演出を終えて、ドラマ人間模様班で灰谷健次郎原作の「太陽の子」の制作に入っていた。放送1ヶ月前に、朝ドラのデスクTさんから、巻末に見開きで演劇の写真と観劇記が載る。創刊号は俺が書いた。次はお前が書けと言ってきた。▼将来の投資家と、頑張つて時間をひねり出して書いたが、その後、ザテレビジョンの恩恵は殆ど無かった。地味な作風は見向きもされなかったようだ。（たかゆき）

会員名簿

2023.02.23 現在

- 【あ】 藍澤幸久 相田洋 相本芳彦 青木裕子 青山悌三 秋田和典 雨宮望 新井和子 【い】 池田正之 石井彰 石井ふく子 石田研一 石橋映里 石橋冠 石原信和 磯智明 板谷駿一 市岡康子 市川哲夫 市村元 伊藤博文 井上佳子 今井義典 芋原一善 岩澤敏 岩瀬弥永子 【う】 上村忠 浮田周男 臼杵敬子 【え】 江川雄一 江口展之 遠藤利男 遠藤雅充 【お】 大池雅光 大川光行 大沢悠里 太田昌宏 大類なごさ 緒方陽一 岡田裕克 岡野真紀子 岡室美奈子 岡本勉 小川治 小川和之 小原正巳 尾田晶子 織田晃之祐 【か】 加賀美幸子 柏木登 片岡敬司 加藤滋紀 加藤拓 加藤義人 金平茂紀 川平朝清 鎌内啓子 亀谷弘美 軽部淳 川喜田尚 川淵恵子 河邑厚徳 【き】 北川信 北出晃 北村美憲 北村充史 木下浩一 木原毅 木村成忠 【く】 工藤英博 隈部紀生 訓覇圭 黒崎博 黒沢淳 【こ】 小池勝次郎 河野尚行 小玉滋彦 後藤和晃 小山帥人 近藤邦勝 今野勉 【さ】 斎藤秀夫 斎明寺以玖子 寒河江正 坂元良江 桜井元 佐々木彰 佐々木光政 佐藤敦 佐藤幹夫 佐藤理恵子 佐野有利 【し】 塩田純 重延浩 重村一 重盛政史 静永純一 柴田陽一郎 清水誠 志村一隆 下崎寛 下重暁子 下村幸子 白井博 新山賢治 【す】 菅野高至 菅野嘉則 杉田成道 鈴木俊樹 鈴木典之 鈴木弘貴 鈴木芳夫 鈴木嘉一 須磨章 【せ】 清野豊 関佳史 せんぼんよしこ 【そ】 曾根英二 【た】 高島秀之 高田宏 竹中一夫 田澤正稔 多田健 田中秋夫 田中直人 田中典子 田中則広 【ち】 千葉邦彦 【つ】 塚原あゆ子 塚本茂 塚本幹夫 辻本昌平 土屋敏男 つボイノリオ 露木茂 鶴橋康夫 【と】 東城祐司 戸田桂太 富沢一誠 豊原隆太郎 鳥谷規 【な】 長井展光 中込卓也 中崎清栄 中島僚 中島由貴 永田浩三 永田俊和 永野敏一 中町綾子 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村芙美子 中山和記 並木章 【に】 新村もとを 西憲彦 西村与志木 仁藤雅夫 二宮文彦 【ぬ】 沼田通嗣 【の】 延江浩 信井文夫 【は】 萩原豊 林健嗣 林安二 原田令嗣 【ひ】 日笠昭彦 玄武岩 【ふ】 深尾隆一 藤井チズ子 藤井正博 藤久ミネ 藤村忠寿 古川重樹 【へ】 逸見京子 【ま】 前川英樹 牧之瀬恵子 増山麗央 松尾羊一 松田幸雄 黛りんたろう 丸山友美 【み】 三上義智 光原朋秀 三原治 三村景一 三村千鶴 宮崎洋 宮川鏡一 【む】 村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】 本木敦子 元田成 諸橋毅一 【や】 八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山鹿達也 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 山根基世 山登義明 【よ】 吉澤保 吉田賢策 吉村豪介 吉村直樹 【わ】 和崎信哉 渡辺浩平 渡辺紘史

【賛助会員】 日本民間放送連盟 TBSメディア総合研究所 融合研究所 日本ケーブルテレビ連盟